

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

岐阜薬科大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

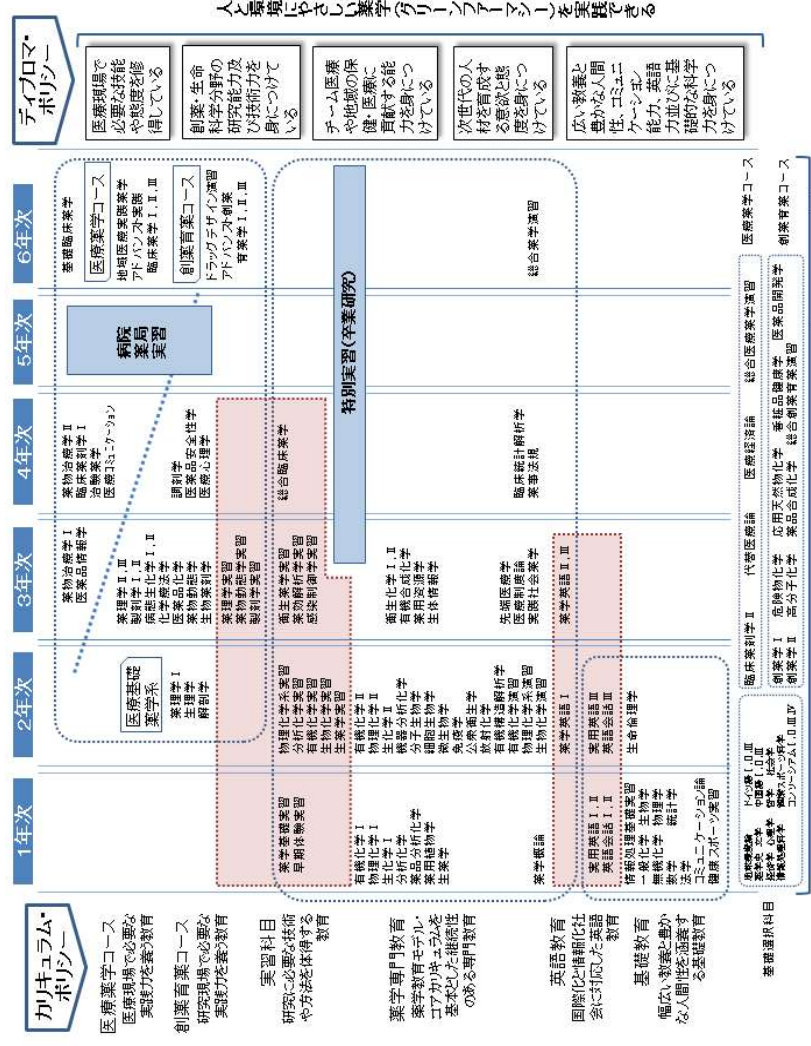
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	6 4
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	6 8
基礎資料 5	教員・職員の数	5	6 9
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	7 0
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	7 1
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	8 9
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	9 0
基礎資料10	学生の健康管理	6	2 1 5
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	2 1 6
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	2 1 8
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	2 1 9

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的と科目の順次性(学年・学期進行による学習順序)がわかるような図を示してください。



ヒューマニズム・エロロジ教育

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選))をつける。実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項							
(1) 薬剤師の使命							
【①医療人として】							
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)				総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)				総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)		薬学概論 早期体験実習		総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)		早期体験実習			医療心理学		
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)					医療心理学		
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)				総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		薬学概論		総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
【②薬剤師が果たすべき役割】							
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)		薬学概論		総合医療薬学演習(選) 総合創薬育薬演習(選)			
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。		早期体験実習		実践社会薬学	調剤学		

3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	早期体験実習			実践社会薬学 医療制度論 先端医療学	医薬品安全性学 調剤学		
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。				医薬品情報学			
5) 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。	有機化学 I 薬学基礎実習 早期体験実習	有機化学実習		有機合成化学 調剤学 II 実践社会薬学 医療制度論 製剤学 II	試験薬学 調剤学		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。				実践社会薬学 医療制度論	調剤学		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)			
8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）	薬学概論 経済学(選)			総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)			
【3】患者安全と薬害の防止							
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）	薬学概論			総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)			
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	薬学概論			医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)			
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				医療制度論	医薬品安全性学		
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				医療制度論 先端医療学			
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）				先端医療学	医薬品安全性学		
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。				生物薬剤学 医療制度論	医薬品安全性学 試験薬学 調剤学		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）					医薬品安全性学 試験薬学 調剤学		

【④薬学の歴史と未来】		薬用植物学	医療制度論	治療薬学 調剤学	
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。			医療制度論 (選)	治療薬学 調剤学	
	2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論 生薬学	医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 応用天然物化学 (選) 総合創薬育薬演習 (選)		
			医療制度論		
		薬学概論	総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)		
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)					
(2) 薬剤師に求められる倫理観					
【①生命倫理】					
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)		生命倫理学	薬物治療学 I	薬物治療学 II	
	2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学概論	生命倫理学	医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習	
			生命倫理学	薬物治療学 I	薬物治療学 II
			生命倫理学	医療制度論	
【②医療倫理】					
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。		生命倫理学	医療制度論	治療薬学	
	2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。		医療制度論	治療薬学 薬事法規	
		薬学概論	生命倫理学	医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習	治療薬学
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。					
【③患者の権利】					
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)				治療薬学 医薬品開発学 (選)	
	2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。		薬物治療学 I	薬物治療学 II 治療薬学 医薬品開発学 (選)	
				薬物治療学 I 薬物治療学 I 医療制度論	医薬品安全性学 治療薬学 薬物治療学 II 調剤学 医薬品開発学 (選)
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。					

<p>4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)</p>				<p>治験薬学 調剤学 医薬品開発学 (選)</p>		
【④研究倫理】						
<p>1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。</p>			<p>医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)</p>	<p>治験薬学 調剤学</p>		
<p>2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。</p>	<p>薬学概論</p>		<p>医療制度論 総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)</p>	<p>治験薬学</p>		
<p>3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)</p>	<p>薬学概論</p>		<p>総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)</p>			
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
<p>1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。</p>	<p>コミュニケーション論</p>			<p>医療コミュニケーション</p>		
<p>2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。</p>	<p>コミュニケーション論</p>			<p>医療コミュニケーション ドラッグデザイン演習 (選)</p>		
<p>3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。</p>	<p>コミュニケーション論</p>			<p>医療コミュニケーション</p>		
<p>4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。</p>	<p>コミュニケーション論、経済学 (選)</p>			<p>医療心理学</p>		
<p>5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</p>	<p>コミュニケーション論</p>			<p>医療心理学</p>		
<p>6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</p>	<p>コミュニケーション論</p>					
<p>7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</p>	<p>コミュニケーション論</p>					
<p>8) 適切な手役により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</p>	<p>コミュニケーション論</p>					
<p>9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</p>	<p>コミュニケーション論 早期体験実習</p>					

【②患者・生活者と薬剤師】		医療心理学	
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。			
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)			
【④多職種連携協働とチーム医療】			
1) 医歴、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。		実証社会薬学 医療制度論	調剤学
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。		実証社会薬学 医療制度論	調剤学
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。		実証社会薬学 医療制度論	調剤学
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	情報処理科学(選)		総合臨床薬学
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	薬学基礎実習、情報 処理科学(選)	有機化学実習	総合臨床薬学
【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】			
【①学習の在り方】			
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学的進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学概論、情報処理 科学(選)、経済学 (選)	総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)	総合臨床薬学
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	情報処理基礎実習、 情報処理科学(選)	薬学英語Ⅲ	総合臨床薬学
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	薬学概論 情報処理基礎実習 情報処理科学(選)	総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)	総合臨床薬学
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	薬学概論 情報処理基礎実習 情報処理科学(選)	総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選)	総合臨床薬学
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報処理基礎実習 情報処理科学(選)		特別実習
【②薬学教育の概要】			
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。		医療制度論	
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学概論	総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育薬演習 (選) 特別実習	特別実習
【③生涯学習】			

1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	有機化学 I 薬学基礎実習 経済学 (選)	有機化学実習	有機合成化学 薬物治療学 I 特別実習	薬物治療学 II 特別実習	特別実習
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	情報処理基礎実習				特別実習
【④次世代を担う人材の育成】					
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)					特別実習
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)					特別実習
B 薬学と社会					
(1) 人と社会に関わる薬剤師					
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	経済学 (選)		医療制度論		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	薬学概論		総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育葉演習 (選)		
3) 人・社会の観点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)	薬学概論		総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育葉演習		
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	薬学概論		総合医療薬学演習 (選) 総合創薬育葉演習 (選)		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)			医療制度論		
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範					
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】					
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学	
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学	
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				薬事法規 調剤学	
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。				薬事法規	
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事法規	
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事法規	
7) 個人情報取扱いについて概説できる。				薬事法規	
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。			医療制度論	薬事法規	
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】					
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。			有機合成化学 創薬学 I (選)	医薬品安全性学 薬事法規 医薬品開発学 (選)	

2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規制について概説できる。				製剤学Ⅱ 薬理社会薬学 医療制度論 創薬学Ⅰ(選)	薬事法規 治験薬学 創薬学Ⅱ(選) 医薬品開発学(選)		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。				製剤学Ⅱ 薬理社会薬学 医療制度論 創薬学Ⅰ(選)	薬事法規 治験薬学 創薬学Ⅱ(選) 医薬品開発学(選)		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規制について説明できる。				製剤学Ⅱ 医療制度論 有機合成化学 創薬学Ⅰ(選)	薬事法規 治験薬学 医薬品開発学(選)		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				医療制度論	医薬品安全性学 薬事法規 調剤学 医薬品開発学(選)		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規制について説明できる。					薬事法規		
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				有機合成化学	薬事法規 調剤学		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。		薬品分析化学			薬事法規 調剤学		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規制について説明できる。					薬事法規		
10) 健康被害救済制度について説明できる。				医療制度論	医薬品安全性学 薬事法規 調剤学		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				薬理社会薬学 医療制度論 創薬学Ⅰ(選)	治験薬学 調剤学 医薬品開発学(選)		
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規制】							
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	薬用植物学				薬事法規 調剤学		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	薬用植物学				医薬品安全性学 薬事法規 調剤学		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	薬用植物学			危険物化学(選)	薬事法規 調剤学		
(3) 社会保障制度と医療経済							
【①医療、福祉、介護の制度】							

1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	経済学 (選)		医療制度論	薬事法規 調剤学		
2) 医療保険制度について説明できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学		
3) 療養担当規則について説明できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学		
4) 公費負担医療制度について概説できる。	経済学 (選)		医療制度論	薬事法規 調剤学		
5) 介護保険制度について概説できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学		
6) 薬価基準制度について概説できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学 医薬品開発学 (選)		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			医療制度論	薬事法規 調剤学		
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	経済学 (選)		実践社会薬学 医療制度論	薬事法規 医薬品開発学 (選)		
2) 国民医療費の動向について概説できる。	経済学 (選)		実践社会薬学 医療制度論	薬事法規 医薬品開発学 (選)		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。			医薬品化学 調剤学 I 実践社会薬学 医療制度論	薬事法規 調剤学 医薬品化学 製剤学 I 医薬品開発学 (選)		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。			医療制度論	薬事法規		
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。			医療制度論 実践社会薬学	調剤学		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。			医療制度論 実践社会薬学	薬事法規 調剤学		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			医療制度論 実践社会薬学	調剤学		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。			医療制度論 実践社会薬学			
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。			医療制度論 実践社会薬学			
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。			医療制度論 実践社会薬学			
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						

1) 地域包括ケアの理念について説明できる。									
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。									調剤学
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。									
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				経済学 (選)					
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識、態度)									医療制度論 実践社会学
C 薬学基礎									
G1 物質の物理的性質									
(1) 物質の構造									
【①化学結合】									
1) 化学結合の様式について説明できる。	物理化学 I				有機化学 II 物理化学系演習				危険物化学 (選)
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	無機化学、物理化学 I				有機化学 II 物理化学系演習				
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	物理化学 I				有機化学 II				
【②分子間相互作用】									
1) ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学 I				物理化学 II 物理化学系演習				医薬品化学 高分子化学 (選)
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学 II 物理化学系演習				医薬品化学 高分子化学 (選)
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学 II 物理化学系演習				医薬品化学
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習				医薬品化学
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習				医薬品化学 高分子化学 (選)
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習				医薬品化学
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習				医薬品化学 高分子化学 (選)
【③原子・分子の挙動】									
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習 有機構造解析学				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	物理化学 I				物理化学系演習 有機構造解析学				
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。					有機構造解析学				

4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。									
5) 光の散乱および干渉について説明できる。								有機構造解析学	
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。								有機構造解析学	
【④放射線と放射能】									
1) 原子の構造と放射線変化について説明できる。	無機化学							放射化学	
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。								放射化学 物理化学系実習	
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。								放射化学	
4) 核反応および放射平衡について説明できる。								放射化学 物理化学系実習	
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。								放射化学 物理化学系実習	
(2) 物質のエネルギーと平衡									
【①気体の微視的状態と巨視的状態】									
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 I								
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 I								
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学 I							物理化学系演習	
【②エネルギー】									
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。								物理化学 II 物理化学系演習	
2) 熱力学第一法則を説明できる。								物理化学系演習	
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。								物理化学 II	
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。								物理化学 II	
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。								物理化学 II	
6) エンタルピーについて説明できる。	分析化学							物理化学 II 物理化学系演習	
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	分析化学							物理化学 II 物理化学系演習	
【③自発的な変化】									
1) エントロピーについて説明できる。	分析化学							物理化学 II 物理化学系演習	
2) 熱力学第二法則について説明できる。								物理化学 II 物理化学系演習	
3) 熱力学第三法則について説明できる。								物理化学 II 物理化学系演習	
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	分析化学							物理化学 II 物理化学系演習	
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	分析化学							物理化学 II 物理化学系演習	
【④化学平衡の原理】									
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。								物理化学 II	

2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	分析化学	物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	分析化学	物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
4) 共役反応の原理について説明できる。		物理化学Ⅱ				
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習 物理化学系実習				
3) 状態図について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習			製剤学Ⅰ 製剤学Ⅱ	
2) 活量と活量係数について説明できる。	分析化学	物理化学Ⅱ				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	分析化学	物理化学Ⅱ				
4) イオン強度について説明できる。	分析化学	物理化学Ⅱ				
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	分析化学	機器分析化学				
2) 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。	分析化学	機器分析化学				
(3) 物質の変化						
【⑧反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習 物理化学系実習			製剤学Ⅰ	
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学Ⅱ 物理化学系実習 物理化学系実習				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅱ 物理化学系実習 物理化学系実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅱ 物理化学系実習			製剤学Ⅰ	

7)	代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。								
C2 化学物質の分析									
(1) 分析の基礎									
【①分析の基本】									
1)	分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）								
2)	測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）	薬品分析化学							
3)	分析法のバリデーションについて説明できる。	機器分析化学 分析化学実習							
(2) 溶液中の化学平衡									
【①酸・塩基平衡】									
1)	酸・塩基平衡の概念について説明できる。	無機化学、分析化学	分析化学実習						
2)	pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）	無機化学、分析化学	分析化学実習						
3)	溶液の pH を測定できる。（技能）	無機化学、分析化学	分析化学実習						
4)	緩衝作用や緩衝液について説明できる。	無機化学、分析化学	分析化学実習 有機構造解析学						
【②各種の化学平衡】									
1)	錯体、キレート生成平衡について説明できる。	分析化学	分析化学実習						
2)	沈殿平衡について説明できる。	分析化学	分析化学実習						
3)	酸化還元平衡について説明できる。	分析化学	分析化学実習						
4)	分配平衡について説明できる。	分析化学	物理化学系実習 物理化学系演習						
(3) 化学物質の定性分析・定量分析									
【①定性分析】									
1)	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。								
2)	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬学基礎実習	有機化学実習、物理化学系演習						
【②定量分析（容量分析・重量分析）】									
1)	中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理化学系実習 物理化学系演習 分析化学実習						
2)	キレート滴定の原理、操作および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理化学系演習 分析化学実習						
3)	沈殿滴定の原理、操作および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理化学系演習 分析化学実習						
4)	酸化還元滴定の原理、操作および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理化学系演習 分析化学実習						
5)	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）	薬品分析化学	物理化学系演習 機器分析化学 分析化学実習						

6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬学基礎実習 薬品分析化学	有機化学実習 放射化学					
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	薬品分析化学	物理化学系演習	製剤学 I				
【④ 機器を用いる分析法】							
【①分光分析法】							
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 有機構造解析学	薬用資源学				
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 有機構造解析学					
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 有機構造解析学	薬用資源学				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 機器分析化学					
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		物理化学系実習 物理化学系演習	薬用資源学				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)			製剤学実習				
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】							
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 有機構造解析学	先端医療学 薬用資源学 応用天然物化学 (選)				
【③質量分析法】							
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		物理化学系演習 機器分析化学 有機構造解析学	薬用資源学				
【④X線分析法】							
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。	生化学 I	有機構造解析学	製剤学 I				
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		有機構造解析学	製剤学 I				
【⑤熱分析】							
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		機器分析化学	製剤学 I				
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		機器分析化学	製剤学 I				
(5) 分離分析法							
【①クロマトグラフィー】							
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		物理化学系演習 機器分析化学 分析化学実習					
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	薬学基礎実習	有機化学実習 物理化学系演習 機器分析化学	薬用資源学				

3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。					薬用資源学			
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。								
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	薬学基礎実習							
【②電気泳動法】								
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	生化学 I							
(6) 臨床現場で用いる分析技術								
【①分析の準備】								
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。								
2) 臨床分析における精製管理および標準物質の意義を説明できる。								
【②分析技術】								
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。								
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。								病態生化学 I
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。								病態生化学 I
4) 代表的なドラッグモニターについて概説できる。								
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。								
53 化学物質の性質と反応								
(1) 化学物質の基本的性質								
【①基本事項】								
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	一般化学 有機化学 I							
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	一般化学 薬学基礎実習							
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	一般化学							
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	一般化学 有機化学 I							
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	一般化学、無機化学 薬学基礎実習							
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	一般化学、有機化学 I							
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	一般化学 有機化学 I							

8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学 II 有機化学演習	危険物化学 (選) 薬品合成化学 (選)		
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II 有機化学演習	有機合成化学 危険物化学 (選) 薬品合成化学 (選)		
【②有機化合物の立体構造】					
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習 有機化学実習			
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習 有機化学実習			
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学		
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学		
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	一般化学 有機化学 I	有機化学演習			
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学 II 有機化学演習	有機合成化学 薬品合成化学 (選)		
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	一般化学 有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学		
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	一般化学	有機化学演習			
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応					
【①アルカン】					
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	一般化学	有機化学演習	危険物化学 (選)		
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	一般化学	有機化学演習			
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習			
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	一般化学 有機化学 I	有機化学演習			
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	一般化学 有機化学 I	有機化学演習			
【②アルケン・アルキン】					
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学 危険物化学 (選)		
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学 危険物化学 (選)		
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学演習	有機合成化学		
【③芳香族化合物】					
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学 II 有機化学演習	有機化学 II 有機化学演習	薬品合成化学 (選)		

2) 芳香族性の概念を説明できる。			有機化学Ⅱ 有機化学演習	薬品合成化学(選)			
3) 芳香族炭水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。			有機化学Ⅱ 有機化学演習	薬品合成化学(選)			
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			有機化学Ⅱ 有機化学演習	薬品合成化学(選)			
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。			有機化学Ⅱ 有機化学演習	薬品合成化学(選)			
(3) 官能基の性質と反応							
【①解説】							
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	一般化学		有機化学Ⅱ 有機化学演習	有機合成化学 危険物化学(選) 薬品合成化学(選)			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)			有機化学実習				
【②有機ハロゲン化合物】							
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学 有機化学Ⅰ		有機化学演習	有機合成化学 薬品合成化学(選)			
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	一般化学 有機化学Ⅰ		有機化学演習 有機化学実習	有機合成化学			
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	一般化学 有機化学Ⅰ		有機化学演習				
【③アルコール・フェノール・エーテル】							
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学、有機化学 Ⅰ、薬学基礎実習		有機化学演習 有機化学実習	有機合成化学 危険物化学(選)			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学 有機化学Ⅰ		有機化学演習	有機合成化学			
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】							
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学		有機化学Ⅱ 有機化学演習 有機化学実習	有機合成化学 薬品合成化学(選)			
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学		有機化学Ⅱ 有機化学演習	有機合成化学 危険物化学(選) 薬品合成化学(選)			
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学		有機化学Ⅱ 有機化学演習	有機合成化学 危険物化学(選) 薬品合成化学(選)			
【⑤アミン】							
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	一般化学		有機化学Ⅱ 有機化学演習 有機化学実習	有機合成化学 薬品合成化学(選)			
【⑥電子効果】							

1) 官能基が及ぼす電子効果 について概説できる。				有機合成化学 薬品合成化学 (選)		
【⑦酸中性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸中性度を比較して説明できる。				有機合成化学 薬品合成化学 (選)		
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。	無機化学			有機合成化学 薬品合成化学 (選)		
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。				有機合成化学 薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。				有機合成化学 応用天然物化学 (選)		
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。				有機合成化学 応用天然物化学 (選)		
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。				有機合成化学 応用天然物化学 (選)		
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)				有機合成化学 応用天然物化学 (選)		
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。				有機合成化学 薬用資源学		
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。				薬用資源学		
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)						
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。						
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【④総合演習】						

1)	代表的な機器解析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)					物理化学系演習 有機構造解析学		
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質								
【①無機化合物・錯体】								
1)	代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	無機化学	物理化学					
2)	代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学						
3)	活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					危険物化学(選)	
4)	代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	無機化学						
5)	医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	無機化学						
C4 生体分子・医薬品の化学による理解								
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質								
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】								
1)	代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づき化学的性質を説明できる。	生化学 I				分子生物学 生物化学演習	医薬品化学	
2)	医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生化学 I				生物化学演習	医薬品化学	ドラッグデザイン演習(選)
【②生体内で機能する小分子】								
1)	細胞受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。						生物薬剤学	
2)	代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。							
3)	活性酸素、一酸化窒素の構造に基づき生体内反応を化学的に説明できる。	無機化学						
4)	生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	無機化学						
(2) 生体内反応の化学による理解								
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】								
1)	リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。	無機化学				有機化学 II		
2)	リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。	無機化学				有機化学 II		
【②酵素阻害剤と作用様式】								
1)	不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。						生物薬剤学	
2)	基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						生物薬剤学	
3)	遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						生物薬剤学	
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】								
1)	代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。							ドラッグデザイン演習(選)
2)	低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。							ドラッグデザイン演習(選)
【④生体内で起こる有機反応】								
1)	代表的な生体分子(脂防酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。					有機化学 II		
2)	異物代謝の反応(発がん性物質などの代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。					有機化学 II		

(3) 医薬品の化学構造と性質、作用			
【①医薬品と生体分子の相互作用】			
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。		医薬品化学	ドラッグデザイン演習(選)
【②医薬品の化学構造に基づく性質】			
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。		医薬品化学	
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。		医薬品化学 製剤学Ⅰ	ドラッグデザイン演習(選)
【③医薬品のコンポーネント】			
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。		医薬品化学 創薬学Ⅰ(選)	ドラッグデザイン演習(選)
2) バイオアインスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。		医薬品化学 創薬学Ⅰ(選)	ドラッグデザイン演習(選)
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。		医薬品化学	
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】			
1) スクレオシンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学 化学療法学	
2) フェニル野酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学	
5) β-ラクタム骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学	
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】			
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学	
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】			
1) DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。		医薬品化学	
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。		医薬品化学	
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。		医薬品化学	
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】			
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。		医薬品化学	
C5 自然が生み出す薬物			
(1) 薬になる動植物			
【①薬用植物】			
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	薬用植物学		生薬学実習

2) 代表的な薬用植物を外都形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	薬用植物学	生薬学実習			
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	薬用植物学	生薬学実習			
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。	薬用植物学				
【②生薬の基原】					
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	薬用植物学、生薬学	生薬学実習			
【③生薬の用途】					
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	生薬学	生薬学実習		代替医療論(選)	
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学実習		代替医療論(選)	
【④生薬の同定と品質評価】					
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	薬学基礎実習	生薬学実習		代替医療論(選)	
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	生薬学実習	生薬学実習		代替医療論(選)	
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	生薬学	生薬学実習		代替医療論(選)	
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	生薬学	生薬学実習			
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。	生薬学	生薬学実習			
(2) 薬の空庫としての天然物					
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】					
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用資源学 応用天然物化学 (選)		
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】					
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			薬用資源学		
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用資源学		
【③天然生物活性物質の取扱い】					
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		生薬学実習	薬用資源学		
【④天然生物活性物質の利用】					
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬用植物学		薬用資源学		

2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	薬用植物学			薬用資源学		
3) 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬用植物学			薬用資源学		
06 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生物学 生化学 I	生化学 II 細胞生物学		製剤学 I		
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。		細胞生物学		生体情報学		
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生物学	細胞生物学				
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生物学	細胞生物学				
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学 I	生化学 II 細胞生物学 生物化学演習				
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学 I	細胞生物学 生物化学演習				
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	生物化学演習				
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 生化学 I	分子生物学 生物化学演習				
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学 I	分子生物学 生物化学演習				
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) スクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生化学 I	分子生物学				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	生物化学演習		衛生化学 I		
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学 I			衛生化学 I		
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物化学実習				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						

1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	生化学 I	細胞生物学 生物化学演習	生体情報学		
【②タンパク質の成熟と分解】					
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。	生化学 I	細胞生物学			
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	生化学 I	生化学 II 細胞生物学			
【③酵素】					
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学 I	生物化学演習			
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	無機化学 生化学 I	生物化学演習			
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 I	生物化学演習			
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)	生化学 I	生物化学実習			
【④酵素以外のタンパク質】					
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		細胞生物学 生物化学演習	生体情報学		
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 II 生物化学演習			
(4) 生命情報を担う遺伝子					
【①概論】					
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生化学 I	分子生物学 生物化学演習			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生物学	分子生物学 生物化学実習			
【②遺伝情報を担う分子】					
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	生化学 I	分子生物学			
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。		分子生物学 生物化学演習			
3) RNA の種類 (mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	生物学 生化学 I	分子生物学 生物化学演習			
【③遺伝子の複製】					
1) DNA の複製の過程について説明できる。		分子生物学 生物化学演習			
【④転写・翻訳の過程と調節】					
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。		分子生物学 生物化学演習			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。		分子生物学 生物化学演習			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。		分子生物学 生物化学演習			

4) RNA のプロセッシング (キャッピング構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。					分子生物学 生物化学演習			
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。					分子生物学 生物化学演習			
【⑤遺伝子の変異・修復】								
1) DNA の変異と修復について説明できる。					分子生物学 生物化学演習			
【⑥組換え DNA】								
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。					分子生物学 生物化学演習 生物化学実習			
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。					分子生物学 生物化学演習			
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系								
【① 概論】								
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学 I				生化学 II			
【②ATP の産生と糖質代謝】								
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
3) 電子伝達系 (酸化リッ酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
5) 糖新生について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
【③脂質代謝】								
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
【④飢餓状態と植食状態】								
1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
【⑤その他の代謝系】								
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。					生化学 II 生物化学演習			
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。					生化学 II			

3) ベントースリン酸回路について説明できる。									
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達									
【① 概論】									
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
【②細胞内情報伝達】									
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
【③細胞間コミュニケーション】									
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						細胞生物学	生体情報学		
(7) 細胞の分裂と死									
【①細胞分裂】									
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生物学					細胞生物学			
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	生物学					分子生物学 細胞生物学			
【②細胞死】									
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。						放射化学 細胞生物学	生体情報学		
【③がん細胞】									
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。						放射化学 細胞生物学			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						細胞生物学		医薬品安全性学	
07 人体の成り立ちと生体機能の調節									
(1) 人体の成り立ち									
【①遺伝】									
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。						分子生物学			
2) 遺伝子多型について概説できる。						分子生物学			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。							先端医療学		
【②発生】									
1) 個体発生について概説できる。	生物学					細胞生物学			
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						細胞生物学			
【③器官系概論】									
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。						解剖学		葉物解剖学実習	
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						解剖学			

3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)				薬効解剖学実習 薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ			
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)				薬効解剖学実習			
【④神経系】							
1) 中枢神経系について概説できる。	解剖学 生理学 薬理学Ⅰ						
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	解剖学 生理学 薬理学Ⅰ						
【⑤骨格系・筋肉系】							
1) 骨、筋肉について概説できる。	解剖学 生理学						
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖学 生理学						
【⑥皮膚】							
1) 皮膚について概説できる。	解剖学 生理学						
【⑦循環器系】							
1) 心臓について概説できる。	解剖学			薬理学Ⅱ			
2) 血管系について概説できる。	解剖学 生理学						
3) リンパ管系について概説できる。	免疫学 解剖学 生理学						
【⑧呼吸器系】							
1) 肺、気管支について概説できる。	解剖学 生理学			薬理学Ⅲ			
【⑨消化器系】							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	解剖学			薬理学Ⅲ			
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	解剖学			薬理学Ⅲ			
【⑩泌尿器系】							
1) 泌尿器系について概説できる。	解剖学 生理学			薬理学Ⅱ			
【⑪生殖器系】							
1) 生殖器系について概説できる。	解剖学 生理学			生体情報学			
【⑫内分泌系】							
1) 内分泌系について概説できる。				生体情報学			
【⑬感覚器系】							

1) 感覚器系について概説できる。				解剖学 生理学			
【⑩血液・造血系】							
1) 血液・造血系について概説できる。				免疫学 生理学	薬理学Ⅲ		
(2) 生体機能の調節							
【⑪神経による調節機構】							
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。				薬理学Ⅰ			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。				薬理学Ⅰ 生理学	生体情報学		
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。				生理学			
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。				細胞生物学 生理学			
【⑫ホルモン・内分泌系による調節機構】							
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。					生体情報学 薬理学Ⅲ		
【⑬オートカコイドによる調節機構】							
1) 代表的なオートカコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。				生化学Ⅱ 生物化学演習	薬理学Ⅲ		
【⑭サイトカイン・増殖因子による調節機構】							
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。				細胞生物学	生体情報学		
【⑮血圧の調節機構】							
1) 血圧の調節機構について概説できる。				生理学	薬理学Ⅱ		
【⑯血糖の調節機構】							
1) 血糖の調節機構について概説できる。				生化学Ⅱ	生体情報学 薬理学Ⅲ 橋元生化学Ⅰ		
【⑰体液の調節】							
1) 体液の調節機構について概説できる。				生物化学演習 生理学			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。				生理学	薬理学Ⅱ 橋元生化学Ⅰ		
【⑱体温の調節】							
1) 体温の調節機構について概説できる。				生理学			
【⑲血液凝固・線溶系】							
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。				生理学	薬理学Ⅲ 薬効解析学実習		
【⑳性周期の調節】							
1) 性周期の調節機構について概説できる。				生理学			
C8 生体防御と微生物							
(1) 身体をまもる							

【① 生体防御反応】						免疫学	
1)	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。					免疫学	
2)	免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。					免疫学	
3)	自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。					免疫学	
4)	体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。					免疫学	
【②免疫を担当する組織・細胞】							
1)	免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。					免疫学	
2)	免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。					免疫学	
3)	免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。					免疫学	
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】							
1)	自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。					免疫学	
2)	MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。					免疫学	
3)	T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。					免疫学	
4)	抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。					免疫学	
5)	免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。					免疫学	
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用							
【① 免疫応答の制御と破綻】							
1)	炎症の一般的な症状、担当細胞および反応機構について説明できる。					免疫学	
2)	アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。					免疫学	
3)	自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。					免疫学	
4)	臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。					免疫学	
5)	感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。					免疫学	
6)	腫瘍排除に関する免疫反応について説明できる。					免疫学	
【② 免疫反応の利用】							
1)	ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。					免疫学	
2)	モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。					免疫学	
3)	血清療法と抗体医薬について概説できる。					免疫学	
4)	抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）					放射化学 生化学実習	
(3) 微生物の基本							
【① 総論】							
1)	原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。					微生物学	
【② 細菌】							
1)	細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。					微生物学	
2)	細菌の構造と増殖機構について説明できる。					微生物学	
3)	細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。					微生物学	
4)	細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。					生物化学実習 微生物学	
5)	薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。					微生物学	化学療法
6)	代表的な細菌毒素について説明できる。					微生物学	
【③ ウィルス】							

1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。						微生物学	
【④ 真菌・原虫・蠕虫】							
1) 真菌の性状を概説できる。						微生物学	
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						微生物学	
【⑤ 消毒と滅菌】							
1) 滅菌、消毒および殺菌、消毒の概念を説明できる。						微生物学	
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						微生物学	
【⑥ 検出方法】							
1) グラム染色を実施できる。(技能)							感染制御学実習
2) 無菌操作を実施できる。(技能)							感染制御学実習
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)							感染制御学実習
(4) 病原体としての微生物							
【①感染の成立と共生】							
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。						微生物学	
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						微生物学	
【②代表的な病原体】							
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。						微生物学	
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。						微生物学	
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。						微生物学	
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チラム菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピロリ菌、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。						微生物学	
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジユニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。						微生物学	
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。						微生物学	
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						微生物学	
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムコール、白黴菌など)について概説できる。						微生物学	
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。						微生物学	
D 衛生薬学							
D1 健康							
(1) 社会・集団と健康							
【①健康と疾病の概念】							
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。						公衆衛生学	
【②疫学統計】							
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						公衆衛生学	医療制度論

2) 人口統計および病病統計に関する指標について説明できる。									
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。									
【③疫学】									
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。									
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。									
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。									
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、奇与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)									
(2) 疾病の予防									
【①疾病の予防とは】									
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。									
2) 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。									
【②感染症とその予防】									
1) 現代における感染症(日和原感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。									
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。									
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。									
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。									
【③生活習慣病とその予防】									
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。									
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。									
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)									
【④母子保健】									
1) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。									
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。									
【⑤労働衛生】									
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。									
2) 労働衛生管理について説明できる。									
(3) 栄養と健康									
【①栄養】									
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。									
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。									
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。									
4) 五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。									

5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量を説明できる。				衛生化学 I		
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。				衛生化学 I		
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	生物化学演習			衛生化学 I	実践医療薬理学 (選)	
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。				衛生化学 I	実践医療薬理学 (選)	
【②食品機能と食品衛生】						
1) 脱水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。				衛生化学 I		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)				衛生化学 I 衛生薬学実習		
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。				衛生化学 I		
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。				衛生化学 I		
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。				衛生化学 I 応用天然物化学 (選)		
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	薬用植物学			衛生化学 I	実践医療薬理学 (選)	
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。				衛生化学 I		
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学			衛生化学 I		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	薬用植物学			衛生化学 I		
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	無機化学			衛生化学 I		
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				衛生化学 II		
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。				衛生化学 II	医薬品安全性学	
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。				衛生化学 II		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。				衛生化学 II		基礎臨床薬学 アドバンスト実践 臨床学 I アドバンスト実践 臨床学 II 地域医療実践薬学
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)					医薬品安全性学	
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				衛生化学 II	医薬品安全性学	基礎臨床薬学 アドバンスト実践 臨床学 I アドバンスト実践 臨床学 II 地域医療実践薬学

<p>7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。</p>				<p>医薬品安全性学</p>	<p>基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨床薬学Ⅰ アドバンスト実践臨床薬学Ⅱ 地域医療実践薬学</p>
【②化学物質の安全性評価と適正使用】					
<p>1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。 (態度)</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>	<p>医薬品安全性学 創薬学Ⅱ (選)</p>	
<p>4) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法など) を説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ</p>		
【③化学物質による発がん】					
<p>1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ 危険物化学 (選)</p>	<p>医薬品安全性学</p>	
<p>2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>	<p>医薬品安全性学 創薬学Ⅱ (選)</p>	
<p>3) 発がんに至る過程 (イニエーション、プロモーションなど) について概説できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>	<p>医薬品安全性学</p>	
【④放射線の生体への影響】					
<p>1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。</p>	<p>放射化学</p>				
<p>2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。</p>	<p>放射化学 物理化学系実習</p>				
<p>3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。</p>	<p>放射化学</p>		<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		
(2) 生活環境と健康					
【①地球環境と生態系】					
<p>1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ 危険物化学 (選)</p>		
<p>2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ 応用天然物化学</p>		
<p>5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>衛生化学Ⅱ</p>		
【②環境保全と法的規制】					
<p>1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。</p>	<p>地球環境論 (選)</p>		<p>公衆衛生学</p>	<p>衛生化学Ⅱ</p>	
<p>2) 環境基本法の理念を説明できる。</p>			<p>公衆衛生学</p>	<p>衛生化学Ⅱ</p>	
<p>3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。</p>			<p>公衆衛生学</p>	<p>衛生化学Ⅱ</p>	
【③水環境】					
<p>1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		
<p>2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。</p>			<p>衛生化学Ⅱ</p>		

3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)					衛生化学Ⅱ 衛生薬学実習		
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。					衛生化学Ⅱ		
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)					衛生化学Ⅱ 衛生薬学実習		
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				地球環境論(選)	衛生化学Ⅱ		
【④大気環境】							
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。					衛生化学Ⅱ 危険物化学(選)		
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)					衛生化学Ⅱ 衛生薬学実習		
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。					衛生化学Ⅱ		
【⑤室内環境】							
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)					衛生化学Ⅱ 衛生薬学実習		
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。					衛生化学Ⅱ 危険物化学(選)		
【⑥医薬物】							
1) 医薬物の種類と処理方法を列挙できる。					衛生化学Ⅱ		
2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。					衛生化学Ⅱ		
3) マニフェスト制度について説明できる。					衛生化学Ⅱ		
E 医療薬学							
E1 薬の作用と体の変化							
(1) 薬の作用							
【①薬の作用】							
1) 薬の用量と作用の関係の説明できる。				薬理学Ⅰ	医薬品安全生化学 創薬学Ⅱ(選)		
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。				薬理学Ⅰ	医薬品化学 創薬学Ⅱ(選)		
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。				薬理学Ⅰ	医薬品化学 創薬学Ⅰ(選)		
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。				薬理学Ⅰ	創薬学Ⅱ(選)		
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)				薬理学Ⅰ	創薬学Ⅱ(選)		
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)				放射化学 薬理学Ⅰ	生物薬剤学 薬物動態学	医薬品安全生化学	
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。				薬理学Ⅰ			
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)				薬理学Ⅰ	医薬品化学 生物薬剤学	調剤学	
9) 薬物依存性、毒性について具体例を挙げて説明できる。				薬理学Ⅰ		医薬品安全生化学	
【②動物実験】							

1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)						薬理学実習 薬効解析学実習				
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						薬理学実習 薬効解析学実習				
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						薬理学実習				
【③日本薬局方】										
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。										
(2) 身体の病的変化を知る										
【①症候】										
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 シヨック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害、失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満、やせ、蕁麻疹、浮腫、心臓亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、咯血、めまい、頭痛、運動病痺、不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血、下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)、神経痛、視力障害、聴力障害										
【②病態・臨床検査】										
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。										
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。										
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。										
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。										
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。										
	無機化学					病態生化学 I 薬物治療学 I	医薬品安全性学 薬物治療学 II	医薬品安全性学 薬物治療学 II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学 I アドバンスト実践臨 床薬学 II 地域医療実践薬学	
						病態生化学 I 薬物治療学 I	薬物治療学 II	医薬品安全性学 薬物治療学 II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学 I アドバンスト実践臨 床薬学 II 地域医療実践薬学	
						病態生化学 I 薬物治療学 I	医薬品安全性学 薬物治療学 II	医薬品安全性学 薬物治療学 II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学 I アドバンスト実践臨 床薬学 II 地域医療実践薬学	
						病態生化学 I 薬物治療学 I	医薬品安全性学 薬物治療学 II	医薬品安全性学 薬物治療学 II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学 I アドバンスト実践臨 床薬学 II 地域医療実践薬学	

6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				病態生化学I 薬物治療学I	医薬品安全性学 薬物治療学II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践 臨床薬学I アドバンスト実践 臨床薬学II 地域医療実践薬学
7) 代表的な職生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				薬物治療学I	薬物治療学II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践 臨床薬学I アドバンスト実践 臨床薬学II 地域医療実践薬学
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				薬物治療学I	薬物治療学II	基礎臨床薬学 アドバンスト実践 臨床薬学I アドバンスト実践 臨床薬学II 地域医療実践薬学
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。				薬物治療学I	薬物治療学II	
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識、技能)				薬物治療学I	薬物治療学II	
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			薬理学I		医薬品安全性学 臨床薬理学	
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			薬理学I		医薬品安全性学	
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害					医薬品安全性学 臨床薬理学	
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)					医薬品安全性学	
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学I			
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学I			
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学I			
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				薬理学実習		
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学I		医薬品化学	

2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。									
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)									
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複)								薬物治療学 II	
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】									
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。								薬理学 I	
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用 (WHO 三段階除痛ラダー) を説明できる。								薬理学 I	アドバンスト実践臨床薬学 I (選)
3) 中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。									
4) 統合失調症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	臨床薬理学 薬物治療学 II
5) うつ病、躁うつ病 (双極性障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	臨床薬理学 薬物治療学 II
6) 不安神経症 (パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	薬物治療学 II
7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 I	臨床薬理学 薬物治療学 II
8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞 (脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	薬物治療学 II
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	臨床薬理学 薬物治療学 II
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								薬理学 II 医薬品化学 病態生化学 II	薬物治療学 II
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。								薬理学 I	薬物治療学 II
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)									
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)									
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複)、多発性硬化症 (重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症									
【④化学構造と薬効】									
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。									
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬									
【①抗炎症薬】									

1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。					薬理学Ⅲ	
3) 創傷治癒の過程について説明できる。					薬理学Ⅲ	
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギーマシマチン（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症候群、薬疹					薬物治療学Ⅰ	
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病					薬物治療学Ⅰ	
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ハセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	

<p>4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p>					薬理学III 病態生化学II 薬物治療学I	
【④化学構造と薬効】						
<p>1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。</p>						
【③循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬】						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
<p>1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PVC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (AF)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (VF)、房室ブロック、QT延長症候群</p>			臨床薬理学	薬理学II 医薬品化学II 病態生化学II 薬物治療学I		
<p>2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p>			臨床薬理学	薬理学II 医薬品化学II 病態生化学II 薬物治療学I		地域医療実践薬学 (選)
<p>3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p>			臨床薬理学	薬理学II 医薬品化学II 病態生化学II 薬物治療学I		地域医療実践薬学 (選)
<p>4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症、高血圧性高血圧症を含む)</p>			臨床薬理学	薬理学II 医薬品化学II 病態生化学II 薬物治療学I		地域医療実践薬学 (選)
<p>5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患</p>				薬理学II 病態生化学II 薬物治療学I		
<p>6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)</p>				薬理学実習		
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
<p>1) 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p>			薬物治療学II	薬理学III 病態生化学II		
<p>2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。</p>			薬物治療学II	薬理学III 病態生化学II		地域医療実践薬学 (選)
<p>3) 以下の貧血について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、溶血性貧血、鎌状赤血球症</p>			薬物治療学II	薬理学III 病態生化学II		
<p>4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。</p>			薬物治療学II	薬理学III 病態生化学II		
<p>5) 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血小板病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少性紫斑病 (重症)</p>			薬物治療学II	薬理学III 病態生化学II		
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						

1) 利尿薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。				薬理学Ⅱ 医薬品化学			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		
3) ネフローズ症候群について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ			
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 慢性腎臓病 (CKD)、糸球体腎炎 (重複)、糖尿病性腎症 (重複)、薬剤性腎症 (重複)、腎盂腎炎 (重複)、膀胱炎 (重複)、尿路感染症 (重複)、尿路結石				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫					薬物治療Ⅱ		
7) 妊娠・分娩・産後に関連して用いられる薬物について、薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅱ			
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症				病態生化学Ⅱ	薬物治療Ⅱ		
【④化学構造と薬効】							
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。				医薬品化学			
【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬】							
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】							
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患 (ニコチン依存症を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。				薬理学Ⅲ 薬物治療Ⅰ			
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】							
1) 以下の上消化器疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃食道逆流症 (逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎				薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			

2) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
3) 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
4) 肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
6) 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅱ 薬物治療Ⅰ			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ			
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ			
9) 病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ			
【③化学構造と薬効】								
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。					医薬品化学			
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬								
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】								
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅱ 病態生化学Ⅰ 副薬Ⅰ（選）	薬物治療Ⅱ 医薬品開発学（選）		基礎臨床薬学
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		基礎臨床薬学
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】								
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。					薬理学Ⅲ			
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					生体情報学 薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療Ⅱ		

3)	甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				生体情報学 薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		
4)	尿毒症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				生体情報学 薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		
5)	以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症、低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腫症(重複)、アジソン病(重複)				生体情報学 薬理学Ⅲ 病態生化学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		
【③化学構造と薬効】								
1)	代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。							
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬								
【①眼疾患の薬、病態、治療】								
1)	緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ			病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
2)	白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ			病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
3)	加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ			病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
4)	以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症				病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】								
1)	めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
2)	以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽喉炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】								
1)	アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2 (2)) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)				病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
2)	皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2 (7)) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)				病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
3)	褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			

4)	以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水痘症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮炎(重複)、光線過敏症(重複)				病態生化学Ⅰ 病態生化学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		
【④化学構造と薬効】							
1)	感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬							
【①抗菌薬】							
1)	以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(SI合剤を含む)、その他の抗菌薬				化学療法学		
2)	細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。			免疫学			
【②化学薬の耐性】							
1)	主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。				化学療法学		
【③細菌感染症の薬、病態、治療】							
1)	以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		微生物学		化学療法学 病態生化学Ⅱ		アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ(選)
2)	以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		微生物学		化学療法学		
3)	以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		微生物学		化学療法学 病態生化学Ⅱ		
4)	以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		微生物学		化学療法学 病態生化学Ⅰ		
5)	以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		微生物学		化学療法学		
6)	脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		微生物学		化学療法学 病態生化学Ⅱ		
7)	以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		微生物学		化学療法学		
8)	感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		微生物学		化学療法学		

9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染に於いて、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			微生物学	化学療法学				アドバンスト実践 医薬学Ⅱ（選）
10) 以下の全身性細菌感染症に於いて、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			微生物学	化学療法学				
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】								
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			微生物学	化学療法学				
2) サイトメガロウイルス感染症に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			微生物学	化学療法学				
3) インフルエンザに於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			微生物学	化学療法学				
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）			微生物学	化学療法学				
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			微生物学	化学療法学				
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）に於いて、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Grenzfeidt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病			微生物学	化学療法学				
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】								
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			微生物学	化学療法学				
2) 以下の真菌感染症に於いて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			微生物学	化学療法学				
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】								
1) 以下の原虫感染症に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			微生物学	化学療法学				
2) 以下の寄生虫感染症に於いて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症			微生物学	化学療法学				
【⑦悪性腫瘍】								
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。				化学療法学 医薬品化学 病態生化学Ⅱ				アドバンスト実践 医薬学Ⅰ（選）

2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー （腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状および がん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因				化学療法学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				化学療法学 医薬品化学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および 臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、 抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	無機化学			化学療法学 医薬品化学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				化学療法学		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、 血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
4) 代表的ながん化学療法法のレジメン（FOLFFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、 対象疾患を概説できる。				化学療法学		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）				化学療法学 病態生化学 II		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品 の選択等）を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択 等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌				化学療法学 病態生化学 II		
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療 （医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				化学療法学 病態生化学 II		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等） を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				化学療法学 病態生化学 II		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療 （医薬品の選択等）を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				化学療法学 病態生化学 II		アドバンスト実践 床薬学 I (選)
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						

1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。					病態生化学II			アドバンスト実践臨床薬学I（選）
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					病態生化学II			アドバンスト実践臨床薬学I（選）
【⑩化学構造と薬効】								
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。					化学療法学 医薬品化学			
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報								
【⑪組織全体医薬品】								
1) 組織全体医薬品の特色と有用性を説明できる。					先端医療学		医薬品開発学（選）	
2) 代表的な組織全体医薬品を列挙できる。					先端医療学		医薬品開発学（選）	
3) 組織全体医薬品の安全性について概説できる。					先端医療学		医薬品開発学（選）	
【⑫遺伝子治療】								
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）					生物化学演習		医薬品開発学（選）	
【⑬細胞、組織を利用した移植医療】								
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）					免疫学 生物化学演習	免疫学	医薬品開発学（選）	
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。					生物化学演習	免疫学	医薬品開発学（選）	
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。					生物化学演習	免疫学	医薬品開発学（選）	
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。					生物化学演習	免疫学	医薬品開発学（選）	
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション								
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。					実践社会薬学			
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。					医療制度論			
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはならない疾患を列挙できる。					医療制度論			
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）					医療制度論		医療コミュニケーション	
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等					医療制度論		医療コミュニケーション	
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。					医療制度論			
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。					医療制度論		実践医療薬剤学（選）	
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）					医療制度論			
(10) 医療の中の処方薬								

【①漢方薬の基礎】					
1) 漢方の特徴について概説できる。			医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証			医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。			応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。	薬用植物学		医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
【②漢方薬の応用】					
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。	生薬学		医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。			応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
【③漢方薬の注意点】					
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			医療制度論 応用天然物化学 (選)	代替医療論 (選)	
(11) 薬物治療の最適化					
【①総合演習】					
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)					基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学Ⅰ アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ 地域医療実践薬学
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)					基礎臨床薬学 アドバンスト実践臨 床薬学Ⅰ アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ 地域医療実践薬学
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)				医薬品安全性学	
E3 薬物治療に役立つ情報					
(1) 医薬品情報					
【①情報】					

1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。					医薬品情報学			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。					実証社会科学 医薬品情報学			
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。					医薬品情報学	治験薬学 創薬学Ⅱ 医薬品開発学（選）		
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。					医療制度論 医薬品情報学	医薬品安全性学 治験薬学 医薬品開発学（選）		
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。					医薬品情報学 創薬学Ⅰ（選）	治験薬学 医薬品開発学（選）		
【②情報源】								
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。					医薬品情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料について説明できる。					医薬品情報学			
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。					医薬品情報学	医薬品開発学（選）		
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。					医薬品情報学	調剤学		
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。					医薬品情報学	調剤学		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。					医薬品情報学	調剤学		
【③収集・評価・加工・提供・管理】								
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）					医薬品情報学	調剤学		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）					医薬品情報学	調剤学		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。					医薬品情報学	臨床統計解析学 調剤学		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）					医薬品情報学			
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、著作権、義務など）について説明できる。					医薬品情報学	調剤学		
【④EBM (Evidence-based Medicine)】								
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。					医薬品情報学	調剤学		
2) 代表的な臨床研究方法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。					医薬品情報学	臨床統計解析学 治験薬学		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)					医薬品情報学	臨床統計解析学		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。					医薬品情報学	臨床統計解析学 治験薬学		
【⑤生物統計】								

1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。	統計学				臨床統計解析学	
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	統計学				臨床統計解析学	
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。	統計学				臨床統計解析学	
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	統計学				臨床統計解析学	
5) 二群間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能)	統計学				臨床統計解析学	
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。	統計学				臨床統計解析学	
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。	統計学				臨床統計解析学	
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究 (治療を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学 医薬品開発学 (選)	
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学	
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究など) について概説できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学	
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。				臨床統計解析学	臨床統計解析学	
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				臨床統計解析学	臨床統計解析学	
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学	
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学 医薬品開発学 (選)	
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。				医薬品情報学	臨床統計解析学 医薬品開発学 (選)	
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能)				医薬品情報学	臨床統計解析学	
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)				医薬品情報学		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)				医薬品情報学		
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学	医療コミュニケーション	
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。					医療コミュニケーション	
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。					医療コミュニケーション	

2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。					医療コミュニケーション	
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				医薬品情報学	医療コミュニケーション	
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)					調剤学	
【③ 個別化医療】						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				生物薬理学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				生物薬理学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
【②年齢的素因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
【④その他の素因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				生物薬理学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	臨床薬理学 医薬品安全性学	
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、脱水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 医薬品情報学	実践医療薬理学 (選) 医薬品安全性学	
【⑤個別化医療の計画・立案】						

1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的素因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）					薬物動態学実習 医薬品情報学			基礎臨床薬学 アドバンスト実臨 床薬学Ⅰ アドバンスト実臨 床薬学Ⅱ 地域医療実践薬学
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						臨床薬理学		
E4 薬の生体内運命								
(1) 薬物の体内動態								
【①生体透過】								
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。					生物薬剤学			
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学			
【②吸収】								
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学			
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学			
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学	臨床薬理学		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学	調剤学 臨床薬理学		
5) 初回通過効果について説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学			
【③分布】								
1) 薬物が結合する代表的な血浆タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。					生物薬剤学 薬物動態学	臨床薬理学		
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血浆タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学 薬物動態学実習			
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。					生物薬剤学			
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。					生物薬剤学	臨床薬理学		
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学	調剤学 臨床薬理学		
【④代謝】								
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。				無機化学	生物薬剤学			
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。					生物薬剤学 薬物動態学	医薬品安全性学 臨床薬理学		

3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。				生物薬理学 薬物動態学	医薬品安全性学 臨床薬理学		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。				製剤学Ⅱ 生物薬理学	医薬品安全性学 臨床薬理学		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。				生物薬理学 薬物動態学	医薬品安全性学 調剤学 臨床薬理学		
【⑤排泄】							
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。				生物薬理学			
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。				生物薬理学			
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。				生物薬理学 薬物動態学			
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。				生物薬理学 薬物動態学			
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。				生物薬理学 薬物動態学	調剤学 臨床薬理学		
(2) 薬物動態の解析							
【①薬物速度論】							
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 薬物動態学実習			
2) 線形一コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)				薬物動態学 薬物動態学実習			
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)				生物薬理学 薬物動態学 薬物動態学実習			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。				生物薬理学 薬物動態学 薬物動態学実習			
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。				薬物動態学 薬物動態学実習			
6) 薬物動態学一薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。				薬物動態学 薬物動態学実習	創薬学Ⅱ (選)		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】							
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				薬物動態学 薬物動態学実習		アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ (選)	
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				薬物動態学 薬物動態学実習		アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ (選)	
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				薬物動態学 薬物動態学実習		アドバンスト実践臨 床薬学Ⅱ (選)	
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				薬物動態学 薬物動態学実習			

E5 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤の性質					
【①固形材料】					
1) 粉体の性質について説明できる。				製剤学 I 製剤学実習	
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。				製剤学 I 製剤学実習	
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2) (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照	物理化学 II			製剤学 I	
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。				製剤学 I	
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				製剤学 I	
【②半固形・液状材料】					
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習	
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。	物理化学系実習			製剤学 I 製剤学 II 高分子化学 (選)	
【③分散系材料】					
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2) (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照	物理化学 II 物理化学系実習			製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習	
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習 高分子化学 (選)	
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II	
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習	
【④薬物及び製剤材料の物性】					
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。				製剤学 I 高分子化学 (選)	
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。				製剤学 I	
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				製剤学 I	
(2) 製剤設計					
【①代表的な製剤】					
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習	

2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習 生物薬剤学			
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習 生物薬剤学			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習 生物薬剤学			
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習 生物薬剤学			
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習			
【②製剤化と製剤試験法】							
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。				製剤学 I 製剤学 II 製剤学実習			
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。				製剤学 II 製剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学 II 製剤学実習			
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。				製剤学 II 製剤学実習			
【③生物学的同等性】							
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				製剤学 II			
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)							
【①DDS の必要性】							
1) DDS の概念と有用性について説明できる。				先端医療学 製剤学 I 製剤学 II			
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4 (1) 【④代講】 4. も参照)				先端医療学 製剤学 I 製剤学 II			
【②コントロールリリース (放出制御)】							

1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。					製剤学 I 製剤学 II		
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。					製剤学 I 製剤学 II		
3) コントロールドリリース技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					製剤学 I 製剤学 II		
【③ターゲットイング (標的指向化)】							
1) ターゲットイングの概要と意義について説明できる。					先端医療学 製剤学 I 製剤学 II		
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲットイング技術を列挙し、その特性について説明できる。					先端医療学 製剤学 I 製剤学 II		
3) ターゲットイング技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					先端医療学 製剤学 I 製剤学 II		
【④吸収改善】							
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。					製剤学 I		
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。					製剤学 I		
3) 吸収改善技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					製剤学 I		
F 薬学臨床							
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項							
(1) 薬学臨床の基礎							
【①早期臨床体験】 ※原則として 2 年次修了までに学習する事項							
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)				早期体験実習		調剤学	
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)							
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)				健康・スポーツ実習			
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照]							
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)						総合臨床薬学	
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)						総合臨床薬学	
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)						総合臨床薬学	
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)							病院・薬局実習
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)							病院・薬局実習
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)							病院・薬局実習
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)							病院・薬局実習
【③臨床実習の基礎】							
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。						総合臨床薬学	

2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						総合臨床薬学	
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						総合臨床薬学	
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						総合臨床薬学	
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 〔B（3）①参照〕						総合臨床薬学	
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						病院・薬局実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						病院・薬局実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）						病院・薬局実習	
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						病院・薬局実習	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						病院・薬局実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						病院・薬局実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				先端医療学		病院・薬局実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						病院・薬局実習	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						病院・薬局実習	
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）						病院・薬局実習	
〔2〕処方せんに基づく調剤							
【①法令・規則等の理解と遵守】〔B（2）、（3）参照〕							
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。						調剤学 総合臨床薬学	
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。 （知識、技能）						調剤学	病院・薬局実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）							病院・薬局実習
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						調剤学	病院・薬局実習
【②処方せんと疑義照会】							
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。						調剤学 臨床薬理学 総合臨床薬学	
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。						調剤学 総合臨床薬学	
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。						調剤学 総合臨床薬学	
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						調剤学 臨床薬理学 総合臨床薬学	
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						調剤学 総合臨床薬学	
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）						調剤学 総合臨床薬学	

7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能)										調剤学	病院・薬局実習
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
9) 処方せんの正しい記載方法を列挙できる。 (技能)											病院・薬局実習
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。 (技能・態度)											病院・薬局実習
【③処方せんに基づく医薬品の調製】											
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。 (技能)										調剤学 総合臨床薬学	
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。										調剤学 総合臨床薬学	
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。 (技能)										調剤学 総合臨床薬学	
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。										調剤学 総合臨床薬学	
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。										調剤学 総合臨床薬学	
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。 (知識・技能)										総合臨床薬学	
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。 (技能)										総合臨床薬学	
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。 (知識・技能)										調剤学 総合臨床薬学	
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。 (技能)											病院・薬局実習
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。 (技能)											病院・薬局実習
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。 (知識・技能)										調剤学	病院・薬局実習
13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。 (知識・技能)										調剤学	病院・薬局実習
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。 (技能)											病院・薬局実習
15) 注射剤 (散剤・水剤等の配合変化) に関して実施されている回避方法を列挙できる。										調剤学	病院・薬局実習
16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。 (技能)											病院・薬局実習
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。 (知識・技能)											病院・薬局実習
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】											
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。 (態度)										薬学英語 I 薬学英語 II 医療コミュニケーション 総合臨床薬学	

2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				応用天然物化学 (選)	臨床薬理学 医療コミュニケーション 総合臨床薬学 代替医療論 (選) 調剤学		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	薬学英語 I		薬学英語 II	医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	薬学英語 I		薬学英語 II	医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)	薬学英語 I		薬学英語 II	医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				調剤学 医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				医療コミュニケーション 総合臨床薬学			
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)						病院・薬局実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						病院・薬局実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						病院・薬局実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)						病院・薬局実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						病院・薬局実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						病院・薬局実習	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)						病院・薬局実習	
【⑤医薬品の供給と管理】							
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。					総合臨床薬学		
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。					総合臨床薬学		
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。					総合臨床薬学		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。					総合臨床薬学		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。	放射化学				総合臨床薬学		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					総合臨床薬学		

7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。					総合臨床薬学 代管医療講義 (選)	
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。					総合臨床薬学	
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)						病院・薬局実習
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)						病院・薬局実習
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						病院・薬局実習
12) 副薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。 (知識・技能)						病院・薬局実習
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)						病院・薬局実習
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。					総合臨床薬学	
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。					総合臨床薬学	
3) 前) 代表的なインジケント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)					総合臨床薬学	
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。					総合臨床薬学	
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)					総合臨床薬学	
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。					総合臨床薬学	
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					総合臨床薬学	
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)						病院・薬局実習
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						病院・薬局実習
10) 施設内のインジケント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)						病院・薬局実習
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)						病院・薬局実習
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)						病院・薬局実習
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)						病院・薬局実習
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)						病院・薬局実習
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。					総合臨床薬学	
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) (E3(2)①参照)					総合臨床薬学	
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。					総合臨床薬学	
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)					総合臨床薬学	
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)						病院・薬局実習
6) 患者、来局者および種々の情報源(診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)						病院・薬局実習
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)						病院・薬局実習
【②医薬品情報の収集と活用】 (E3(1)参照)						

1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)					総合臨床薬学	病院・薬局実習
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)						病院・薬局実習
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)						病院・薬局実習
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)						病院・薬局実習
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)						病院・薬局実習
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)						病院・薬局実習
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。					臨床薬理学 総合臨床薬学	
2) 前) 痛能（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。					総合臨床薬学	
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。					総合臨床薬学	
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。					総合臨床薬学 実践医療薬剤学 (選)	
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。					総合臨床薬学 実践医療薬剤学 (選)	
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						病院・薬局実習
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。						病院・薬局実習
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)						病院・薬局実習
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)						病院・薬局実習
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)						病院・薬局実習
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)						病院・薬局実習
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						病院・薬局実習
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)						病院・薬局実習
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。					臨床薬理学 総合臨床薬学	
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)					医療コミュニケーション 総合臨床薬学	
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)					医療コミュニケーション 総合臨床薬学	
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)						病院・薬局実習

5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実行が可能な。 (知識・態度)							薬物動態学		病院・薬局実習
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。 (知識・技能)							薬物動態学		病院・薬局実習
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。									病院・薬局実習
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。									病院・薬局実習
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。									病院・薬局実習
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。 (知識・態度)									病院・薬局実習
11) 報告に必要な要素 (SWH) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。 (技能)									病院・薬局実習
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記載する。 (知識・技能)									病院・薬局実習
13) 医薬品、医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。 (知識・技能)									病院・薬局実習
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]									
【①医療機関におけるチーム医療】									
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	早期体験実習						医療コミュニケーション 総合臨床薬学		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	早期体験実習						医療コミュニケーション 総合臨床薬学		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニックバス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。							総合臨床薬学		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師、看護師等の医療スタッフと連携できる。 (態度)									病院・薬局実習
5) 医師、看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。 (知識・態度)									病院・薬局実習
6) 医療チームの一員として、医師、看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。 (知識・態度)									病院・薬局実習
7) 医師、看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。 (知識・態度)									病院・薬局実習
8) 医師、看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。 (知識・態度)									病院・薬局実習
9) 病院内の多様な医療チーム (ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。 (知識・態度)									病院・薬局実習
【②地域におけるチーム医療】									
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。							総合臨床薬学		地域医療実践薬学 (選)
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。 (知識・態度)							総合臨床薬学		地域医療実践薬学 (選)
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。 (知識・態度)									病院・薬局実習
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。 (技能・態度)									病院・薬局実習
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]									

【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前)	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				調剤学 総合臨床薬学	地域医療実践薬学 (選)
2) 前)	在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				総合臨床薬学	地域医療実践薬学 (選)
3) 前)	在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				総合臨床薬学	地域医療実践薬学 (選)
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）						病院・薬局実習
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						病院・薬局実習
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						病院・薬局実習
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前)	地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。		先端医療学		総合臨床薬学	
2) 前)	公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				総合臨床薬学	
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）			衛生薬学実習			病院・薬局実習
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）						病院・薬局実習
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]						
1) 前)	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				代替医療論 (選)	
2) 前)	代表的な症状（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）				医療コミュニケーション 総合臨床薬学	
3) 前)	代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）		応用天然物化学 (選)		総合臨床薬学 代替医療論 (選)	
4) 前)	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）		応用天然物化学 (選)		医療コミュニケーション 総合臨床薬学 代替医療論 (選)	
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）			応用天然物化学 (選)		代替医療論 (選)	病院・薬局実習
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）			応用天然物化学 (選)		代替医療論 (選)	病院・薬局実習
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						病院・薬局実習
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）			応用天然物化学 (選)		代替医療論 (選)	病院・薬局実習
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						病院・薬局実習

【④災害時医療と薬剤師】			
		先端医療学	総合臨床薬学
		先端医療学	
		先端医療学	病院・薬局実習
<p>1) 前) 災害時医療について概説できる。</p> <p>2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。</p> <p>3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)</p>			
6 薬学研究			
(1) 薬学における研究の位置づけ			
		実践社会学 特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。		実践社会学 特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。		実践社会学 特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)		実践社会学 特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)		実践社会学 特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
(2) 研究に必要な法規範と倫理			
		特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。		特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。		特別実習	特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬薬学Ⅲ(選)

<p>3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲</p>				特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
(3) 研究の実践					
<p>1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)</p>		薬学英語Ⅲ 特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
<p>2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)</p>		特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅰ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅱ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
<p>3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)</p>		特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
<p>4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)</p>		特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
<p>5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)</p>		特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>
<p>6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)</p>		特別実習		特別実習	<p>特別実習 アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ(選) アドバンスト創薬普薬学Ⅲ(選)</p>

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾	120	120	120	120	120	80
入学時の学生数 ²⁾	140	118	132	132	130	109
在籍学生数 ³⁾	144	115	127	130	113	78
留年による者 ⁴⁾	4	6	13	19	12	8
休学による者	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	140	109	114	111	101	70
ストレート在籍率 ⁶⁾	1.00	0.92	0.86	0.84	0.78	0.64
過年度在籍率 ⁷⁾	0.03	0.05	0.10	0.15	0.11	0.10
	(C+D)/B					

- 1) 各学年が入学した年度の入学選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
ストレート在籍者数 [B-(C+D+E)]
- 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)
- 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	135	139	139	123	144
	休学者数 ²⁾	3	1	2	2	2
	退学者数 ²⁾	5	11	11	7	0
	留年者数 ²⁾	4	6	3	1	0
	進級率 ³⁾	0.91	0.87	0.88	0.92	0.99
2年次	在籍者数 ¹⁾	93	127	126	126	115
	休学者数 ²⁾	1	0	2	1	2
	退学者数 ²⁾	2	1	5	6	0
	留年者数 ²⁾	4	5	1	2	0
	進級率 ³⁾	0.92	0.95	0.94	0.93	0.98
3年次	在籍者数 ¹⁾	82	96	137	140	127
	休学者数 ²⁾	1	1	2	2	1
	退学者数 ²⁾	2	2	2	2	0
	留年者数 ²⁾	9	15	20	8	0
	進級率 ³⁾	0.85	0.81	0.82	0.91	0.99
4年次	在籍者数 ¹⁾	76	74	79	114	130
	休学者数 ²⁾	3	0	1	1	0
	退学者数 ²⁾	1	1	0	0	0
	留年者数 ²⁾	1	0	0	1	0
	進級率 ³⁾	0.93	0.99	0.99	0.98	1.00
5年次	在籍者数 ¹⁾	72	71	73	79	113
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	1	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	1	1	0
	進級率 ³⁾	1.00	0.99	0.99	0.99	1.00

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間ににおける学士課程修了(卒業)状況の実態

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A	87	74	75	76	78
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B	85	70	71	76	77
卒業率 ²⁾ B/A	0.98	0.95	0.95	1.00	0.99
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年	82	63	61	63
	7年	2	5	5	6
	8年	0	2	1	5
	9年以上	1	0	4	2
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D	100	85	79	81	93
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D	0.82	0.74	0.77	0.78	0.75

- 1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。
なお、卒業者数は、**当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数**を記載してください。
- 2) 卒業率＝(学士課程修了者数)／(6年次の在籍者数)の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率＝(卒業までに要した¹⁾在学期間が6年間の学生数)／(入学時の学生数)の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	120	120	120	120	120	120	/
実入学者数 ¹⁾ B	109	130	132	132	118	140	127
入学定員充足率 ²⁾ B/A	0.91	1.08	1.10	1.10	0.98	1.17	1.06
編入学定員	-	-	-	-	-	-	/
編入学者数 ³⁾ C+D+E	-	-	-	-	-	-	-
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	-	-	-	-	-	-
	3年次 D	-	-	-	-	-	-
	4年次 E	-	-	-	-	-	-

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

学科名	入試の種類	2017年度入試 (2016年度実施)	2018年度入試 (2017年度実施)	2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)	
薬	一般入試	受験者数	498	610	550	445	515	761	
		合格者数	157	156	156	132	147	138	
		入学者数(A)	87	89	89	76	97	77	
		募集定員数(B)	78	78	78	78	78	78	
	A/B*100(%)	111.54	114.10	114.10	97.44	124.36	98.72		
	大学入学共通テスト 利用入試 (学校推薦型選抜 B)	受験者数	84	74	100	78	77	90	
		合格者数	20	19	18	18	18	18	
		入学者数(A)	19	19	18	18	18	18	
		募集定員数(B)	18	18	18	18	18	18	
		A/B*100(%)	105.56	105.56	100.00	100.00	100.00	100.00	
受験者数		117	104	121	126	106	127		
科	公募推薦入試 (学校推薦型選抜 A)	合格者数	24	24	25	24	25	25	
		入学者数(A)	24	24	25	24	25	25	
		募集定員数(B)	24	24	24	24	24	24	
		A/B*100(%)	100.00	100.00	104.17	100.00	104.17	104.17	
	学科計	受験者数	699	788	771	649	698	978	
		合格者数	201	199	199	174	190	181	
		入学者数(A)	130	132	132	118	140	120	107.22
		募集定員数(B)	120	120	120	120	120	120	
		A/B*100(%)	108.33	110.00	110.00	98.33	116.67	100.00	
		受験者数							
編(転)入試験	合格者数								
	入学者数(A)								
	募集定員数(B)								
	A/B*100(%)								

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により入試に実施した入試のデータは調書提出時に新入学者となっている学生数を記入してください。
2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合「 $[A/B*100(\%)]$ 」を算出してください。
4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
22名	13名	16名	12名	63名	29名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
3名	2名	3名	2名	10名	5名

- 1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含ま
2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
1名	-名

- 1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者
2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
36名	173名	0名	209名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

- 1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 ¹⁾	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
34名	3名	4名	41名

- 1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)
2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員
3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	6名	0名	0名	0名	6名	9.5%
50代	11名	2名	0名	0名	13名	20.6%
40代	5名	10名	8名	1名	24名	38.1%
30代	0名	1名	8名	9名	18名	28.6%
20代	0名	0名	0名	2名	2名	3.2%
合計	22名	13名	16名	12名	63名	100.0%

専任教員の定年年齢:(65歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	20名	12名	14名	9名	55名	88.6%
女性	2名	1名	2名	3名	8名	11.4%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授						生化学 I	18.00	0.60
							生化学 II	18.00	0.60
							総合薬学演習	1.50	0.05
							生物化学実習	30.00	1.00
							内分泌代謝学	9.00	0.15
							生命分子薬学特論	9.00	0.15
						授業担当時間の合計	85.50	2.55	
薬学科	教授(実務)						化学療法学	9.00	0.30
							治験薬学	7.50	0.25
							総合臨床薬学(実習)	4.50	0.15
							総合薬学演習	2.25	0.08
							病院・薬局実習	600.00	20.00
薬学科	教授						一般化学	9.00	0.30
							有機化学II	18.00	0.60
							薬品合成化学	18.00	0.60
							総合薬学演習	4.50	0.15
							有機化学演習	3.00	0.10
							ドラッグデザイン演習	1.50	0.05
							精密有機合成化学	6.00	0.10
							創薬化学特論	4.50	0.08
						授業担当時間の合計	64.50	1.98	

薬学科	教授	薬学概論		4.50	0.15
		感染制御学実習	◎	39.00	1.30
		免疫学		18.00	0.60
		総合薬学演習		2.25	0.08
		化学療法学		9.00	0.30
		授業担当時間の合計		72.75	2.43
薬学科	教授	薬物治療学 I		3.00	0.10
		薬物治療学 II		18.00	0.60
		アドバンスト実践臨床薬学 I		18.00	0.60
		アドバンスト実践臨床薬学 II		18.00	0.60
		総合医療薬学演習		9.00	0.30
		総合薬学演習		4.50	0.15
		総合臨床薬学 (実習)	◎	6.00	0.20
		薬物治療学	院	9.00	0.15
		薬物治療学特論	院	9.00	0.15
				授業担当時間の合計	
薬学科	教授	分析化学		18.00	0.60
		薬品分析化学		18.00	0.60
		機器分析化学		18.00	0.60
		総合薬学演習		3.00	0.10
		分析化学実習	◎	60.00	2.00
		薬品分析化学	院	7.50	0.13
		機能分子学特論	院	4.50	0.08
		授業担当時間の合計		129.00	4.10

薬学科	教授	生薬学		18.00	0.60
		応用天然物化学		16.50	0.55
		代替医療論		6.00	0.20
		生薬学実習	◎	39.00	1.30
		ケミカルエコロジー	院	7.50	0.13
		機能分子学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		90.00	2.83
		薬物動態学		18.00	0.60
		生物薬剤学		18.00	0.60
		薬学概論		4.50	0.15
薬学科	教授	総合薬学演習		3.00	0.10
		薬物動態学実習	◎	36.00	1.20
		総合臨床薬学(実習)	◎	40.50	1.35
		薬剤学	院	6.00	0.10
		英文献リーディング	院	1.50	0.03
		薬剤学特論	院	6.00	0.10
		授業担当時間の合計		133.50	4.23
		物理化学 I		18.00	0.60
		物理化学 II		18.00	0.60
		高分子化学		18.00	0.60
薬学科	教授	物理化学系演習		12.00	0.40
		総合薬学演習		4.50	0.15
		薬学基礎実習	◎	12.00	0.40
		物理化学系実習	◎	48.00	1.60
		薬品物理化学	院	7.50	0.13
		薬物送達学特論	院	4.50	0.08
		授業担当時間の合計		142.50	4.55

薬学科	教授	薬用植物学		18.00	0.60
		情報処理基礎実習	◎	54.00	1.80
		早期体験実習	◎	1.50	0.05
		薬学基礎実習	◎	24.00	0.80
		代替医療論		9.00	0.30
		総合創薬育薬演習		9.00	0.30
		授業担当時間の合計		115.50	3.85
薬学科	教授	医薬品化学		10.50	0.35
		危険物化学		4.50	0.15
		創薬学 1		6.00	0.20
		医薬品プロセス化学・機能性有機化学	院	9.00	0.15
		創薬科学特論	院	4.50	0.08
		新薬論 (連合大学院)	院	22.50	0.38
		授業担当時間の合計		57.00	1.30
薬学科	教授	薬学概論		4.50	0.15
		物理化学系演習		24.00	0.80
		製剤学 I		18.00	0.60
		製剤学 II		18.00	0.60
		先端医療学		4.50	0.15
		総合薬学演習		4.50	0.15
		製剤学実習	◎	30.00	1.00
		製剤学	院	9.00	0.15
		薬物送達学特論	院	9.00	0.15
				授業担当時間の合計	

薬学科	教授	創薬学 I		6.00	0.20		
		医薬品開発学		15.00	0.50		
		治験薬学		7.50	0.25		
		総合臨床薬学 (実習)	◎	3.00	0.10		
		レギュラトリーサイエンス特論	院	9.00	0.15		
		授業担当時間の合計			40.50	1.20	
		薬学科	教授(実務)	薬学概論		6.00	0.20
				医療心理学		18.00	0.60
				医療コミュニケーション		18.00	0.60
				基礎臨床薬学		4.50	0.15
				アドバンスト実践臨床薬学 I		3.00	0.10
アドバンスト実践臨床薬学 II				4.50	0.15		
アドバンスト実践臨床薬学 III				3.00	0.10		
早期体験実習	◎			7.50	0.25		
総合臨床薬学 (実習)	◎			66.00	2.20		
病院・薬局実習	◎			141.00	4.70		
医療薬学(実践薬学特論)	院			7.50	0.13		
英文献リーディング	院	6.00	0.10				
授業担当時間の合計			285.00	9.28			
薬学科	教授	薬学概論		4.50	0.15		
		一般化学		9.00	0.30		
		有機化学 I		18.00	0.60		
		有機合成化学		18.00	0.60		
		有機化学実習	◎	3.00	0.10		
		ドラッグデザイン演習		1.50	0.05		
		創薬化学	院	6.00	0.10		
		創薬化学特論	院	4.50	0.08		
		授業担当時間の合計			64.50	1.98	

薬学科	教授	薬学概論		4.50	0.15		
		公衆衛生学		19.50	0.65		
		衛生化学 I		19.50	0.65		
		衛生化学 II		1.50	0.05		
		総合薬学演習		4.50	0.15		
		衛生薬学実習	◎	36.00	1.20		
		環境衛生学	院	10.50	0.18		
		生命分子薬学特論	院	4.50	0.08		
		授業担当時間の合計			100.50	3.10	
		薬学科	教授(実務)	医薬品情報学		18.00	0.60
				総合医療薬学演習		9.00	0.30
				臨床統計解析学		18.00	0.60
				医薬品安全性学		7.50	0.25
医薬品情報演習				1.50	0.05		
総合薬学演習				3.00	0.10		
基礎臨床薬学				9.00	0.30		
病院・薬局実習	◎			18.00	0.60		
総合臨床薬学(実習)	◎			18.00	0.60		
レギュラトリーサイエンス特論	院			6.00	0.10		
英文献リーディング	院			1.50	0.03		
最新医療情報学	院			1.50	0.03		
臨床研究特別演習	院			1.50	0.03		
専門薬剤師特論	院	1.50	0.03				
授業担当時間の合計			114.00	3.60			

薬学科	教授	薬学概論		4.50	0.15
		臨床薬剤学 I		18.00	0.60
		臨床薬剤学 II		18.00	0.60
		総合薬学演習		3.00	0.10
		総合臨床薬学 (実習)	◎	21.00	0.70
		臨床薬剤学	院	7.50	0.13
		臨床薬剤学特論	院	7.50	0.13
		授業担当時間の合計		79.50	2.40
		薬理学 I		18.00	0.60
薬学科	教授	薬理学 II		18.00	0.60
		薬理学 III		18.00	0.60
		薬理学実習	◎	36.00	1.20
		アドバンスト創薬育薬学 I		4.50	0.15
		総合創薬育薬学演習		9.00	0.30
		総合薬学演習		7.50	0.25
		薬理学	院	15.00	0.25
		生体機能解析学特論	院	4.50	0.08
		授業担当時間の合計		130.50	4.03
薬学科	教授	分子生物		18.00	0.60
		病態生化学 II		19.50	0.65
		薬学英语 III		3.00	0.10
		総合薬学演習		3.00	0.10
		生物化学実習	◎	30.00	1.00
		神経生物学	院	12.00	0.20
		生体機能解析学特論	院	3.75	0.06
		授業担当時間の合計		89.25	2.71
		生物学		18.00	0.60
薬学科	教授	総合創薬育薬学演習		9.00	0.30
		授業担当時間の合計		27.00	0.90

薬学科	教授	英語会話Ⅰ		39.00	1.30		
		英語会話Ⅱ		39.00	1.30		
		英語会話Ⅲ		39.00	1.30		
		薬学英語Ⅰ		39.00	1.30		
		薬学英語Ⅱ		39.00	1.30		
		英語プレゼンテーション	院	90.00	1.50		
		実践英語プレゼンテーション	院	45.00	0.75		
		英語コミュニケーション	院	30.00	0.50		
		授業担当時間の合計			360.00	9.25	
		薬学科	准教授	生薬学実習	◎	54.00	1.80
薬用資源学				18.00	0.60		
代替医療論				3.00	0.10		
総合創薬育薬演習				9.00	0.30		
ケミカルエコロジ-	院			1.50	0.03		
機能分子学特論	院			3.00	0.05		
授業担当時間の合計					88.50	2.88	
薬学科	准教授			医薬品化学		7.50	0.25
				危険物化学		10.50	0.35
				総合薬学演習		1.50	0.05
		有機化学演習		4.50	0.15		
		有機化学実習	◎	9.00	0.30		
		薬学基礎実習	◎	6.00	0.20		
授業担当時間の合計			39.00	1.30			

薬学科	准教授	生体情報学		18.00	0.60
		生物化学演習		24.00	0.80
		生物化学実習	◎	30.00	1.00
		ドラッグデザイン演習		3.00	0.10
		薬学英語Ⅲ		3.00	0.10
		総合薬学演習		2.25	0.08
		内分泌代謝学	院	6.00	0.10
		生命分子薬学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		89.25	2.83
		薬学概論		4.50	0.15
薬学科	准教授	感染制御学実習	◎	39.00	1.30
		微生物学		18.00	0.60
		総合薬学演習		2.25	0.08
		免疫微生物学	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		66.75	2.18
		創薬学Ⅱ		18.00	0.60
薬学科	准教授	先端医療学		4.50	0.15
		総合薬学演習		4.50	0.15
		薬効解析学実習	◎	30.00	1.00
		神経機能解析学	院	3.00	0.05
		生体機能解析学特論	院	6.00	0.10
		授業担当時間の合計		66.00	2.05
薬学科	准教授	数学		19.50	0.65
		統計学		19.50	0.65
		授業担当時間の合計		39.00	1.30

薬学科	准教授(実務)	医療制度論		18.00	0.60	
		医療経済論		16.50	0.55	
		薬学概論		4.50	0.15	
		基礎臨床薬学		4.50	0.15	
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅱ		4.50	0.15	
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅰ		3.00	0.10	
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ		3.00	0.10	
		総合薬学演習		1.50	0.05	
		病院・薬局実習	◎	279.00	9.30	
		総合臨床薬学(実習)	◎	45.00	1.50	
		実践薬学特論	院	3.00	0.05	
		授業担当時間の合計			382.50	12.70
		薬学科	准教授	解剖学		18.00
生理学				18.00	0.60	
総合医療薬学演習				9.00	0.30	
総合薬学演習				2.50	0.08	
授業担当時間の合計			47.50	1.58		
薬学科	准教授	健康・スポーツ科学		18.00	0.60	
		健康・スポーツ実習	◎	78.00	2.60	
		授業担当時間の合計			96.00	3.20

薬学科	准教授(実務)	実践社会薬学		18.00	0.60
		先端医療学		4.50	0.15
		総合医療薬学演習		7.50	0.25
		医薬品安全性学		9.00	0.30
		基礎臨床薬学		6.00	0.20
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅰ		6.00	0.20
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅱ		6.00	0.20
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ		6.00	0.20
		総合薬学演習		4.50	0.15
		早期体験実習	◎	12.00	0.40
		総合臨床薬学(実習)	◎	55.50	1.85
		病院・薬局実習	◎	15.00	0.50
		医療薬学／実践薬学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		153.00	5.05
薬学科	准教授	有機化学演習		12.00	0.40
		総合薬学演習		1.50	0.05
		有機化学実習	◎	12.00	0.40
		薬学基礎実習	◎	6.00	0.20
		創薬化学	院	6.00	0.10
		授業担当時間の合計		37.50	1.15
		細胞生物学		18.00	0.60
薬学科	准教授	生物化学演習		24.00	0.80
		総合薬学演習		1.50	0.05
		生物化学実習	◎	27.00	0.90
		生体機能解析学大講座特論	院	3.75	0.06
授業担当時間の合計		74.25	2.41		

薬学科	准教授	英語会話Ⅰ		39.00	1.30
		英語会話Ⅱ		39.00	1.30
		英語会話Ⅲ		39.00	1.30
		実用英語Ⅰ		19.50	0.65
		実用英語Ⅱ		19.50	0.65
		実用英語Ⅲ		19.50	0.65
		授業担当時間の合計		175.50	5.85
薬学科	講師(実務)	早期体験実習	◎	3.00	0.10
		総合臨床薬学(実習)	◎	10.50	0.35
		病院・薬局実習	◎	600.00	20.00
		総合薬学演習		4.50	0.15
		授業担当時間の合計		618.00	20.60
薬学科	講師(実務)	早期体験実習	◎	3.00	0.10
		総合臨床薬学(実習)	◎	6.00	0.20
		病院・薬局実習	◎	600.00	20.00
		授業担当時間の合計		609.00	20.30
薬学科	講師	薬学概論		4.50	0.15
		病態生化学Ⅰ		18.00	0.60
		薬学英語Ⅲ		3.00	0.10
		総合臨床薬学(実習)	◎	10.50	0.35
		総合薬学演習		1.50	0.05
		臨床薬剤学	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		40.50	1.30
薬学科	講師	薬物治療学Ⅰ		19.50	0.65
		総合薬学演習		1.50	0.05
		総合臨床薬学(実習)	◎	33.00	1.10
		薬物治療学	院	3.00	0.05
		薬物治療学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		60.00	1.90

薬学科	講師	薬学概論		4.50	0.15
		調剤学		18.00	0.60
		ドラッグデザイン演習		3.00	0.10
		薬物動態学実習	◎	36.00	1.20
		総合臨床薬学(実習)	◎	39.00	1.30
		総合薬学演習		1.50	0.05
		薬学英語Ⅲ		3.00	0.10
		薬剤学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		108.00	3.55
		薬学概論		4.50	0.15
薬学科	講師	免疫学		18.00	0.60
		感染制御学実習	◎	30.00	1.00
		授業担当時間の合計		52.50	1.75
		ドラッグデザイン演習		3.00	0.10
薬学科	講師	有機化学演習		13.50	0.45
		薬学基礎実習	◎	6.00	0.20
		有機化学実習	◎	12.00	0.40
		精密有機合成化学	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		37.50	1.20
		早期体験実習	◎	6.00	0.20
		無機化学		19.50	0.65
薬学科	講師	放射化学		19.50	0.65
		物理化学系実習	◎	60.00	2.00
		総合創薬育薬演習		9.00	0.30
		授業担当時間の合計		114.00	3.80

薬学科	講師	ドラッグデザイン演習		3.00	0.10
		物理化学系実習	◎	30.00	1.00
		薬学基礎実習	◎	12.00	0.40
		薬物送達学特論	院	6.00	0.10
		授業担当時間の合計		51.00	1.60
薬学科	講師	生物化学演習		24.00	0.80
		創薬学 I		7.50	0.25
		先端医療学		4.50	0.15
		総合薬学演習		1.50	0.05
		薬効解析学実習	◎	36.00	1.20
		神経機能解析学	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		76.50	2.50
薬学科	講師	情報処理科学		42.00	1.40
		情報処理基礎実習	◎	54.00	1.80
		総合医療薬学演習		9.00	0.30
		授業担当時間の合計		105.00	3.50
薬学科	講師(実務)	医療経済論		1.50	0.05
		病院・薬局実習	◎	600.00	20.00
		授業担当時間の合計		601.50	20.05
薬学科	講師	地球環境論		19.50	0.65
		薬学概論		4.50	0.15
		衛生化学 II		18.00	0.60
		薬学英語 III		3.00	0.10
		総合薬学演習		3.00	0.10
		衛生薬学実習	◎	36.00	1.20
		環境衛生学	院	3.00	0.05
		生命分子薬学特論	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		90.00	2.90

薬学科	講師	薬学英語Ⅲ		3.00	0.10		
		総合医療薬学演習		9.00	0.30		
		医薬品開発学		3.00	0.10		
		総合臨床薬学（実習）	◎	2.67	0.09		
		基礎臨床薬学		1.50	0.05		
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅰ		3.00	0.10		
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅱ		3.00	0.10		
		アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ		3.00	0.10		
		早期体験実習	◎	15.00	0.50		
		レギュラトリサイエンス特論	院	4.33	0.07		
		授業担当時間の合計			47.50	1.51	
		薬学科	講師	有機化学演習		13.50	0.45
				薬学基礎実習	◎	6.00	0.20
				有機化学実習	◎	12.00	0.40
精密有機合成化学	院			3.00	0.05		
授業担当時間の合計					34.50	1.10	
薬学科	講師			有機構造解析学		19.50	0.65
		物理化学演習		24.00	0.80		
		総合薬学演習		1.50	0.05		
		薬学英語Ⅲ		3.00	0.10		
		分析化学実習	◎	60.00	2.00		
		大学院講義	院	3.00	0.05		
		授業担当時間の合計			111.00	3.65	
薬学科	助教	薬理学実習	◎	36.00	1.20		
		薬理学（教授指導下）	院	3.00	0.05		
		授業担当時間の合計			39.00	1.25	

薬学科	助教	薬学概論 (教授指導下)		4.50	0.15
		衛生薬学実習	◎	36.00	1.20
		環境衛生学 (教授指導下)	院	1.50	0.03
		授業担当時間の合計		42.00	1.38
		製剤学実習	◎	36.00	1.20
		薬学英語Ⅲ (教授指導下)		3.00	0.10
		製剤学 (教授指導下)	院	3.00	0.05
		授業担当時間の合計		42.00	1.35
		健康・スポーツ実習	◎	78.00	2.60
		授業担当時間の合計		78.00	2.60
		生物化学実習	◎	30.00	1.00
		授業担当時間の合計		30.00	1.00
		分析化学実習	◎	30.00	1.00
		授業担当時間の合計		30.00	1.00
		病院・薬局実習	◎	600.00	20.00
		授業担当時間の合計		600.00	20.00
		ドラッグデザイン演習 (教授指導下)		3.00	0.10
		有機化学演習 (教授指導下)		12.00	0.40
		有機化学実習	◎	3.00	0.10
		薬学基礎実習	◎	9.00	0.30
		授業担当時間の合計		27.00	0.90
		生薬学実習	◎	42.00	1.40
		授業担当時間の合計		42.00	1.40
		総合臨床薬学 (実習)	◎	1.50	0.05
		病院・薬局実習	◎	600.00	20.00
		授業担当時間の合計		601.50	20.05

薬学科	助教	ドラッグデザイン演習 (教授指導下)		3.00	0.10
		医薬品化学 (教授指導下)		1.50	0.05
		有機化学演習 (教授指導下)		10.50	0.35
		有機化学実習	◎	9.00	0.30
		薬学基礎実習	◎	6.00	0.20
		医薬品プロセス化学・機能性有機化学 (教授指導下)	院	1.50	0.03
		授業担当時間の合計		31.50	1.03
薬学科	助教	生物化学実習	◎	30.00	1.00
		内分泌代謝学 (教授指導下)	院	1.50	0.03
		授業担当時間の合計		31.50	1.03

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、基礎資料7 (専任教員の教育担当状況 例示) に従って記入してください)

- 1) 薬学科 (6年制) 専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は (兼任学科名) を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に (実務) と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目 (兼任学科・兼任学科の科目、**大学院の授業科目も含む**) を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数 (1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間) を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数が多い同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員 (例えば、教授1名と助教、助手2名) が担当していても、常時共同で指導している場合は分担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」 (授業が実施される1年間の基準週数) で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬学科	助手						早期体験実習	9.00	0.30
							総合臨床薬学(実習)	21.60	0.72
							病院・薬局実習	16.50	0.55

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	薬学科の授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
		該当者なし							

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

3年生の在籍学生数	127名 (3年生後期より研究室に配属。5月1日現在では配属先未定)
4年生の在籍学生数	130名
5年生の在籍学生数	113名
6年生の在籍学生数	78名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する研究室 の面積 (m ²)
1	生薬学	3	6	8	7	21	182.3
2	薬理学	2	6	5	2	13	179.2
3	薬品分析化学	3	6	8	5	19	178.4
4	衛生学	3	6	3	2	11	182.3
5	生化学	3	10	3	5	18	179.4
6	感染制御学	3	8	7	5	20	178.9
7	薬物動態学	2	7	7	6	20	179.2
8	臨床薬剤学	2	7	6	5	18	179.4
9	薬物治療学	2	9	6	3	18	182.3
10	地域医療実践薬学	2	4	4	3	11	140.4
11	薬局薬学	4	2	2	4	8	35.1
12	病院薬学	3	1	2	2	5	
13	医薬品情報学	1	2	3	2	7	51.9
14	グローバル・レギュトリー・アセス	2	2	2	2	6	25.0
15	薬品化学	3	6	5	3	14	179.4
16	薬化学	3	5	4	1	10	179.4
17	合成薬品製造学	3	6	6	2	14	179.1
18	分子生物学	3	4	2	4	10	179.1
19	薬効解析学	2	9	7	3	19	182.6
20	免疫生物学	1	0	0	0	0	88.2
21	製剤学	2	10	8	3	21	179.4
22	薬品物理化学	2	5	9	6	20	179.2
23	グリーンファーマシー教育推進センター	2	1	0	0	1	76.5
24	薬草園	1	1	1	2	4	76.5
25	放射化学	1	0	0	0	0	76.5
	合計	58	123	108	77	308	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 教授	氏名 五十里 彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年5月26日	(生化学Ⅱ)講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、重要な点は講義中に書き込んでもらうようにしている。講義に関連した動画を視聴することにより、学生の理解度と満足度が向上しているようであった。アンケート回答者の9割以上が現状に満足している結果であった。	
	2021年12月7日	(生化学Ⅰ)講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、重要な点は講義中に書き込んでもらうようにしている。講義に関連する研究の紹介をしたところ、興味をもつ学生がおり、学習意欲が高まったように思われる。毎回、確認問題の解答を提出してもらっているが、授業内容の理解度を確認できるので良いとの意見がでている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月7日	生化学Ⅱの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。	
	2021年10月5日	生化学Ⅰの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年7月15日	岐阜薬科大学くすり健康セミナーにおいて、「あなたの腎臓は大丈夫ですか？」という演題で、一般市民を対象に講演を行った。	
	2018年9月28日	スペインのサラマンカ大学で開催されたIPAP18において、アジアの薬学教育に関するシンポジウムを企画し、日本の薬学教育について説明した。	
	2021年7月30日	2021年度Webオープンキャンパスにおいて、本学の理念、カリキュラム、就職状況などについて説明した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会・シンポジウムで、指導学生が奨励賞を受賞した。	
	2021年12月1日	「弁理士による特許セミナー」(野村和弘先生)の講演を拝聴し、出願の流れ、出願時の注意点など、特許の取得に関する理解が深まった。	
	2021年12月8日	「大学健康管理における最近の話題」(山本眞由美先生)の講演を拝聴し、大学におけるメンタルヘルスや障害学生への支援に関する理解が深まった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
吉野雄太、五十里彰 尿管におけるCa ²⁺ 、Mg ²⁺ の動態：TRPチャネル	共著	2021年5月	東京医学社, 90, 5, 707-713
Nasako H., Akizuki R., Takashina Y., Ishikawa Y., Shinoda T., Shirouzu M., Asai T., Matsunaga T., Endo S., Ikari A.: Claudin-2 binding peptides, VPDSM and DSMKF, down-regulate claudin-2 expression and anticancer resistance in human lung adenocarcinoma A549 cells	共著	2020年1月	Biochimica et Biophysica Acta, 1867, 118642

Hirota C., Takashina Y., Ikumi N., Ishizuka N., Hayashi H., Tabuchi Y., Yoshino Y., Matsunaga T., Ikari A: Inverse regulation of claudin-2 and -7 expression by p53 and hepatocyte nuclear factor 4 α in colonic MCE301 cells	共著	2021年1月	Tissue Barriers, 9, 1860409
Hirota C., Takashina Y., Yoshino Y., Hasegawa H., Okamoto E., Matsunaga T., Ikari A: Reactive Oxygen Species Downregulate Transient Receptor Potential Melastatin 6 Expression Mediated by the Elevation of miR-24-3p in Renal Tubular Epithelial Cells	共著	2021年7月	Cells, 10, 1893
Yoshino Y., Marunaka K., Kobayashi M., Matsunaga H., Shu S., Matsunaga T., Ikari A: Protective Effects of Ethanol Extract of Brazilian Green Propolis and Apigenin against Weak Ultraviolet Ray-B-Induced Barrier Dysfunction via Suppressing Nitric Oxide Production and Mislocalization of Claudin-1 in HaCaT Cells	共著	2021年9月	International Journal of Molecular Sciences, 22, 10326
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
廣田 智恵子、高階 優衣、吉野 雄太、松永 俊之、五十里 彰 糖化アルブミンによるmiR-24-3pの増加を介したTRPM6マグネシウムチャネルの発現低下		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
周 暁鶴、丸中 歌奈、小林 真緒、後藤 真紀子、勝田 雄治、吉野 雄太、五十里 彰 皮膚ケラチノサイトのヒアルロン酸産生におけるNIPA-like proteinの関与		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
伊藤 綾夏、奈迫 遙華、秋月 梨佐、高階 優衣、江口 博晶、松永 俊之、吉野 雄太、遠藤 智史、五十里 彰 肺腺がんスフェロイド細胞におけるグルコース代謝と化学療法抵抗性に対するCLDN2の影響		2021年7月3日	第67回日本薬学会東海支部大会
Akira Ikari Chemoresistance of lung adenocarcinoma cells by claudin-2 expression		2021年9月29日	4th International Tight Junction Conference
伊藤 綾夏、奈迫 遙華、秋月 梨佐、高階 優衣、吉野 雄太、遠藤 智史、松永 俊之、五十里 彰 肺腺がんスフェロイド細胞におけるクローディン-2によるNrf2シグナルの活性化と抗がん剤抵抗性の獲得		2021年11月3日	第94回日本生化学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年3月～現在	日本生理学会評議員		
2015年4月～現在	日本薬学会代議員		
2017年9月～現在	日本生化学会評議員		
2019年10月～2020年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2020副委員長		
2021年9月3日	令和3年度薬学教育指導者のためのワークショップにおけるタスクフォース		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬局薬学研究室
職名	教授	氏名	井口 和弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月23日	(化学療法学) 講義内容をまとめた資料プリントと講義のスライド原稿を事前に配布し、資料プリント中の重要な点は講義中に書き込んでもらうようにしている。アンケートの回答結果より、多くの学生は現状の講義内容や資料プリントで満足していると考えている。
		2021年7月8日	(治験薬学) 講義のスライド原稿を事前に配布し、重要な点は講義中に書き込んでもらうようにしている。また、学生の理解の補助のために、練習問題を作成し配布している。アンケート結果より、現状の講義内容について概ね好評であると考えている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年8月1日	図解 腫瘍薬学(南山堂)を執筆した。
		2020年8月31日	モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト2021-2022(じほう)を執筆した。
		2021年6月2日	化学療法学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年4月3日	高齢者対象の講演「知っておきたいおくすりとサプリメントのきほん」(十六銀行くるるセミナー)を行った。
		2019年12月7日	岐阜薬科大学薬剤師生涯教育講座において、演題「がん検診のUP-TO-DATE」に関する講演を行った。
		2020年11月13日	羽島薬剤師会研修会において、演題「経口抗がん剤の基礎知識」に関する講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2018年10月8日	日本社会薬学会第37年会において、指導学生(矢島聖子)が演題「公的統計データを用いた薬局の薬剤師数分布に関する現状調査」を発表し、学部学生優秀発表賞を受賞した。
		2021年7月14日	講演「公立大学法人制度とガバナンスの課題」(中田晃先生)を拝聴し、公立大学法人化に関する理解が深まった
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
島内 あかり, 長沼 美紗, 笹岡 沙也加, 畠平 春奈, 元岡 佑美, 長谷川 栞, 福田 昌穂, 中尾 智史, 堺 千紘, 横山 聡, 伊野 陽子, 中村 光浩, 井口 和弘. OTC医薬品における添付文書記載状況調査.	共著	2018年2月	薬学雑誌 138, 259-267
矢島 聖子, 島内 あかり, 堺 千紘, 横山 聡, 伊野 陽子, 松永 俊之, 寺町 ひとみ, 中村 光浩, 井口 和弘. 政府統計データを用いた薬局に従事する薬剤師の分布に関する調査	共著	2018年7月	薬学雑誌 138, 991-1000
森 美穂, 島内 あかり, 矢島 聖子, 西尾 裕斗, 玉木 啓文, 堺 千紘, 長内 理大, 伊野 陽子, 寺町 ひとみ, 中村 光浩, 井口 和弘. 機能性表示食品の包装の情報記載状況に関する調査.	共著	2020年3月	薬学雑誌 140, 443-448

井口 和弘, 山下 修司, 玉木 啓文, 野口 義紘, 長内 理大, 伊野 陽子, 寺町 ひとみ. オンラインで実施した薬剤師対象のリカレント講座における受講者満足度に関する調査.	共著	2021年6月	日本地域薬局薬学会誌 9, 21-26
Kobayashi M., Yonezawa A., Takasawa H., Nagao Y., Iguchi K., Endo S., Ikari A., Matsunaga T.: Development of cisplatin resistance in breast cancer MCF7 cells by up-regulating aldo-keto reductase 1C3 expression, glutathione synthesis, and proteasomal proteolysis	共著	2021年10月	Journal of Biochemistry, mvab117
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
小山 敬之, 永宮 もえ, 玉木 啓文, 長内 理大, 伊野 陽子, 岩田 麻里, 松永 俊之, 堀部 めぐみ, 中村 光浩, 井口 和弘 薬局薬剤師と病院薬剤師の分布の経年変化に関する調査		2021年7月3日	第67日本薬学会東海支部 総会・大会
井口 和弘, 山下 修司, 玉木 啓文, 野口 義紘, 長内 理大, 伊野 陽子, 寺町 ひとみ オンラインで実施した岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座の受講者満足度調査		2021年9月19日	第54回日本薬剤師会学術大会
永宮 もえ, 玉木 啓文, 長内 理大, 伊野 陽子, 岩田 麻里, 松永 俊之, 堀部 めぐみ, 中村 光浩, 井口 和弘 公的統計データを用いた病院薬剤師数の施設間差の現状調査		2021年9月19日	第54回日本薬剤師会学術大会
上山 碧, 玉木 啓文, 長内 理大, 伊野 陽子, 岩田 麻里, 松永 俊之, 中村 光浩, 井口 和弘 薬局薬剤師の人員数と在宅業務実施状況に関する調査		2021年10月9日	第31回日本医療薬学会
Kazuhiro Iguchi, Hiroto Nishio, Hirofumi Tamaki, Arihiro Osanai, Yoko Ino, Toshiyuki Matsunaga, Mitsuhiro Nakamura Changes in geographical distribution of community pharmacists in Japan.		2022年2月11日	The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy (ACCP 2022)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年6月～現在	岐阜市薬剤師会在宅委員会委員		
2017年4月～現在	日本社会薬学会誌編集委員		
2019年6月～現在	日本地域薬局薬学会誌編集委員		
2021年6月～現在	ワクチン調製業務への従事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	合成薬品製造学研究室
職名	教授	氏名	伊藤 彰近
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年 5月 18日	(一般化学) パワーポイントおよびカラー印刷の講義資料を用い、視覚に訴えることにより学生の理解力アップを図っている。アニメーション機能をふんだんに取り入れ、電子の動き・流れを理解しやすいように工夫している。さらに、毎講義終了時に、その時間に講義した内容を復習するために練習問題を課し、学生が講義に対して受動的にならないよう工夫している。学生へのアンケート結果では、非常に高い評価を得ている。
		2021年 6月 4日	(有機化学Ⅱ) パワーポイントおよびカラー印刷の講義資料を用い、視覚に訴えることにより学生の理解力アップを図っている。アニメーション機能をふんだんに取り入れ、電子の動き・流れを理解しやすいように工夫している。さらに、毎講義終了時に、その時間に講義した内容を復習するために練習問題を課し、学生が講義に対して受動的にならないよう工夫している。学生へのアンケート結果では、概ね良好な評価を得ている。
		2021年 12月10日	(薬品合成化学) パワーポイントおよびカラー印刷の講義資料を用い、視覚に訴えることにより学生の理解力アップを図っている。アニメーション機能をふんだんに取り入れ、電子の動き・流れを理解しやすいように工夫している。さらに、毎講義終了時に、その時間に講義した内容を復習するために練習問題を課し、学生が講義に対して受動的にならないよう工夫している。学生へのアンケート結果では、非常に高い評価を得ている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年 4月 6日	一般化学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年 4月 9日	有機化学Ⅱの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年 10月 8日	薬品合成化学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年5月26日	高山市の斐太高等学校の学部学科説明会において、「薬学への招待」と題して出前講義を行い、薬学部の概要(大学での講義、生活、就職先等)を説明した。
		2019年5月24日	高山市の斐太高等学校の学部学科説明会において、「薬学への招待」と題して出前講義を行い、薬学部の概要(大学での講義、生活、就職先等)を説明した。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	「公立大学法人制度とガバナンスの課題」(中田晃先生)の講演を拝聴し、法人化までの流れ、法人化のメリット・デメリット等、公立大学の法人化に関する理解が深まった。
		2021年12月8日	「大学健康管理における最近の話題」(山本眞由美先生)の講演を拝聴し、大学における学生のメンタルヘルスや障害学生への支援に関する理解が深まった。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称

Matsuo, Kazuki; Yoshitake, Tadashi; Yamaguchi, Eiji; Itoh, Akichika Photoinduced Atom Transfer Radical Addition/Cyclization Reaction between Alkynes or Alkenes with Unsaturated α -Halogenated Carbonyls	共著	2021年11月	Molecules, 2021, 26, 6781
S. Maejima, E. Yamaguchi, A. Itoh, A Three-component Iminolactonization Reaction via the Bifunctionalization of Olefins Using Molecular Iodine and Visible Light	共著	2020年7月	J. Org. Chem. 2020, 9, 10709-10718
E. Yamaguchi, N. Taguchi, A. Itoh, Ruthenium polypyridyl complex-catalysed aryl alkoxylation of styrenes: Improving reactivity using a continuous flow photomicroreactor	共著	2019年4月	React. Chem. Eng. 2019, 4, 995-999
K. Usami, E. Yamaguchi, N. Tada, A. Itoh, Visible-Light-Mediated Iminyl Radical Generation from Benzyl Oxime Ether: Synthesis of Pyrroline via Hydroimination Cyclization, Org. Lett. 2018, 20, 5714-5717.	共著	2018年9月	Org. Lett. 2018, 20, 5714-5717
Y. Sudo, E. Yamaguchi, A. Itoh, Photo-oxidative Cross-Dehydrogenative Coupling-Type Reaction of Thiophenes with α -Position of Carbonyls Using a Catalytic Amount of Molecular Iodine,	共著	2017年3月	Org. Lett. 2017, 19, 1610-1613
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
松尾一樹, 山口英士, 多田教浩, 伊藤彰近 フェノール類を用いたアリールハライドの可視光駆動型C-Xボリル化反応		2021年10月	第47回 反応と合成の進歩シンポジウム
前島咲, 山口英士, 伊藤彰近 ホウ素ルイス酸触媒を利用した3位置換ジヒドロベンゾフランの光合成反応の開発		2021年12月	第48回有機典型元素化学討論会
A. Itoh, N.Tada, E. Yamaguchi Synthesis of Various Heterocyclic Compounds Using Photoreaction		2021年12月	PACIFICHEM2021
K. Matsuo, E. Yamaguchi, A. Itoh Halogen-bonding-promoted photoinduced C-X borylation of aryl halide using phenol derivateves		2021年12月	PACIFICHEM2021
村田 実由, 山口 英士, 伊藤 彰近 ペロブスカイト型量子ドットを光触媒とする水素化反応の開発		2022年3月	日本化学会 第102春季年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月~2018年3月	岐阜県弁護士会 懲戒委員会委員		
2019年4月~2020年3月	薬学教育評価機構 評価実施委員		
2019年4月~現在	岐阜市ごみ減量対策推進協議会 会長		
2020年4月~現在	日本薬学会 理事 (総務担当)		
2020年4月~現在	日本化学会 代表正会員		
2021年8月	ワクチン調製業務への従事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	感染制御学研究室
職名	教授	氏名	井上 直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年12月	(免疫学) 多くの学生が現在の授業形態・資料で良いという回答であった。一部に資料の構成等へ意見があり、それぞれに対応した。
		2021年7月	(化学療法学) 出席カードを利用して、学生から多くの質問を受けた。各々回答した。
		2020年度	(総合薬学演習) 化学療法学に関する講義を行った。学生アンケートでは良かった講義の一つに挙がっていた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年度	感染制御学実習を行った。コロナ流行下であったため、オンライン講義・実技ビデオのオンデマンド化を行った
		2020年度	総合薬学演習において、化学療法に関する資料を作成した。
		2021年度	化学療法学の講義に関する資料作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年度	岐阜市科学館において、身近な微生物を直接顕微鏡観察するイベントを主催し、多くの小中学生が集まった。
		2018年度	岐阜市主催の科学教育(才能開花教育)において中学生対象に微生物を観察する実習を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年11月	日本ウイルス学会においてシンポジウム講演を行った。
		2021年2月	日本臨床ウイルス学会において、招待講演を行った
		2020年度	学生アドバイザーや部活動顧問として、学生と積極的に話し、大学生活における活動などについて指導した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Characterization of a thiourea derivative that targets viral transactivators of cytomegalovirus and herpes simplex virus type 1	共著	2021年12月	Antiviral Research 196, 105207
Human cytomegalovirus UL42 protein inhibits the degradation of glycoprotein B through inhibition of Nedd4 family ubiquitin E3 ligases.	共著	2021年11月	Microbiology and Immunology 65 472-480
The carboxyl-terminal penta-peptide repeats of major royal jelly protein 3 enhance cell proliferation.	共著	2020年12月	Biol Pharm Bull 43 1911-1916
Activation of c-Jun by human cytomegalovirus UL42 through JNK activation.	共著	2020年5月	PLoS One 15 e0232635
Roles of GP33, a guinea pig cytomegalovirus-encoded G protein-coupled receptor homolog, in cellular signaling, viral growth and inflammation in vitro and in vivo	共著	2018年12月	PLoS Pathog 14(12): e1007487
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
サイトメガロウイルス糖蛋白五量体による細胞指向性とウイルス遺伝子発現の抑制		2021年11月	日本ウイルス学会

GPCMV BACに導入した9kbの欠失領域が個体での感染に与える影響とその領域にコードされる遺伝子産物	2021年11月	日本ウイルス学会
新規抗HSV-1化合物の作用機序の解明	2021年11月	日本ウイルス学会
モルモットサイトメガロウイルスがコードする細胞死抑制タンパクgp38.3の培養細胞および動物個体における機能の解析	2021年11月	日本ウイルス学会
サイトメガロウイルスワクチンの評価マーカーとしての抗体依存性貪食に対する測定系構築および解析	2021年11月	日本ウイルス学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
日本薬学会中部支部会	会計幹事（2017年度）	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬物治療学研究室
職名	教授	氏名	位田 雅俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月7日	(薬物治療学Ⅱ) 講義の進捗、声の大きさ、講義スライドの使用法などを留意・工夫した。アンケートによる学生からの要望に出来るだけ早く応えること、またその改善点について講義中にアナウンスし、学生へフィードバックした。概ね、アンケートにおいて、高評価であった。
		2022年1月7日	(総合医療薬学演習) 本演習ではPBL形式での議論とプロダクト発表を課しているが、学生の関連な議論やプロダクトの効率的な作成を促すために助言・指導を行った。アンケートの結果より、現状の講義内容や評価方法等については概ね好評であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月5日	薬物治療学Ⅱの講義で使用するレジユメを作成し、学生に配布した。
		2021年12月17日	薬物治療学Ⅰの講義で使用するレジユメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年8月2日	2019年度オープンキャンパスにおいて、高校生を対象にして顕微鏡を用いた研究内容を説明した。□
		2019年10月26日	2019年度岐阜市科学館が主催する「岐阜科学塾」において、小学生、中学生を対象にして「からだって何でできてるの?～色と光でのぞいてみよう～」の実験を担当した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年12月13日	CBT体験および本試験モニター(名古屋市立大学薬学部)
		2021年12月1日	「弁理士による特許セミナー」(野村和弘先生)の講演を拝聴し、出願の流れ、出願時の注意点など、特許の取得に関する理解が深まった。
		2021年12月8日	「大学健康管理における最近の話題」(山本眞由美先生)の講演を拝聴し、大学におけるメンタルヘルスや障害学生への支援に関する理解が深まった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Go S, Kurita H, Hatano M, Matsumoto K, Nogawa H, Fujimura M, Inden M, Hozumi I. DNA methyltransferase- and histone deacetylase-mediated epigenetic alterations induced by low-level methylmercury exposure disrupt neuronal development.	共著	2021年4月	Arch Toxicol, 95, 1227-1239.
Tanaka N, Kimura S, Kamatari Y, Nakata K, Kobatake Y, Inden M, Yamato O, Urushitani M, Maeda S, Kamishina H. In vitro evidence of propagation of superoxide dismutase-1 protein aggregation in canine degenerative myelopathy.	共著	2021年8月	The Veterinary Journal, 274, 105710.

Kurita H, Ozawa K, Yamada M, Inden M, Hirata K, Hozumi I. Evaluation of headaches in primary brain calcification in Japan.	共著	2021年10月	Neurology and Clinical Neuroscience, 9, 459-465.
Inden M, Takagi A, Kitai H, Ito T, Kurita H, Honda R, Kamatari Y, Nozaki S, Wen X, Hijioka M, Kitamura Y, Hozumi I. Kaempferol has potent protective and antifibrillogenic effects for alpha-synuclein neurotoxicity in vitro.	共著	2021年10月	Int J Mol Sci, 22,11484.
Umetsu R, Tanaka M, Nakayama Y, Kato Y, Ueda N, Nishibata Y, Hasegawa S, Matsumoto K, Takeyama N, Iguchi K, Tanaka H, Hinoi E, Inagaki N, Inden M, Muto Y, Nakamura M. Neuropsychiatric adverse events of montelukast: an analysis of real-world dataset and drug-gene interaction network.	共著	2021年12月	Front Pharmacol. in press.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
高木彩圭, 北井葉月, 栗田尚佳, 位田雅俊 α -Synuclein毒性に対する kaempferolの神経保護効果		2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
Naoko Takase, Masatoshi Inden, Hisaka Kurita, Eiji Yamaguchi, Akichika Itoh, Isao Hozumi Protective effect of 12AC30 against high inorganic phosphate-induced vascular calcification		2021年7月	第44回日本神経科学大会
位田雅俊 生体必須元素に着目した神経変性疾患の発症機序の解明と創薬への展開		2021年8月	生体機能と創薬シンポジウム2021
栗田尚佳, 郷すずな, 増田 遥, 保住 功, 位田雅俊 メチル水銀曝露の神経分化に及ぼす影響と関連遺伝子のエピゲノム解析		2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
村上貴規, 栗田尚佳, 保住 功, 垣内 亮, 平山 祐, 永澤秀子, 位田雅俊家族性パーキンソン病の原因遺伝子PARK9に起因する細胞内恒常性に与える影響		2021年11月	第140回日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～現在	日本薬理学会・学術評議員		
2018年4月～現在	日本毒性学会生体金属部会・幹事		
2018年4月～2020年3月	日本薬学会ファルマシア・トピックス小委員		
2018年4月～現在	日本私立薬科大学協会・薬剤師国家試験問題検討委員会委員（病態・薬物治療部会）		
2020年4月～現在	薬理学エデュケーター（日本薬理学会）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品分析化学研究室
職名	教授	氏名	江坂 幸宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月23日	(分析化学) 入学後、初めて受講する大学の講義の一つであり、スライドが平易で、多色の図で親しみやすくなるように留意している。また、比較的ゆっくり、前回の講義内容の復習を随所に入れながら進めている。アンケート結果では、これらの点は全体に好評である。
		2021年12月1日	(薬品分析化学) 講義内容について、できるだけ実例を挙げて、説明を丁寧に行っている。前期の授業(分析化学)と内容が深くかかわっているので、その復習を含めて理解の促進を計っており、アンケートでは好評である。また、内容を学習後、すぐに演習問題を解く形式をとっているが、これも「理解のうえでとても効果的である。」との好評を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月30日	(機器分析化学) 講義で使用する教科書(アップデート薬学機器分析学・廣川書店・共著)を出版した。
		2021年10月6日	(薬品分析化学) 講義で使用する教科書とノートを兼ねた書き込み型のレジュメを作成し、配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年9月10日	中日新聞Web上で、一般の方を対象に、発がんのきっかけとなるDNAの損傷と予防、医学的展望について、2022年1月30日まで計6回執筆した。
		2021年12月16日	名古屋市立桜台高校へ訪問し、模擬講義を行った。薬学及び薬科大学のカリキュラム、行われる研究について紹介した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年12月16日	内川菜月先生による「ハラスメント防止研修会」(講演)に参加した。大学で留意すべきハラスメントの防止・対策について多く参考になった。
		2021年12月1日	野村和弘先生による「弁理士による特許セミナー」(講演)に参加した。特に、出願時の注意すべきことについて多く参考になった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
H. Murakami, R. Horiba, T. Iwata, Y. Miki, B. Uno, T. Sakai, K. Kaneko, Y. Ishihama, N. Teshima, Y. Esaka; Progress in a selective method for the determination of the acetaldehyde-derived DNA adducts by using HILIC-ESI-MS/MS,	共著	2017年9月	Talanta, 177, 12-17
Y. Esaka, K. Hisato, T. Yamamoto, H. Murakami, B. Uno; Evaluation of Type A Endonucleases for Quantitative Analysis of DNA Damages due to Exposure to Acetaldehyde Using Capillary Electrophoresis	共著	2018年8月	Analytical Sciences, 34, 901-906
H. Murakami, H. Tomita, T. Aoyanagi, T. Sugita, Y. Miki, Y. Esaka, Y. Inoue, N. Teshima; Effects of pendant-like hydrophilic monomers on the adsorption properties of reversed-phase-type sorbents for solid-phase extraction	共著	2019年10月	Analytica Chimica Acta, 1075, 106-111

Y. Esaka, H. Aruga, S. Kunishima, T. Yamamoto, H. Murakami, Sawama, H. Sajiki, B. Uno; Preparation of N2-Ethyl-2'-deoxyguanosine-d4 as an Internal Standard for electrospray ionization tandem mass spectrometry (ESI-MS/MS) Determination of DNA Damage from Acetaldehyde	共著	2020年7月	Analytical Sciences, 36, 877-880
H. Matsumoto, N. Kawashima, T. Yamamoto, M. Nakama, H. Otsuka, Y. Ago, H. Sasai, K. Kubota, M. Ozeki, N. Kawamoto, Y. Esaka, H. Ohnishi; In vitro functional analysis of the variants of human asparagine synthetase	共著	2021年5月	Journal of Inherited Metabolic Disease, 44, 1226-1234
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
松浦泰己, 福田晃貴, 荻谷有城, 江坂幸宏, 宇野文二, 山本拓平; Neighboring group effect on nucleophilicity of disulfide bond		2021年4月5日	第261回アメリカ化学会国際学会
濱田修作, 高須蒼生, 山本拓平, 宮城清弦, 中村信介, 嶋澤雅光, 原英彰, 江坂幸宏; LVSEP-CZE - 間接吸収検出法による虚血性疾患時に変動する網膜中有機酸定量に関する研究		2021年9月1日	第33回バイオメディカル分析科学シンポジウム
吉川 一輝, 西山 悠太, 高須 蒼生, 山本 拓平, 村上 博哉, 江坂 幸宏; DNA付加体のLC/MS/MS分析法構築-プリン塩基形態での分析		2021年9月22日	日本分析化学会第70年会
川島 菜奈, 江坂 幸宏, 松本 英樹, 笹井 英雄, 大西 秀典; 先天性アミノ酸代謝異常の定量的評価を目的とする高感度アミノ酸分析法の検討		2021年11月26日	第32回クロマトグラフィー科学会
江坂 幸宏, 吉川 一輝, 村上 博哉, 川井 隆之; LDIS-CZE-ESI-MS法による超高感度DNA損傷分析に関する研究		2021年12月9日	第41回キャピラリー電気泳動シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2005年4月～現在	クロマトグラフィー科学会 評議員		
2013年3月～2021年2月	日本分析化学会 中部支部 常任委員		
2015年3月～2019年2月	日本分析化学会 電気泳動分析研究懇談会 委員長		
2019年8月～現在	日本薬学会 バイオメディカル分析科学シンポジウム世話人		
2020年3月～現在	日本分析化学会 学会誌編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 生薬学研究室	職名 教授	氏名 大山 雅義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年6月22日	(代替医療論) 昨年度より国家試験の漢方対策を意識した講義内容に刷新したことで、今年度の受講者数は倍増した。カラー写真やイラストをふんだんに活用した視覚的に理解しやすいデジタル資料を講義ノートに掲載し、各自のIoTデバイスからフリーアクセスできるようにした。	
	2021年11月15日	(生薬学) 講義スライドは情報過多にならぬよう極力シンプルに、そして写真や図を盛り込みカラフルに作成した。今年も感染拡大防止対策のため2教室に分かれての授業となったので、説明しながらiPadに書き込むことで、非対面教室でもライブ感が出るように工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年9月25日	医歯薬出版「エッセンシャル天然薬物化学」第2版	
	2021年12月25日	南江堂「新訂 生薬学」改訂第9版	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月15日	生薬学・天然物化学教科担当会議にて「コアカリ漢方教育に対して生薬学が担うべきこと」という演題で特別講演した。	
	2018年9月28日	サラマンカ大学で開催された教員会議IPAP18に参加し、美濃薬膳を巡る産官学の取組と本学における漢方生薬教育に関する2演題を発表した。	
	2021年12月18日	本学主催の薬剤師生涯教育講座にて「薬剤師のための漢方学」という演題で講演し、簡便な漢方薬のパターン分類について解説した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年9月1日	岐阜市教育委員会と共催の「土曜日の才能開花教育」にて中学生80名の研究室体験実習を指揮すると共に薬学部とクスリに関するミニ講義を行った。	
	2021年12月8日	岐阜大学健康管理センター・山本眞由美先生を講師として迎えたFD・人権ハラスメント講演会「大学健康管理における最近の話題」を聴講した。	
	2021年12月15日	成績不振で留年を繰り返している学生の父親と面談し、生活態度、心療内科の治療経過、修学不安、両親の意向等について意見交換をした。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Jalmakhanbetova RI, Suleimen YM, Oyama M, Elkaced EB, Eissa IH, Suleimen RN, Metwaly AM, Ishmuratova MY, Isolation and <i>in silico</i> anti-COVID 19 main protease (Mpro) activities of flavonoids and a sesquiterpene lactone from <i>Artemisia sublessingiana</i>	共著	2021年5月	<i>J Chem</i> (2021) DOI: 10.1155/2021/5547013
Nakashima K, Yamaguchi E, Noritake C, Mitsugi Y, Goto M, Hirai T, Abe N, Sakai E, Oyama M, Itoh A, Inoue M, Discovery of natural-product-inspired RXR agonists with heterodimer selectivity to PPAR γ -RXR	共著	2020年6月	<i>ACS Chem Biol</i> , 15(6), 1526-1534 (2020)

Endo S, Matsuoka T, Nishiyama T, Arai Y, Kashiwagi H, Abe N, Oyama M, Matsunaga T, Ikari A, Flavonol glycosides of <i>Rosa multiflora</i> regulates intestinal barrier function through inhibiting claudin expression in differentiated Caco-2 cells	共著	2019年12月	<i>Nutr Res</i> , 72, 92-104 (2019)
Mori K, Shimogomi A, Abe N, Haba M, Yoshimura T, Witono JR, Darnaedi D, Tanaka T, Murata J, Oyama M, Thee new 5,6-dihydro-a-pyrone isolated from <i>Cryptocarya nitens</i>	共著	2018年9月	<i>Heterocycles</i> , 96(9), 1583-1591 (2018)
Nakashima K, Abe N, Chang FR, Inoue M, Oyama M, Pteleifolols A-E, acetophenone di-C-glycosides and a benzopyran dimer from the leaves of <i>Melicope pteleifolia</i>	共著	2017年1月	<i>J Nat Med</i> , 71(1), 299-304 (2017)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
マンサク科 <i>Sycopsis sinensis</i> のフェノール性成分に関する研究(2)		2021年・9月	日本生薬学会第67回年会
イロハモミジ (<i>Acer palmatum</i>) の成分研究		2021年・9月	日本生薬学会第67回年会
カヤツリグサ科植物の成分研究(10) テンツキの成分研究		2021年・9月	日本生薬学会第67回年会
マメ科 <i>Crotalaria breviflora</i> の成分研究		2021年・9月	日本生薬学会第67回年会
ホワイトサポテのフラボノイドに関する研究		2021年・11月	第12回岐阜薬科大学機能性食品研究講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
(2015年4月)～現在	国際東洋医学会理事		
(2016年4月)～2018年1月	日本生薬学会関西支部長		
(2016年4月)～2018年3月	日本薬学会東海支部幹事（大学）		
2018年2月～現在	日本生薬学会代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬物動態学研究室
職名	教授	氏名	北市 清幸
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月30日	(薬物動態学) PPT、プリントを用い、演習も含め、学生が興味を引くような取り組みを行っている。ネット採点できる問題の提供も行った。授業関連資料、授業録画 (Zoom)、過去問は講義資料としてweb上に公開している。アンケート回答者の9割以上が現状に満足との結果だった。
		2021年11月24日	(生物薬剤学) PPT、プリントを用い、演習も含め、学生が興味を引くような取り組みを行っている。アンケート回答者の9割以上が現状に満足との結果だった。
		オムニバスにつきフィードバック無し	(総合臨床薬学) 評価体制全体の統括を行っている。OSCEに関わる実習の指導も行った。与えられた授業では薬物動態学の基本をビデオ映像も使用し再確認した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月8日	薬物動態学で使用するレジユメを作成し配布した。
		2021年5月28日	薬物動態学実習で使用するレジユメを作成し配布した。
		2021年10月6日	生物薬剤学で使用するレジユメを作成し配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年10月24日 -11月1日 (WEB)	第30回日本医療薬学会年会 (シンポジウム34: 新時代の薬剤師像を考える ~薬学教育の課題と Pharmacist-Scientist養成への取り組み) にて「岐阜薬科大学における新6年制導入とその意義」の演題で発表した。
		2021年6月17日	岐阜県立大垣北高等学校にて高校出前講演をした。
		2021年6月27日 (WEB)	令和3年度第4回健康食品管理士教育研修会にて「基本を知ろう! 食品と医薬品の相互作用」の演題で講演した。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2019年2月28日- 3月2日	ASEAN-CINP 2019において指導学生 (首村菜月・M1) が演題「The isomeric discrimination and investigation of the metabolic profiles of synthetic cannabinoids」を発表しPoster Awardを受賞した。
		2020年8月21日	原著論文 (Itabashi S., Bito R., Nishina M., Fukumoto M., Soda M., Doi M., Usui S., Kitaichi K. Determination of lamotrigine in human plasma using liquid chromatography-tandem mass spectrometry. Neuropsychopharmacol Rep. 39(1), 48-55 (2019)) が日本精神神経薬理学会誌NPPRのNPPR Article Award 2020に選ばれた。
		2021年11月17日	令和3年度第2回岐阜薬科大学アントレプレナーシップ講演会を主催し、アントレプレナーシップ活動推進に尽力した。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Nakayama H., Nakahara M., Matsugi E., Soda M, Hattori T., Hara K, Usami A., Kusumoto C., Higashiyama S., Kitaichi K: Protective Effect of Ferulic Acid against Hydrogen Peroxide-induced Apoptosis in PC12 cells.	共著	2020年12月	Molecules. 2021 Jan; 26(1): 90.
Ohi K., Takai K., Sugiyama S., Kitagawa H., Kataoka Y., Soda M., Kitaichi K., Kawasaki Y., Ito M., Shioiri T: Intelligence Decline across Major Depressive Disorder, Bipolar Disorder and Schizophrenia.	共著	2021年3月	CNS Spectrums, in press
Ohi K., Takai K., Kuramitsu A., Sugiyama S., Soda M., Kitaichi K., Shioiri T: Causal Associations of Intelligence with Schizophrenia and Bipolar Disorder; Mendelian Randomization Analysis.	共著	2021年10月	Eur Psychiatry. 64(1):e61.
Ohi K., Sugiyama S., Soda M., Kitaichi K., Kawasaki Y., Shioiri T: Effects of Genome-Wide Neuroticism-Associated Variants on Five-Factor Model Personality Traits in Schizophrenia.	共著	2021年11月	Neuroscience Res. 172, 87-91
一般社団法人日本医薬品安全性学会監修、宇野勝次編、医薬品副作用・安全性ガイドブック 49 女性ホルモン製剤、50 男性ホルモン製剤、51 代謝異常治療薬、52 甲状腺治療薬、53 骨・カルシウム代謝薬	共著	2021年12月	南江堂、249-271
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
木下智絵、森川美空、伊藤宏輔、曾田翠、塚本桂、岩木孝晴、田中宏幸、伊藤哲朗、北市清幸 合成カンナビノイドの代謝における種差に関する研究		2021年5月13-15日	日本薬剤学会第36年会
有我真帆、曾田翠、塚本桂、寺町ひとみ、萩田淳一郎、北市清幸 メトホルミン血漿中濃度測定系の確立とその測定によりメトホルミンによる有害事象発現の可能性が高いと考えられた1症例		2021年5月29-30日	第37回日本TDM学会学術大会
坂井彩華、曾田翠、有我真帆、浅野朱里、佐橋春香、松宮英美里、佐野空、臼井茂之、堀晃代、後藤千寿、水井貴詞、米田尚生、北市清幸 エンザルタミド血漿中濃度測定系の確立と患者検体測定による本測定系の有用性の検討		2021年5月29-30日	第37回日本TDM学会学術大会
伊藤秀、田外秀俊、五島蒼、松尾桃花、森理人、曾田翠、塚本桂、北市清幸 LC-MS/MSを用いた血漿中オキシコドン濃度測定系の確立		2021年7月10日	第5回 日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
宇佐美歩樹、原 亘輝、橋本桂樹、服部友香、曾田 翠、中山寛尚、村瀬仁章、北市清幸 経口摂取されたフェルラ酸の生体内挙動に関する研究		2021年11月27日	第12回 岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年1月～現在	岐阜県医療審議会委員		
2018年9月～現在	日本医薬品安全性学会 理事		
2018年11月～現在	日本神経精神薬理学会 理事		
2018年11月～現在	岐阜県薬物指定審査会会長		
2020年4月～現在	日本食品安全協会 副理事長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品物理化学研究室
職名	教授	氏名	近藤 伸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月24日	(物理化学Ⅱ) スライドを用いた講義を行っている。学生からは「スライドが見易い」、「現状のままで良い」という意見をもらっている。演習問題を3回行った。
		2021年12月2日	(高分子化学) 板書による講義を行っており、時々学生に質問して理解度を測りながら進めている。学生からは「現状のままで良い」という意見をもらっている。補足資料の配布および演習問題を2回行った。
		2021年12月10日	(物理化学Ⅰ) スライドを用いた講義を行っている。補足資料の配布および演習問題を2回行った。学生参加型の演習問題を行ったが、学生には理解しやすかったと好評であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年5月13日 2021年6月18日 2021年6月24日	物理化学Ⅱで使用使用する演習問題を3種類作成し、学生に配布した。
		2021年10月8日 2021年11月19日 2021年12月10日	物理化学Ⅰで使用使用する補足資料を作成し、学生に配布した(10月8日)。また演習問題を2種類作成し、学生に配布した。
		2021年11月25日 2021年12月9日 2022年1月6日	高分子化学で使用使用する演習問題を2種類作成し、学生に配布した。また、補足資料を作成し、学生に配布した(1月6日)。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年7月20日	高校教員向けに薬学科の説明と入試説明を行った。
		2021年7月27日	岐阜県内の高校教員向けに、入試説明会を行った。
		2021年7月30日	2021年度Webオープンキャンパスにおいて、高校生向けに入試説明会を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年4月 11月	アドバイザーが1回生の担当であり、4月には大学の講義等になれたか下宿等の生活に問題が無いかを聴取した。11月には前期の成績等について聞き取りをした。
		2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題—メンタルヘルスと障害学生支援を中心に—」と題した、人権ハラスメント・FD/SD講演会に参加した。多様な学生に対する課題等も解かり有意義な講演会であった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Naoki Doi, Yasushi Sasai, Yukinori Yamauchi, Tetsuo Adachi, Masayuki Kuzuya, and Shin-ichi Kondo, : Kinetic analysis of mechanoradical formation during the mechanolysis of dextran and glycogen	共著	2017年	Beilstein J. Org. Chem., 13, 1174-1183
Shin-ichi Kondo, Yasushi Sasai, Naoki Doi, Yukinori Yamauchi, and Masayuki Kuzuya, : Application to Nano Drug Carrier Using Polymer Nano-Film Synthesized on Self-Assembled Phospholipid Layer Fabricated by Plasma-Assisted Method	共著	2019年	J. Photopolym. Sci. Technol., 32(3), 541-544

Shin-ichi Kondo, Yasushi Sasai, Naoki Doi, Yukinori Yamauchi, Masayuki Kuzuya; Characterization of pH-Responsible Polymer Nano-Film Synthesized on Self-Assembled Phospholipid Layer Fabricated by Plasma-Assisted Method	共著	2020年	J. Photopolym. Sci. Technol., 33(3), 333-336
Naoki Doi, Yukinori Yamauchi, Ryo Ikegami, Masayuki Kuzuya, Yasushi Sasai Shin-ichi Kondo; Photo-responsive polymer micelles from o-nitrobenzyl ester-based amphiphilic block copolymers synthesized by mechanochemical solid-state copolymerization	共著	2020年	Polymer Journal, 52(12), 1375-1385
Shin-ichi Kondo, Naoki Doi, Yasushi Sasai, Yukinori Yamauchi, and Masayuki Kuzuya; Characterization of Shape of Polymer Nano-Films Possessing Various Crosslinking Chain Length	共著	2021年	J. Photopolym. Sci. Technol., 34(3), 533-536
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
近藤伸一、土井直樹、笹井泰志、山内行玄、葛谷 昌之; 架橋鎖長の異なる高分子ナノフィルムの形状評価		2021年6月15~16日	第38回国際フォトポリマーコンファレンス
鈴木香帆、土井直樹、葛谷昌之、近藤伸一、環境低負荷型固相反応によるデキストランを基盤とするグラフトコポリマーの設計		2021年12月4日	日本バイオマテリアル学会 関西ブロック 第16回若手研究発表会
石井 綾乃、鈴木 香帆、土井 直樹、葛谷 昌之、近藤 伸一、流動性あるリン脂質膜上へのCYPおよびCYPリダクターゼの固定化とその活性評価		2022年3月25~28日	日本薬学会第142年会
吉村和真、桑垣内雄大、土井直樹、葛谷昌之、近藤伸一、新規格子点化合物を用いた高分子ナノフィルムの構築とその粒子形評価		2022年3月25~28日	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年 — 2020年	日本学術振興会「水の先進理工学」第183委員会 運営委員		
2011年 — 現在	プラズマ材料科学第153委員会 学会委員		
2015年 — 現在	フォトポリマーコンファレンス組織委員		
2016年 — 2017年	科学研究費委員会専門委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬草園研究室
職名	教授	氏名	酒井 英二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021. 5. 18	(代替医療論) 紙媒体の配布資料が欲しいとの要望があったが、講義の2週間前までに講義ノートに資料をUPすることで対応した。
		2021. 6. 3	(薬用植物学) 提出後に小テストの問題が閲覧出来ない指摘があり、同じの内容の確認テスト問題を講義ノートに掲載することにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021. 9. 1	漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト4第5版を刊行(分担 日本薬局方の生薬規格と鑑定(形態))
		2021. 12. 4	第十八改正日本薬局方解説書-条文・注・解説-(廣川書店)を刊行(D生薬等を担当)
		2021. 12. 25	新訂生薬学第9版(南江堂)を刊行(執筆および編集者)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021. 4. 27	岐阜県薬剤師会の薬食同源研修会(ビデオ配信)で、「先人の知恵から、未病、フレイルを考える」と題して東洋医学の観点から解説を行った。
		2021. 11. 27	羽島薬剤師会の研修会で、伊吹山の薬草を題材に後期を行った。薬剤師が対象ということもあり、効能効果についても触れる内容とした。
		2021. 7. 20	ぎふ道草さんぽ(岐阜市生涯学習センター 市民講座)において、身近にある植物をテーマに野外観察のポイント講義した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021. 7. 14	「公立大学法人制度・・・」を受講し、必要性和リスクを少し理解できた。目前の法人化を有益なものとするために努力しようと思った。
		2021. 12. 1	特許セミナーを受講し、特許制度を身近に感じる事ができた。無縁と思っていた特許を今後の研究に結び付けるきっかけを得た。
		2021年度	担任として担当1年次学生21名と直接面談を実施し、2年次(22名)、3年次(17名)については、アドバイザーと情報共有を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
後藤稔治, 川村智子, 酒井英二, 田中俊弘; 乗鞍岳におけるウラボリナナカマドとナナカマドの標高差による開花・結実の相違	共著	2017年12月	植物地理・分類研究雑誌, 65, 95-98
Tomiaki Minatani, Hikoto Ohta, Eiji Sakai, Toshiyuki Tanaka, Kotaro Goto, Daisuke Watanabe, Haijime Miyaguchit; Anaalisy of tociic Veratrum alkaloides in plant samples from an accidental poisoning case, Foernsic Toxicol.	共著	2018年1月	Foernsic Toxicol, 36, 200-210
西尾雅世, 有本恵子, 石原理恵, 伊藤美千穂, 居村克弥, 岡坂衛, 河端昭子, 酒井英二, 嶋田康男, 高井善孝, 田上貴臣, 十倉佳代子, 野村涼坪, 松田久司, 松本卓也, 山本豊, 横倉胤夫, 吉川正人; 女貞子について: HPLCによるオレアノール酸及びウルソール酸分析法の検討と市場品及び採取調製品の分析	共著	2019年2月	生薬学雑誌, 73, 55-67

Ken-ichi Nakashima, Eiji Yamaguchi, Chihaya Noritake, Yukari Mitsugi, Mayuki Goto, Takao Hirai, Naohito Abe, Eiji Sakai, Masayoshi Oyama, Akichika Itoh, Makoto Inoue: Discovery and SAR of Natural-Product-Inspired RXR Agonists with Heterodimer Selectivity to PPAR δ -RXR.	共著	2020年6月	ACS Chemical Biology, 15, 1526-1534.
石原理恵, 有本恵子, 伊藤美千穂, 居村克弥, 大井逸輝, 岡坂衛, 河端昭子, 酒井英二, 嶋田宏志, 嶋田康男, 田上貴臣, 辻本絵里, 西尾雅世, 野村涼坪, 松田久司, 松本卓也, 山本豊, 横倉胤夫: シテイ(柿蒂)について: HPLCによるベツリン酸, ウルソール酸及びオレアノール酸分析法と市場品及び採取品の分析	共著	2021年2月	生薬学雑誌, 75, 1-17
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
神保俊輔, 岩佐華, 南谷臣昭, 長尾ゆきの, 近藤真由菜, 酒井英二, 五十里里影, 松永俊之: アジサイ毒フェブリフジン誘発胃細胞障害における抗酸化能の意義		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
田上貴臣, 石田晃太, 石原理恵, 伊藤美千穂, 大井逸輝, 岡坂衛, 河端昭子, 酒井英二, 髙原稜太, 西尾雅世, 松田久司, 森川敏生, 山本豊, 横倉胤夫: 生薬品質集談会報告第53報 -エンメイソウについて-		2021年11月25日	第49回生薬分析シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2000年4月~現在	生薬分析シンポジウム 幹事		
2004年5月~現在	日本薬局方原案検討委員会 (生薬等A委員会) 委員		
2006年10月~現在	日本生薬学会 学会誌編集委員会 委員		
2017年5月~現在	薬用作物産地支援体制整備検討会 委員		
2018年6月~現在	公益社団法人 日植物園協会 理事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬品化学研究室	職名 教授	氏名 佐治木 弘尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年6月23日	(医薬品化学)配布プリントに教科書のページを反映してほしいとの記載があったが、講義の間に学生が自分で確認して書き込みをすることで教育効果が上がる点を説明した。	
	2021年10月～11月	(創薬学 I)米国の製薬会社でデザイン・開発したMRI造影剤であるVasovistの、構造デザインの経緯、研究開発の経緯とステップ、様々な問題点、FDA認可と取り下げの経緯、知財のあり方などを中心に講義し、日米の違いを交えて、実際の「創薬と製薬」を意識できるような構成にしている。	
	2021年12月～2022年1月	(危険物化学)薬学出身者として試薬や医薬品を安全に取り扱うための基本的な知識と考え方をわかりやすく伝授するように努めている。全国平均合格率が20%程度である「甲種危険物取扱者」資格試験に学部期間に合格する者もあり、資格に対する意識向上の点を含めて教育効果は挙げられている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年第2版	2015年に廣川書店から出版した教科書を使用し、追加部分は独自のプリントで対応している	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021/3/31～現在	第二回ケムステVプレミアレクチャー 我が国最大の化学ポータルサイトでの2時間のレクチャーとYouTubeによる継続的な配信。1月23日現在、3,150回を超える再生・聴講を受けている	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月30日 8月2日、	2021年岐阜薬科大学オープンキャンパス模擬講義「薬学部における研究とは？」のタイトルで講演	
	2022年8月12日	罫ヤリアガイダンス@岐阜 「大学院進学インセンティブ」のタイトルで講演	
	2021年4月2日	大学院ガイダンス 令和3年度 岐阜薬科大学大学院説明会で説明	
	2021年6月5日	岐阜薬科大学大学院入試説明会 令和4年度 岐阜薬科大学大学院入試説明(大学院概要)	
	2021年9月と11月	学会での指導学生の受賞(4件) 第52回中部化学関係学協会支部連合大会(2件)、第119回有機合成シンポジウム(2件)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Multicomponent Double Mannich Alkylamination Involving C(sp ²)-H and Benzylic C(sp ³)-H Bonds	共著	2021年12月	Nature, Nature Commun., in press
Highly Selective Hydrogenative Conversion to the Tertiary, Secondary, and Primary Amines of Nitriles under Flow Reaction Conditions	共著	2021年11月	Wiley, ChemSusChem, in press

Skeletal Reorganization Divergence of N-Sulfonyl Ynamides	共著	2020年10月	Nature, Nature Commun., 2020, 11, 5639-5648
Copper-Catalyzed Aqueous N-O Bond Cleavage of 2-Oxa-3-Azabicyclo Compounds to Cyclic cis-1,4-Amino Alcohols.	共著	2020年9月	Wiley, ChemSusChem, 2020, 13, 5632-5637
Microwave-mediated site-selective heating of spherical-carbon-bead-supported platinum for the continuous, efficient catalytic dehydrogenative aromatization of saturated cyclic hydrocarbons	共著	2019年8月	アメリカ化学会、ACS Sustain. Chem. Eng., 2019, 7, 3052-3061
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
重水素標識化合物の科学的・産業的用途と効率的連続合成法の開発		2021年8月4日	自然科学研究機構 核融合科学研究所 トリチウム研究会2021
D2ガスを経由する重水素標識法と重水素標識医薬品への展開		2021年8月19-20日	第4回ハイドロジェノミクス研究会
Development of Direct Deuterium Labeling Methods Including Application to Flow Synthesis		2021年12月6-7日	Nobel Laureate S&T Seminar Series 11th India-Japan Science and Technology Seminar Online
Development of microwave-mediated continuous-flow dehydrogenative oxidation reaction as an energy saving hydrogen generation method		2021年12月19日	Pacificchem2021, Development of New Reactions and Technologies Adaptable to Process Chemistry (#366)
Development of solvent-free solid-phase reactions under mechanochemical conditions		2021年12月22日	Pacificchem2021, Mechanochemistry for clean and sustainable synthesis: advances and challenges (#133)
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年度～現在	日本岐阜県環境審議会会長		
2017年度～現在	日本プロセス化学会会長		
2017～2018年度	The Chemical Record special issue on Flow/Microwave Chemistry, Guest Editor		
2018～2021年度	2020 Pacificchem オーガナイザー		
2019～2021年度	日本薬学会 長井記念薬学研究奨励特別委員会 委員長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	製剤学研究室
職名	教授	氏名	田原 耕平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月1日	(製剤学Ⅰ) 講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、これを使って概要を解説する。教科書を使用して重要なポイントを再確認し、問題演習と通じて学生の理解と知識の定着を図っている。アンケート回答者の9割以上が現状に満足している結果であった。
		2021年11月12日	(物理化学系演習) 演習問題のプリントを事前に配布し、予習をしてもらう。各項目の概要と解答の解説を講義中に実施している。アンケート回答者の9割以上が現状に満足している結果であった。
		2021年12月7日	(製剤学Ⅱ) 製剤学Ⅰと同様の方法で講義を行っており、アンケート回答者の9割以上が現状に満足している結果であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年3月28日	最新製剤学第4版を分担執筆した。
		2021年4月6日 2021年10月6日	製剤学Ⅰと製剤学Ⅱの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年6月24日	製剤学実習で使用するテキストを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年10月29日	岐阜県立加納高等学校において、模擬講義(薬学)を行った。
		2021年11月17日	岐阜県立大垣東高等学校において、模擬講義(薬学)を行った。
		2021年7月30日	2021年度Webオープンキャンパスを企画した。高校生に対し教育や研究内容を解説するオープンキャンパス特設ウェブサイトを作成した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年8月29日	指導学生が第36回日本DDS学会学術集会において、優秀演題賞を受賞した。
		2020年11月27日	指導学生が第26回流動化・粒子プロセッシングシンポジウムにおいて、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。
		2021年12月1日	「弁理士による特許セミナー」(野村和弘先生)の講演を拝聴し、出願の流れ、出願時の注意点など、特許の取得に関する理解が深まった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Tahara K., Pharmaceutical formulation and manufacturing using particle/powder technology for personalized medicines.	単著	2020年1月	Advanced Powder Technology. 31:387-392
Yamazoe E, Fang JY, Tahara K., Oral mucus-penetrating PEGylated liposomes to improve drug absorption: Differences in the interaction mechanisms of a mucoadhesive liposome.	共著	2021年1月	International Journal of Pharmaceutics. 593: 120148
Lin Z-C, Hwang T-L, Huang T-H, Tahara K, Trousil J, Fang J-Y., Monovalent antibody-conjugated lipid-polymer nanohybrids for active targeting to desmoglein 3 of keratinocytes to attenuate psoriasisiform inflammation.	共著	2021年3月	Theranostics. 11: 4567-4584

伊藤貴章、田原耕平 第4節 点眼剤の製剤設計の考え方	共著	2021年12月	株式会社情報機構 医薬品におけるDDS技術開 発と製剤への応用
Shibata T, Yoshimura N, Kobayashi A, Ito T, Hara K, Tahara K., Emulsion-electrospun polyvinyl alcohol nanofibers as a solid dispersion system to improve solubility and control the release of probucol, a poorly water-soluble drug.	共著	2022年1月	Journal of Drug Delivery Science and Technology Technol. 67:102953.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
田原耕平 経口、経肺、点眼等注射に代わる非侵襲薬物治療法のための新規製剤開 発		2021年4月	国際医薬品開発展2021 (CPhI Japan)
後藤彩那、伊藤貴章、田原耕平 選択的レーザー焼結方式3Dプリンタによる製剤設計の基礎検討		2021年5月	日本薬剤学会第36年会
小林由果、伊藤貴章、田原耕平 粘液透過性を有する高密度PEG修飾リポソームを用いたペプチド性医薬 品の経肺投与製剤に関する研究		2021年6月	第37回日本DDS学会学術集 会
田原耕平 ナノファイバー技術による新たな製剤・DDSの展開		2021年9月	第29回 DDS カンファラン ス
Takaaki Ito, Kohei Tahara Dry powder inhalers of biopharmaceuticals using cryo-milled electrospun nanofibers		2021年10月	The 8th Asian Particle Technology Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年4月～現在	粉体工学会中部談話会 世話人		
2017年1月～現在	粉体工学会誌 編集委員		
2017年1月～現在	Advanced Powder Technology Editor		
2018年4月～現在	日本薬剤学会 代議員		
2021年1月～現在	省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会 代表		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	グローバルレギュラトリーサイエンス
職名	教授	氏名	塚本 桂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月14日	(医薬品開発学) 独自講義資料を作成し配布。製薬企業開発職による最新かつ現場の生の声を講義に取り入れた。その結果、学生の満足度と理解度は高かった。また、ペーパーレス化を臨む学生の声を反映して、著作権等に配慮したオンライン資料も準備した。
		2021年6月17日	(治験薬学) 独自講義資料を作成し配布。ポイントを押さえた解説を工夫した。その結果、学生の満足度と理解度は高かった。また、ペーパーレス化を臨む学生の声を反映して、著作権等に配慮したオンライン資料も準備した。なお、分散講義は非常に不評であった。
		2021年11月26日	(創薬学 I) 独自講義資料を作成し配布し、実例に基づき解説を行った。その結果、アンケート回答者全員が満足していた。また、ペーパーレス化を臨む学生の声を反映して、著作権等に配慮したオンライン資料も準備した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月2日	医薬品開発学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年4月2日	治験薬学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年10月22日	創薬学 I の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年2月27日	コペンハーゲン大学レギュラトリーサイエンスセンターと共同で国際学生フォーラムを企画、開催し、教育研究内容を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月1日	ハラスメント講演会を企画運営し、講師山本教授(岐阜大学)と調整した。その結果、学生指導や支援上の有益な情報、知識を学ぶことができた。
		2021年12月5日	OSCEモニターとして鈴鹿医療科学大学のOSCEをモニターした。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Yoshino M, Tsukamoto K. Humanistic burden among caregivers of patients with Alzheimer's disease or dementia in Japan: a large-scale cross-sectional survey.		共著	2021年1月
Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Yoshino M, Tsukamoto K. Burden of caring for Alzheimer's disease or dementia patients in Japan, US, and EU: results from the National Health and Wellness Survey: a cross-sectional survey.		共著	2021年1月
Ushijima S, Matsumaru N, Tsukamoto K. Evaluation of Drug Lags in Development Initiation, New Drug Application and Approval Between Japan and the USA and the Impact of Local Versus Multi-regional Clinical Trials.		共著	2021年7月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			J Med Econ. 24(1):181-192.
			J Med Econ. 24(1):266-278.
			Pharm Med. 35(4):253-260.

Izuka S, Matsumaru N, Tsukamoto K. Characteristics of drugs approved in Japan without conducting confirmatory clinical trials.	共著	2021年12月	J Clin Pharm Ther. 46(6):1582-1590.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
井塚俊介、松丸直樹、塚本桂 検証試験を実施せずに日本で承認を取得した抗悪性腫瘍薬の特徴		2021年9月17日	第11回レギュラトリーサイ エンス学会学術大会
牛嶋智、松丸直樹、塚本桂 第3相試験における国際共同試験と日本単独試験の比較による医薬品開発 の効率化の検討		2021年9月17日	第11回レギュラトリーサイ エンス学会学術大会
田島玄太郎、松丸直樹、塚本桂 米国の開発促進制度が日米の申請ラグに与える影響に関する研究		2021年12月9日	第42回日本臨床薬理学会学 術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014～現在	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会世話人		
2019～現在	AMED課題評価委員		
2019～現在	岐阜大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	病院薬学研究室
職名	教授	氏名	寺町 ひとみ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月17日	(医療心理学)病院薬剤師の経験、患者・家族・医療従事者の心理状態の理解、ファーマシューティカルケア実現に向けた方策などのカリキュラムとした。SGDおよびPBL形式授業を取り入れて、学生が自分意見をまとめ、他の学生の意見を聞き、発表できるように工夫したところ、先生の体験を含めた内容で、大変わかりやすく考えさせられる内容で満足しているとの意見が多数出ている。
		2021年12月14日	(医療コミュニケーション)薬局・病院における初回面談・情報提供に関して、本学独自の課題を作成し、ロールプレイによる演習を中心としたカリキュラムとした。ビデオ教材8課題を作成し、講義ノートに掲載し、いつでも視聴できるようにした。希望学生にはDVDを貸与した。学生から何故その言い回しなのかや実例を示し、実際の服薬指導に役立つなどの意見が多数出ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年	医療心理学の授業で使用する教科書「薬学生・薬剤師のためのヒューマンリズム 改訂版」(羊土社)の分担執筆した。
		2020年	総合臨床薬学および病院・薬局実習で使用する教科書「モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト2021-2022」の分担執筆と編集を担当した。
		2021年10月5日	医療コミュニケーションと総合臨床薬学の講義・実習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2017年～2021年	毎年1回、関市立小金田中学校の3年生全員に「薬の正しい使い方」授業を1年1回合計5回実施した。
		2017～2019年 2020年(Web)	オープンキャンパスにてミニ講義「地域で活躍できる薬剤師を目指そう!!」を担当した。
		2018年10月19日	岐山高等学校進路研究講座にて、「薬学部6年制で学ぶこと～薬剤師になるためには～」授業を実施した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017～2021年度	OSCEモニターとして、本学および他大学の運営に関する書類の作成および審査に関わったところ、問題なく実施できた。
		2019年11月2-4日	第29回日本医療薬学会年会において指導学生(杉岡まゆ子)が演題「小児のポリファーマシーが薬物有害事象に及ぼす影響」を発表し、優秀演題賞を受賞した。
		2021年12月8日	「大学健康管理に関する最近の話題」山本真由美先生の講演を拝聴し、問題のある学生への関わり方について学ぶことができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Chihiro Sakai, Kazuhiro Iguchi, Tomoya Tachi, Yoshihiro Noguchi, Shingo Katsuno, Hitomi Teramachi, Factors Influencing Medicine Use Behavior in Adolescents in Japan Using a Bayesian Network Analysis	共著	2019年5月	Front. Pharmacol., 10:494. doi: 10.3389/fphar.2019.00494

Yoshihiro Noguchi, Mirai Takaoka, Tsuyoshi Hayashi, Tomoya Tachi, Hitomi Teramachi, Antiepileptic combination therapy with Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis: Analysis of a Japanese pharmacovigilance database	共著	2020年9月	Epilepsia, 61, 1979-1989
林剛, 館知也, 野口義紘, 杉岡まゆ子, 青山智, 田中和秀, 安田昌宏, 後藤千寿, 山田浩司, 水井貴詞, 寺町ひとみ, ナトリウム・グルコース共輸送体-2 (SGLT2) 阻害薬に関するリスク管理計画におけるリスク最小化活動の評価-国内自発報告データベースおよび実臨床データを用いた解析-	共著	2021年9月	医療薬学, 47, 464-476
Yoshihiro Noguchi, Shunsuke Yoshizawa, Keisuke Aoyama, Satoaki Kubo, Tomoya Tachi, Hitomi Teramachi, Verification of the "Upward Variation in the Reporting Odds Ratio Scores" to Detect the Signals of Drug-Drug Interactions	共著	2021年10月	Pharmaceutics, 13, 1531. doi:10.3390/pharmaceutics13101531
Hayato Katsuno, Tomoya Tachi, Takuya Matsuyama, Mayuko Sugioka, Satoshi Aoyama, Tomohiro Osawa, Yoshihiro Noguchi, Masahiro Yasuda, Chitoshi Goto, Takashi Mizui, Hitomi Teramachi, Evaluation of the direct costs of managing adverse drug events in all ages and of avoidable adverse drug events in older adults in Japan	共著	2021年11月	Front. Pharmacol., 12, 761607. doi:10.3389/fphar.2021.761607
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高岡みらい, 野口義紘, 林剛, 館知也, 寺町ひとみ, 抗てんかん薬の単剤および併用療法における重篤な皮膚障害のシグナル探索		2021年6月26-27日	第23回医薬品情報学会総会・学術大会 (Web開催)
井口和弘, 山下修司, 玉木啓文, 野口義紘, 長内理大, 伊野陽子, 寺町ひとみ, オンラインで実施した岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座の受講者満足度調査		2021年9月19-20日	第54回日本薬剤師会学術大会 (Web開催)
安田昌宏, 館知也, 大澤友裕, 渡邊久高, 井上誠二, 牧野哲平, 長屋雄大, 森田美穂, 田中和秀, 田中佑佳, 青山智, 笠原千嗣, 寺町ひとみ, 水井貴詞, 骨髄異形成症候群患者に対するAzacitidine投与時の血小板減少のリスク因子の解析		2021年10月9-10日	第31回日本医療薬学会年会 (Web開催)
Yoshihiro Noguchi, Azusa Murayama, Hiroki Esaki, Mayuko Sugioka, Aisa Koyama, Tomoya Tachi, Hitomi Teramachi, Safety signal of angioedema caused by drugs that prevent the degradation of vasoactive peptides: substance P and bradykinin.		2022年2月11-13日	The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy: ACCP 2022 in Nagoya (Web)
久保賢晃, 館知也, 青山京介, 古山愛紗, 渡邊繭子, 青山智, 野口義紘, 田中和秀, 安田昌宏, 柴田明彦, 水井貴詞, 寺町ひとみ, 精神科入院患者における薬物有害事象の治療等に要した費用に関する研究		2022年3月25-28日	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013年3月～現在	日本医療薬学会代議員		
2015年4月～現在	日本医療薬学会編集委員・薬物療法認定制度委員		
2020年4月～現在	日本薬学会医療薬科学部会の常任世話人		
2021年1月～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事編集委員長		
2021年8月22日	日本服薬支援研究会第3回実技セミナー (簡易懸濁法) ファシリテータ		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬化学研究室
職名	教授	氏名	永澤 秀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月7日	(有機合成化学) 講義担当当初から各担当科目のウェブサイトを立て、講義ノートとして学生に公開している。学生の質問や講義しきれなかった内容の補足なども随時追加して毎年穴進し内容の充実に努めている。レポートの提出や資料の保管もポータルサイトを作成してオンラインで管理している。昨年度には特にコロナ禍で対面講義ができなかった期間もあったことから、自宅学習の参考に役立ったというコメントあり。本年度学生からもわかりやすいとの評価あり。
		2021年7月3日	(ドラッグデザイン演習) 国内に先駆けて複数の若手教員を抜擢してin silico創薬演習を企画運営している。Discovery Studioを導入し、複数のTAにも協力してもらって、少人数指導体制で演習を行っている。少人数体制なので、きめ細かく指導できる、本演習でAI創薬などに興味を持ってその方面に進もうと考える学生も少なからず出ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年5月1日	本年度より担当した一般化学講義ノートウェブサイトの公開、講義プリントもダウンロードできる。課題提出のためのポータルサイトも同時に立ち上げた。
		2017年から随時更新中	有機合成化学講義ノートウェブサイトに有機化学のまとめを公開。プリントもダウンロードできるようにして毎年更新している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2016-2019年8月	オープンキャンパスにて模擬講義として創薬化学について講演した。薬学部の使命として創薬研究者の養成にもなっていることを説明した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020/11/15, 28	名古屋市立大にてOSCE評価者を行った。
		2021/4/13 2018/4/17 2019/6/9	D4向峯が日本薬学会141年会学生優秀発表賞(口頭発表)受賞 D3丹羽が日本薬学会138年会学生優秀発表賞(ポスター発表)受賞 27th International Symposium of Heterocyclic ChemistryにてOrg. Biomol. Chem poster prizeをD3小池が受賞
		2019年から現在	JST戦略的創造研究推進事業 ACT-X「生命と化学」領域アドバイザーとして若手研究者育成に貢献
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
Takayuki Sakai, Yoshiyuki Matsuo, Kensuke Okuda, Kiichi Hirota, Mieko Tsuji, Tasuku Hirayama, Hideko Nagasawa* "Development of antitumor biguanides targeting energy metabolism and stress responses in the tumor microenvironment"		共著	2021年12月
Akari Mukaimine, Tasuku Hirayama*, Hideko Nagasawa, "Asymmetric bismuth-rhodamines as an activatable fluorogenic photosensitizer"		共著	2021年1月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			Scientific Reports 11, Article number: 4852
			Org. Biomol. Chem., 2021, 19, 3611.

Kota Koike, Masanobu Nagano, Masahiro Ebihara, Tasuku Hirayama, Mieko Tsuji, Hiroaki Suga, and Hideko Nagasawa* “Design, Synthesis, and Conformation-Activity Study of Unnatural Bridged Bicyclic Depsipeptides as Highly Potent HIF-1 Inhibitors and Antitumor Agents”	共著	2020年4月	Journal of Medicinal Chemistry, 63, 4022.
Tasuku Hirayama*, Masato Niwa, Shusaku Hirose, Hideko Nagasawa, High-Throughput Screening for the Discovery of Iron Homeostasis Modulators Using an Extremely Sensitive Fluorescent Probe.	共著	2020年9月	ACS Sens., 25:5(9):2950.
がん微小環境を標的とした治療薬と耐性 8. 腫瘍内の低酸素・低栄養環境を利用した薬剤の開発	単著	2021年8月	実験医学、39(12)、1975.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
山田晴輝、平山祐、旦慎吾、永澤秀子、架橋結合によって拘束されたコンフォメーションを持つ抗腫瘍性環状デプシペプチドの構造活性相関		2021年5月28日	第25回日本がん分子標的治療学会
森本壮汰朗、平山祐、辻美恵子、永澤秀子、多細胞内二価鉄増加作用を持つロモファンギンの全合成		2021年10月9日	第50回複素環討論会
永澤秀子、疾患を診断するプローブをつくる		2021年10月20日	第11回CSJフェスタ2021
Takumi Kariya, Kosuke Dodo, Daisuke Mizutani, Mieko Tsuji, Tasuku Hirayama, Mikiko Sodeoka, Osamu Kozawa, Hideko Nagasawa, Development of a heme-selective fluorescent probe		2021年11月29日	AIMECS 2021
草薙 彩加、森 美奈子、辻 美恵子、平山 祐、森重 健一郎、永澤 秀子、GD44v陽性がん細胞の酸化ストレス耐性の抑制による化学療法増感		2022年3月25日	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年～現在	JST戦略的創造研究推進事業 ACT-X「生命と化学」領域アドバイザー		
2016年～現在	日本薬学会医薬化学部会常任世話人		
2019年～現在	大学設置分科会専門委員		
2018年～現在	薬剤師試験委員		
2020年～現在	RSC Advances associate editor（英国化学会 学術誌編集委員）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	衛生学研究室
職名	教授	氏名	中西 剛
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2020年12月14日	(公衆衛生学)講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。アンケートでは配布するプリントに多くの学生が満足しており、講義の理解度も高いことが確認できた。
		2021年6月23日	(衛生化学I)講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。アンケートでは配布するプリントに多くの学生が満足しており、講義の理解度も高いことが確認できた。
		2021年12月8日	(公衆衛生学)講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。アンケートでは配布するプリントに多くの学生が満足しており、講義の理解度も高いことが確認できた。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年4月	(分担執筆) 鍛冶利幸/佐藤雅彦 編, コンパス衛生薬学改訂第3版, 南江堂
		2020年11月	(分担執筆) 日本薬学会 編, スタンダード薬学シリーズII-9/薬学演習III, 東京化学同人
		2021年3月	(分担執筆) 日本薬学会 編, 必携・衛生試験法第3版, 金原出版
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年10月27日	小中学生対象の岐阜市科学塾 「生物・化学にふれてみよう」、目で見える栄養成分～ドリンク内のビタミンBを観察しよう～を実施した。□
		2019年10月26日	小中学生対象の岐阜市科学塾 「生物・化学にふれてみよう」、目で見える栄養成分～ドリンク内のビタミンBを観察しよう～を実施した。□
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年9月11日	南川祥輝 (B6) が「神経分化トレーサーマウスを用いた新規発達神経毒性評価系の有用性検証」と言う演題でフォーラム2021: 環境・衛生部会新人賞を受賞
		2021年9月11日	野口菜都実 (B6) が「皮膚感作誘導初期に誘導されるT細胞サブタイプの同定」と言う演題でフォーラム2021: 環境・衛生部会 実行委員長賞を受賞
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	Zhang Z, Hu Y, Guo J, Yu T, Sun L, Xiao X, Zhu D*, Nakanishi T, Hiromori Y, Li J, Fan X, Wan Y, Cheng S, Li J, Guo X, Hu J*, Fluorene-9-bisphenol is anti-oestrogenic and may cause adverse pregnancy outcomes in mice.	共著	2017
	Yoshida I, Ishida K, Yoshikawa H, Kitamura S, Hiromori Y, Nishioka Y, Ido A, Kimura T, Nishikawa JI, Hu J, Nagase H, Nakanishi T*, In vivo profiling of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin-induced estrogenic/anti-estrogenic effects in female estrogen-responsive reporter transgenic mice.	共著	2020
			Nat. Commun. 8:14585
			J. Hazard. Mater. 385:121526

Li Y, Ma H, Chen R, Zhang H, Nakanishi T, Hu J, Maternal transfer of 2-ethylhexyl diphenyl phosphate leads to developmental toxicity possibly by blocking the retinoic acid receptor and retinoic X receptor in Japanese Medaka (<i>Oryzias latipes</i>).	共著	2021	Environ. Sci. Technol. 55: 5056-5064
Shiraishi E, Ishida K, Matsumaru D, Ido A, Hiromori Y, Nagase H, Nakanishi T, Evaluation of the skin-sensitizing potential of Brazilian green propolis	共著	2021	Int. J. Mol. Sci. 22: 13538
中西 剛, 内分泌かく乱に起因する生殖発生毒性評価の問題点とその将来展望	単著	2022	ファルマシア 58:44-49
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
中西 剛/アンドロゲン高産生マウスを用いたアンドロゲン作動性に起因するエンドポイントの同定と毒性試験への応用		2021年7月	第48回日本毒性学会 学術年会
中西 剛/In vivoイメージングを応用した新規エストロゲン作動性スクリーニング試験法の確立		2021年9月	第23回環境ホルモン学会研究発表会
中西 剛/アンドロゲン高産生マウスを用いたアンドロゲン依存的なエンドポイントの同定と毒性試験への応用		2022年3月	日本薬学会第142年会
石田慶士、中西 剛/In vivoイメージングを用いたダイオキシンのエストロゲンシグナルかく乱評価		2022年3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年10月～現在	岐阜県環境影響評価審査会 会長代理		
2019年7月～2020年3月	岐阜県公衆浴場入浴料審議会 会長		
2019年10月～現在	内閣府・食品安全委員会 動物用医薬品専門調査会 専門委員		
2020年8月～現在	国立研究開発法人科学技術振興機構 創発的研究支援事業 外部専門家 事前評価委員		
2021年2月～現在	岐阜県自然環境保全審議会 温泉部会委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	医薬品情報学研究室
職名	教授	氏名	中村 光浩
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年7月2日	(臨床統計解析学) 解答・解説もスクリーンに映してほしいとの要望に対して、解答プリントを配布すると、あとでプリントを読めばよいと考えて講義を学生が聞かなくなることが多いので配布しない。本講義では、各トピックを話す前に、国試レベルの内容なのか、それ以上の内容なのかを分けて説明している。国試対策という面では、過去15年の問題をまとめ十分な解説を行なっている。外部講師を呼ぶ授業が3回もあるのは多すぎるという指摘に対して、講師の先生の構成は多様性に富んでいて、しばしば退屈な統計学講義に取り入れることは良いと考えている。
		2021年7月2日	(医薬品安全性学) 重要なところがわかりにくい、解答・解説もスクリーンに映してほしいとの要望に対して、講義ノートサイトにアップロード可能な、講義ノート、国家試験の正答表を掲載した。
		2021年12月20日	(医薬品情報学) 教科書で強調したところをまとめてほしいという要望あり。教科書を網羅した上で、国試対策のレベルの内容プラスアルファの内容を講義して、配布プリントにまとめた。早口で聞き取れないという意見には、ゆっくり話すように気をつけた。
2	作成した教科書、教材、参考書	2017年	橋詰勉、栄田敏之(編集)「医薬品情報学」廣川書店、2017、pp109-121、pp. 214-221。(分担執筆)
		2019年	折井孝男 編 「図解 医薬品情報学 改訂4版」南山堂、2019、pp. 202-211。(分担執筆)
		2020年	病院・薬局実務実習東海地区調製機構監修 実務実習テキスト作成委員会「モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト2021-2022」じほう、2020 pp. 332-336。(分担執筆)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年11月25日	長谷川菜、尾上愛、中村光浩。ぎふサイエンスフェスティバルにおいて「おくすりは水で飲もうね」のテーマで市民に科学講義を行った
		2018年1月20日	平成29年度 第2回ロールモデル講演会；第9回育薬・創薬研究センター教育フォーラムにて、「有害事象自発報告データベース(JADER)の活用」の講演を学生が行った。
		2018年9月1日	中村光浩、矢島聖子、西尾裕斗。平成30年度 才能開花教育「-薬はこうしてできあがる-。完成した薬を正しく使う。」の科学講義と体験を市内中学生に対して行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2020年10月1日	日本薬剤師会学術大会において、岩田麻里が「NDBオープンデータを用いた認知症治療薬とPIM及び多剤併用に関する調査」を発表し、ポスターセッションを優秀賞を受賞した。
		2020年11月29日	東海地区大学のOSCEモニター業務を行った。
		2021年12月1日	FD講演「大学健康管理における最近の話題」(山本真由美先生)を受講して、健康上の問題を抱える学生に対する関わり方を学んだ。
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Ueda N, Yamamoto M, Nakamura M, Motooka Y, Nakayama Y, Nonoyama Y, Oba S, Horikawa Y, Nagata C, Yabe D. Alcohol-induced impaired insulin secretion in a Japanese population: Five-year follow-up in the Gifu Diabetes Study.	共著	2020年3月	Journal of Diabetes Investigation, 2020.
Hasegawa S, Ikesue H, Nakao S, Shimada K, Mukai R, Tanaka M, Matsumoto K, Inoue M, Satake R, Yoshida Y, Goto F, Hashida T, Nakamura M. Analysis of immune-related adverse events caused by immune checkpoint inhibitors using the Japanese Adverse Drug Event Report database.	共著	2020年9月	Pharmacoepidemiol Drug Saf, 2020. 29, 1279-1294
Inoue M, Matsumoto K, Tanaka M, Yoshida Y, Satake R, Goto F, Shimada K, Mukai R, Hasegawa S, Suzuki T, Ikesue H, Liao J, Hashida T, Nakamura M. Analysis of chemotherapy-induced peripheral neuropathy using the Japanese Adverse Drug Event Report database	共著	2021年5月	Scientific Reports, 2021. 11, 11324.
Satake R, Matsumoto K, Tanaka M, Mukai R, Shimada K, Yoshida Y, Inoue M, Hasegawa S, Iguchi K, Ikesue H, Shimizu S, Nishida S, Suzuki A, Hashida T, Nakamura M	共著	2021年7月	Frontiers in Pharmacology, 2021. 12, 692292.
Umetsu R, Tanaka M, Nakayama Y, Kato Y, Ueda N, Nishibata Y, Hasegawa S, Matsumoto K, Takeyama N, Iguchi K, Tanaka H, Hinoi E, Inagaki N, Inden M, Muto Y, Nakamura M. Neuropsychiatric adverse events of montelukast: an analysis of real-world datasets and drug-gene interaction network	共著	2021年12月	Frontiers in Pharmacology, 2021. 12, 764279.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
吉田悠羽, 島田和代, 向井梨々香, 田中瑞希, 松本清香, 井上実咲, 佐竹梨香, 後藤史也, 鈴木貴晃, 森卓之, 吉村知哲, 中村光浩 自発報告データベースを用いた薬剤誘発性手足症候群の解析		2021年3月26日	日本薬学会 第141年会
佐竹梨香, 松本清香, 田中瑞希, 向井梨々香, 島田和代, 吉田悠羽, 井上実咲, 長谷川菜, 井口和弘, 池末裕明, 志水真也, 西田承平, 鈴木昭夫, 橋田亨, 中村光浩 JADERを用いた薬物誘発性消化管運動低下の解析		2021年3月26日	日本薬学会 第141年会
井上実咲, 松本清香, 田中瑞希, 吉田悠羽, 佐竹梨香, 後藤史也, 島田和代, 向井梨々香, 長谷川菜, 鈴木貴晃, 池末裕明, 橋田亨, 中村光浩 有害事象自発報告データベースを用いた化学療法誘発性末梢神経障害の解析		2021年3月26日	日本薬学会 第141年会
Mitsuhiro NAKAMURA, Junko ABE, Ryogo UMETSU, Hiroaki URANISHI, Honami SUZUKI, Yuri NISHIBATA, Yamato KATO, Natsumi UEDA, Sayaka SASAKA, Haruna HATAHIRA, Yumi MOTOOKA, Mayuko MASUTA. Analysis of polypharmacy effects in older patients using Japanese Adverse Drug Event Report database		2021年10月9日	第31回医療薬学会年会
Mizuki Tanaka, Kiyoka Matsumoto, Riko Satake, Yu Yoshida, Misaki Inoue, Shiori Hasegawa, Takaaki Suzuki, Mari Iwata, Kazuhiro Iguchi, Mitsuhiro Nakamura Gentamicin-induced hearing loss: a toxicological study using drug-gene network analysis		2021年10月25日	CBI学会2021年大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～2017年3月	岐阜県大学薬剤師協会 会長		
2017年4月～現在	東海地区調整機構 実務実習施設調整小委員会 委員		
2017年4月～現在	岐阜県薬剤師会医薬品委員会 委員		
2017年4月～現在	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 非常勤講師 「臨床試験概論」		
2017年4月～現在	情報計算化学生物学会 CBIジャーナル編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	臨床薬剤学研究室
職名	教授	氏名	原 宏和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021. 6. 14	(臨床薬剤学I) 1) オンライン講義を一部導入しているため、プロジェクターを使用し講義を行った。投影されたテキストの字が小さく、プリントに書き写しにくいとの指摘を受けた。そこで、テキストを拡大して見やすくなるようし、説明を数回繰り返すように心掛けた。2) 講義中にテキストの空白部分を埋める必要があるが、説明を書きとる時間が短すぎるとの指摘を受けたため、ゆっくりと話し、内容を繰り返すように心掛けた。
		2021. 6. 14	(臨床薬剤学II) 授業の進むペースが速く、メモしている間にスライドが切り替わってしまうので、もう少しペースを落としてほしいとの指摘を受けた。今年度から初めて行う講義のため、講義の内容がどのぐらい必要か十分把握できていなかった。結果的に講義内容が多くなってしまったようなので、講義内容を整理した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021. 4. 9	(臨床薬剤学I) 講義で使用するプリントを作成し、学生に配布した。教科書は使用していない。
		2021. 12. 1	(臨床薬剤学II) 講義で使用するプリントを作成し、学生に配布した。教科書は使用していない。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019. 7. 27	岐阜薬科大学 薬剤師生涯教育講座 生体における亜鉛の働き ～各種疾患との関連性を中心に～
		2021. 10. 1	岐阜県立岐阜北高等学校 系統別ガイダンス：薬学部における学びについて
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021. 8. 26-27, 1. 13-14, 2. 16, 3. 16	CBTモニター (愛知学院大学、鈴鹿医療科学大学、金城大学)
		2021. 6. 16 2021. 11. 16-17	アドバイザー学生との面談
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Hara H, Kobayashi M, Shiiba M, Kamiya T, Adachi T: Sublethal treatment with plasma-activated medium induces senescence-like growth arrest of A549 cells: involvement of intracellular mobile	共著	2019年	J Clin Biochem Nutr 65, 16-22
Nagaya M, Hara H, Kamiya T, Adachi T: Inhibition of NAMPT markedly enhances plasma-activated medium-induced cell death in human breast cancer MDA-MB-231 cells	共著	2019年	Arch Biochem Biophys 676, 108155
Goto N, Hara H, Kondo M, Yasuda N, Kamiya T, Okuda K, Adachi T: Hydrogen sulfide increases copper-dependent neurotoxicity via intracellular copper accumulation	共著	2020年	Metallomics 12, 868-875
Kondo M, Hara H, Kamiyo F, Kamiya T, Adachi T: 6-Hydroxydopamine disrupts cellular copper homeostasis in human neuroblastoma SH-SY5Y cells	共著	2021年	Metallomics 13, mfab041
Hara H, Adachi T: Molecular mechanisms of non-thermal plasma-induced cellular responses	共著	2021年	Jpn J Appl Phys 60, 020501

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
原 宏和, 安田名保美, 後藤紀香, 神谷哲朗, 足立哲夫：硫化水素により引き起こされる細胞内銅輸送の破綻	2021. 5. 19-20	第74回 日本酸化ストレス学会
安田名保美, 後藤紀香, 神谷哲朗, 原 宏和：神経細胞内銅動態に及ぼす硫化水素の影響	2021. 5. 22	第85回日本生化学会中部支部 例会・シンポジウム
小澤清美, 神谷哲朗, 原 宏和：LOXL4のエクソソームを介した細胞外輸送と糖鎖修飾との関連性	2021. 5. 22	第85回日本生化学会中部支部 例会・シンポジウム
白石有紀子, 神谷哲朗, 足立哲夫, 原 宏和：プラズマ照射酢酸リンゲル液の A549 細胞障害に対するメトホルミンの増強効果	2021. 7. 3	第67日本薬学会東海支部総会・大会
水野なぎ沙, 神谷哲朗, 幅 愛実, 阿部尚仁, 大山雅義, 原 宏和：ホワイトサポテ由来フラボノイド化合物による MMP9 発現抑制機構の解明	2021. 7. 3	第67日本薬学会東海支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年～現在	日本酸化ストレス学会、代議員、学会誌編集委員	
2018年～現在	メタルバイオサイエンス研究会（現、日本毒性学会生体金属部会）、幹事	
2017年～現在	岐阜大学医薬品等受託研究審査委員会、委員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬理学研究室
職名	教授	氏名	檜井 栄一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月6日	(薬理学II) 講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。アンケートでは配布するプリントに多くの学生が満足している結果であった。
		2021年10月4日	(薬理学III) 講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。また、学生自身にイラストを書かせることで、俯瞰的に覚えることができるように工夫した。アンケートでは学生の理解度がとても高いことが確認できた。
		2021年10月4日	(薬理学I) 講義内容をまとめたプリントを配布し、重要な点は穴埋めとし、学生が講義中に書き込むスタイルにした。授業のスピードは落とすことなく、より丁寧にゆっくりとしゃべるように務めた。アンケートでは配布プリントも好評であり、学生の理解度が高いことが確認できた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月6日	薬理学IIの講義で使用する資料を作成し、学生に配布した。
		2021年10月4日	薬理学IIIの講義で使用する資料を作成し、学生に配布した。
		2021年10月4日	薬理学Iの講義で使用する資料を作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年6月1日	2021年度摂南大学薬学部公開講座にて、「運動器疾患と薬物治療」の講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年7月14日	一般社団法人公立大学協会常務理事・事務局長・中田晃先生による講演「公立大学法人制度とガバナンスの課題」を拝聴し、法人化に関する問題点などを学ぶことができた。
		2021年12月8日	岐阜大学保健管理センター・山本真由美先生による講演「大学保健管理における最近の話題」を拝聴し、問題を抱える学生に対する接し方を学ぶことができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Fukasawa K., Kadota T., Horie T., Tokumura K., Terada R., Kitaguchi Y., Park G., Ochiai S., Iwahashi S., Okayama Y., Hiraiwa M., Yamada T., Iezaki T., Kaneda K., Yamamoto M., Kitao T., Shirahase H., Hazawa M., Wong RW., Todo T., Hirao A. and Hinoi E. CDK8 maintains stemness and tumorigenicity of glioma stem cells by regulating the c-MYC pathway.	共著	2021年4月	Oncogene 40:2803-2815.
Hiraiwa M., Fukasawa K., Iezaki T., Sabit H., Horie T., Tokumura K., Iwahashi S., Murata M., Kobayashi M., Suzuki A., Park G., Kaneda K., Todo T., Hirao A., Nakada M. and Hinoi E. SMURF2 phosphorylation at Thr249 modifies glioma stemness and tumorigenicity by regulating TGF-β receptor stability.	共著	2022年1月	Communications Biology 11:22.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
山田孝紀、深澤和也、堀江哲寛、徳村和也、岩橋咲幸、家崎高志、檜井栄一：加齢に伴う骨恒常性維持機能の低下における間葉系幹細胞のCDK8の役割	2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
Eiichi Hinoi : Amino acid and Bone metabolism	2021年9月	17th Bone Biology Forum
堀江哲寛、深澤和也、山田孝紀、家崎高志、檜井栄一：間葉系幹細胞のErk5が骨恒常性維持機構に与える影響	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年4月～現在	日本薬理学会学術評議員	
2012年8月～現在	文部科学省・科学技術専門調査員	
2017年4月～現在	厚生労働省・難治性疾患等政策研究事業研究班	
2020年4月～現在	日本薬学会誌Biological and Pharmaceutical Bulletin編集委員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	分子生物学研究室
職名	教授	氏名	福光 秀文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021.06.02	(分子生物学) パワーポイントスライドを用いた講義。たとえ話を多く盛り込み、理解度向上を図っている。また、演習問題や5者2択問題を予習・復習用に提供している。毎回の講義アンケートで抽出した講義内容に関する質問は次週の講義冒頭の復習コーナーで再度解説している。アンケートは google form を用いているので、質問がしやすい、丁寧で分かりやすいなど、学生評価はおおむね好評。
		2021.12.02	(病態生化学II) パワーポイントスライドを用いた講義。5者2択問題を予習・復習用に提供している。毎回の講義アンケートで抽出した問題集に関する質問は次週の講義冒頭の復習コーナーで解説している。学生からはおおむね現状に満足との回答を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021.04.06	(分子生物) 講義内容の理解度を確認するため、予習復習用の演習問題や5者2択問題をブラッシュアップして提供した。
		2021.10.07	(病態生化学II) 講義内容の理解度を確認するため、予習復習用の5者2択問題をブラッシュアップして提供した。
		2021.11.16	(総合薬学演習) 講義内容の理解度を確認するため、予習復習用の5者2択問題をブラッシュアップして提供した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年8月2日	2019年度オープンキャンパスにおいて、高校生を対象にして DNA を資料とした研究内容を説明した。
		2021.7.14	「公立大学法人とガバナンスの課題」(中田晃先生)の講演を拝聴し、法人化までの流れ、メリット・デメリット、特に公立大学における特殊事情などについて理解が深まった。
		2021.9.11	岐阜薬科大学 薬剤師生涯教育講座 脊髄損傷治療の基礎研究
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017.07.08	指導学生が薬学会東海支部において、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。
		2021.7.14	「公立大学法人とガバナンスの課題」(中田晃先生)の講演を拝聴し、法人化までの流れ、メリット・デメリット、特に公立大学における特殊事情などについて理解が深まった。
		2021.06.01-0920	アドバイザー学生との面談
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Nagashima K, Miwa T, Soumiya H, Ushiro D, Takeda-Kawaguchi T, Tamaoki N, Ishiguro S, Sato Y, Miyamoto K, Ohno T, Osawa M, Kunisada T, Shibata T, Tezuka KI, Furukawa S, Fukumitsu H. Priming with FGF2 stimulates human dental pulp cells to promote axonal regeneration and locomotor function recovery after spinal cord injury.	共著	2017年10月	Sci Rep 7:13500.

Sugiyama K, Nagashima K, Miwa T, Shimizu Y, Kawaguchi T, Iida K, Tamaoki N, Hatakeyama D, Aoki H, Abe C, Morita H, Kunisada T, Shibata T, Fukumitsu H, Tezuka KI. FGF2-responsive genes in human dental pulp cells assessed using a rat spinal cord injury model.	共著	2019年5月	J Bone Miner Metab 37: 467-474.
Soumiya H, Araiso H, Furukawa S, Fukumitsu H. Pyrroloquinoline quinone improves abnormal functional development of whisker-mediated tactile perception and social behaviors caused by neonatal whisker trimming.	共著	2019年6月	Neurosci Lett 705:67-73.
Sakade Y, Yamanaka K, Soumiya H, Furukawa S, Fukumitsu H. Exposure to valproic acid during middle to late-stage corticogenesis induces learning and social behavioral abnormalities with attention deficit/hyperactivity in adult mice.	共著	2019年8月	Biomed Res 40:179-188.
Murasawa H, Kobayashi H, Imai J, Nagase T, Soumiya H, Fukumitsu H. Substantial acetylcholine reduction in multiple brain regions of Mecp2-deficient female rats and associated behavioral abnormalities.	共著	2021年10月	PLoS One 16: e0258830.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
今井田詩織、大西諒司、宗宮仁美、福光秀文：哺乳類型mRNA前駆体開裂因子（CFIm）の代謝と選択的ポリA付加反応		2021年7月3日	第67回 日本薬学会東海支部大会
中村海斗、山田まこと、宗宮仁美、飯田一規、武田知子、手塚建一、柴田敏之、福光秀文：ヒト歯髄細胞ドナー間における活性酸素抵抗性の差に関わる因子		2021年7月3日	第67回 日本薬学会東海支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年1月～現在	脳の医学・生物学的研究会 幹事		
2020年4月～現在	日本薬学会東海支部 幹事（大学）		
2020年4月～現在	ネットワーク大学コンソーシアム 地域連携・産学連携部会委員		
2021年7月1日	ワクチン調製業務への従事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	グリーンファーマシー教育推進センター
職名	教授	氏名	松永 俊之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年5月21日	(生物学)講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、講義スライドの説明を聞きながら重要な点を書き込んでもらうようにしている。また、毎回の講義において確認問題を実施し、学生の理解度確認しながら講義を進めている。アンケート回答者の8割以上が現状の講義内容やプリントに満足しているとの結果であった。
		2022年1月7日	(総合創薬育薬演習)本講義では課題に対するPBL形式での議論とプロダクト発表を課しているが、学生の関連な議論やプロダクトの効率的な作成を促すために適宜助言・指導を行った。アンケートの回答結果より、一部の講義方法に関する指摘を除いて、現状の講義内容や評価方法等については概ね好評であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年11月20日	薬学生のための病態検査学 [改訂第3版] (南江堂) を執筆した。
		2021年4月9日	生物学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2017年10月21日	平成29年度岐阜薬科大学市民公開講座において、演題「メタボリックドミノを倒さないために」に関する講演を行った。
		2021年8月21日	第6回日本薬学教育学会大会において、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる実務実習に関する指導薬剤師を対象としたアンケート調査について発表した。
		2021年9月3日	文部科学省 医学教育課主催の「薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成25年度改訂版) の成果と課題」に関するワークショップに参加し、現行のコアカリキュラムの課題についての理解が深まった。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年5月25日	第83回日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにおいて、指導学生 (岩佐華) が演題「フェブリフジン誘発胃細胞傷害における活性酸素種産生と小胞体ストレス誘導の関与」を発表し、奨励賞を受賞した。
		2021年度	1~3回生の合計63名の学生の担任として、アドバイザー教員と綿密に連携しながら、学生の教育面や生活面のケアを行った。
		2021年12月1日	講演「大学健康管理における最近の話題」(山本真由美先生) を拝聴し、問題を抱える学生に対する大学の指導・支援において注意すべき点を学ぶことができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Matsunaga T., Okumura N., Saito H., Morikawa Y., Suenami K., Hisamatsu A., Endo S., Ikari A.: Significance of aldo-keto reductase 1C3 and ATP-binding cassette transporter B1 in gain of irinotecan resistance in colon cancer cells	共著	2020年12月	Chemico-Biological Interactions, 332, 109295
Morikawa Y., Miyazono H., Kamase K., Suenami K., Sasajima Y., Sato K., Endo S., Monguchi Y., Takekoshi Y., Ikari A., Matsunaga T.: Protective effect of aldo-keto reductase 1B1 against neuronal cell damage elicited by 4'-fluoro- α -pyrrolidinononaphenone	共著	2021年8月	Neurotoxicity Research, 39, 4, 1360-1371

Kamase K., Taguchi M., Ikari A., Endo S., Matsunaga T.: 9,10-Phenanthrenequinone provokes dysfunction of brain endothelial barrier through down-regulating expression of claudin-5	共著	2021年9月	Toxicology, 461, 152896
Kobayashi M., Yonezawa A., Takasawa H., Nagao Y., Iguchi K., Endo S., Ikari A., Matsunaga T.: Development of cisplatin resistance in breast cancer MCF7 cells by up-regulating aldo-keto reductase 1C3 expression, glutathione synthesis, and proteasomal proteolysis	共著	2021年10月	Journal of Biochemistry, mvab117
Sakai Y., Taguchi M., Morikawa Y., Miyazono H., Suenami K., Ochiai Y., Yanase E., Takayama T., Ikari A., Matsunaga T.: Apoptotic mechanism in human brain microvascular endothelial cells triggered by 4'-iodo- α -pyrrolidinononano phenone: contribution of decrease in antioxidant properties	共著	2022年2月	Toxicology Letters, 355, 127-140
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
長尾 ゆきの、小林 美緒、神保 俊輔、井口 和弘、遠藤 智史、五十里 彰、松永 俊之 17 β -エストロジオール存在下における乳がん細胞のシスプラチン耐性獲得機序の解明 -アルドケト還元酵素とMAPキナーゼの意義-		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
森川 嘉文、宮園 英駿、鎌瀬 今日子、末次 耕一、遠藤 智史、五十里 彰、松永 俊之 長鎖炭化水素を有するカチノン誘導体の神経細胞毒性に対するアルドケト還元酵素1B1の防御効果		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
森川 嘉文、神保 俊輔、江川 大祐、笹島 康秀、末次 耕一、佐藤 清人、竹腰 裕二、松永 俊之 ヒト培養細胞株を用いたシブトラミン誘導体の構造毒性相関解析		2021年7月3日	日本法中毒学会第40年会
酒井 優治、田口 真希、森川 嘉文、高山 知周、五十里 彰、松永 俊之 ヒト脳毛細血管内皮細胞を用いた4'-iodo- α -pyrrolidinononano phenoneによる血管脳関門破綻機序の解明		2021年10月4日	第105次日本法医学会学術全国集会
長尾 ゆきの、米澤 綾乃、鷹澤 博明、久松 亜紀、井口 和弘、遠藤 智史、五十里 彰、松永 俊之 乳がん細胞のタモキシフェン耐性獲得におけるアルドケ還元酵素1C3、グルタチオンとプロテアソームの意義		2021年11月3日	第94回日本生化学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年7月～現在	日本法中毒学会評議員		
2017年11月～現在	日本法科学技術学会評議員・日本法科学技術学会誌編集委員		
2020年8月～現在	岐阜市都市計画審議会委員		
2021年4月～現在	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 教育連携推進部会委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 科学英語研究室	職名 教授	氏名 ミルボド S・M・
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年5月10日	(英語会話Ⅰ) 講義に関する文法、薬剤師として必要な英語コミュニケーションの資料を事前に配布し、講義の重要な点を再度説明した。また、毎回の講義において確認課題を実施し、学生の理解度確認しながら講義を進めている。アンケート回答者の8割以上が現状の講義内容やプリントに満足しているとの結果であった。	
	2021年5月13日	(薬学英語Ⅱ) 医学英語によるコミュニケーションを総合的に向上させることをねらいとして、パワーポイントおよび印刷の講義資料を使い、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、医療関係DVDを使い、医療、薬学イングリッシュの発音や聞き取りの練習により、コミュニケーションの能力を向上させた。アンケート回答者の7.8割以上が現状に満足している結果であった。	
	2021年10月25日	(薬学英語Ⅰ) 医学英語によるコミュニケーションを総合的に向上させることをねらいとして、パワーポイントおよび印刷の講義資料を使い、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、医療関係DVDを使い、医療、薬学イングリッシュの発音や聞き取りの練習により、コミュニケーションの能力を向上させた。アンケート回答者の8.3割以上が現状に満足している結果であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年3月12日	(教材) 歯科英語の練習帳 『歯の健康づくりをサポートする英語表現』 English for Dental Hygienists	
	2021年4月5日	(薬学英語Ⅱ) 通常の冊子体の資料よりは、最近の学生には視覚的な教材が望ましいので、英語会話、実用英語、英語コミュニケーションおよび薬学英語の対面や遠隔授業で全部の講義内容スライドを作成した。	
	2021年10月4日	(薬学英語Ⅰ) 通常の冊子体の資料よりは、最近の学生には視覚的な教材が望ましいので、英語会話、実用英語、英語コミュニケーションおよび薬学英語の対面や遠隔授業で全部の講義内容スライドを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年1月20日	日本語、英語の研究室内に載せる学長挨拶原稿を英語に訳した作業を行った。	
	2021年12月13日	日本語、英語の研究室内パンフレットの英文を校正した。	
	2022年1月24日	日本語、英語の研究室内パンフレットの英文を確認した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年6月23日	1~3回生の合計58名の学生の担任として、アドバイザー教員と連携し、学生の教育面や生活面のサポートを行った。一人暮らしを始めたばかりで、新しい環境になじめないという相談に、丁寧に耳を傾け、実践的なアドバイスをしていた。	
	2021年7月14日	「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の中田晃先生の講演を拝聴し、学校法人化までの流れ又法人化のメリット及びデメリットについて理解が深まった。	
	2021年12月8日	山本真由美先生の講演「大学健康管理における最近の話題」を拝聴し、学生の心身の健康をサポートする方法や健康相談・メンタルヘルスの相談などについて理解が深まった。	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Miyata M, Hashimoto N, Yamada S, Mirbod SM: English For Dental Hygienists 『歯科英語の練習帳、歯の健康づくりをサポートする英語表現』	共著	2021年3月	萌文書林、東京 ISBN: 978-4-89347-376-9
Mirbod SM, Sugiura H: Does a communicative and friendly group work cause academic achievement in college students?	共著	2020年9月	Jpn Journal Health Recreation, 16, 31-42
Mirbod SM, Sugiura H: Cold Weather Recreational Activities and Raynaud's Phenomenon. Japanese Journal of Health Recreation, 16: 13-21 (2020).	共著	2020年9月	Jpn Journal Health Recreation, 16, 13-21
Inaba R, Mirbod SM: Status of implementation of job crafting among female hospital nurses	共著	2018年5月	Jpn J Occup Med Traumatology, 67, 81- 86
Mirbod SM, Sugiura H: A non-invasive technique for the evaluation of peripheral circulatory functions in females subjects with Raynaud's phenomenon	共著	2017年5月	Industrial Health, 55, 275-284
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Mirbod SM: Evaluation of recreational noise exposure level in college students during an indoor live concert (A pilot study)		2019年9月	日本健康レクリエーション学会
Mirbod SM: Friendly Small Group Learning as a New Teaching-Learning Concept		2018年9月	日本健康レクリエーション学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2000年10月	NEW YORK ACADEMY OF SCIENCES (会員)		
2002年4月	日本教育医学会(会員)		
2015年4月	日本教育医学会(会員)		
2015年5月	日本健康レクリエーション学会(会員、理事)		
2017年5月	日本職業・災害医学学会(会員)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	生薬学研究室
職名	准教授	氏名	阿部 尚仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月4日	(薬用資源学) 講義内容をまとめたプリントを講義前に配布し、重要な点は書き込んでもらうようにしている。講義毎にまとめの小課題を出題し、まとめた試験対策プリントも配布している。この方法に対する学生評価が非常に高い。
		2021年7月6日	(代替医療論) 講義内容をまとめたプリントを講義前に配布し、重要な点は書き込んでもらうようにしている。講義後にまとめの小課題を出題し、回答してもらっている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月9日	薬用資源学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年4月12日	生薬学実習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年6月29日	代替医療論で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年10月12日	岐阜薬科大学市民公開講座において、演題「食用植物とサプリメント」に関する講演を行った。
		2021年11月11日	関薬剤師会・株式会社ツムラ共催の「岐阜漢方調剤フォーラム (Webセミナー)」において「漢方の基本としくみ」に関する講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年12月16日	岐阜薬科大学ハラスメント防止研修において、名古屋大学内川菜月先生による「ハラスメントの観点に立ちつつ多角的に考える(仮)」の講演を拝聴し、身近なハラスメント例およびその対策について知識を深めることができた。
		2021年7月14日	一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長 中田晃先生による「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の講演を拝聴し、今後本学が独法化するにあたり予想される事項などについて知識を深めることができた。
		2021年12月1日	第1回知的財産評価委員会セミナーにおいて、ノア国際特許事務所 野村和弘先生による「弁理士による特許入門セミナー～大学の先生が落ちやすい特許の落とし穴～」の講演を拝聴し、特許出願などについて知識を深めることができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Koki Mori, Aiko Shimogomi, Naohito Abe, Manami Haba, Tomoaki Yoshimura, Joko Ridho Witono, Dedy Darnaedi, Toshiyuki Tanaka, Jin Murata, and Masayoshi Oyama : Three New 5,6-Dihydro- α -pyrones Isolated from <i>Cryptocarya nitens</i>	共著	2018年1月	Heterocycles 96, 1583 - 1591

Usui, Shigeyuki; Soda, Midori; Iguchi, Kazuhiro; Abe, Naohito; Oyama, Masayoshi; Nakayama, Tatsushi; Kitaichi, Kiyoyuki: Down-regulation of aquaporin 9 gene transcription by 10-hydroxy-2-decenoic acid: A major fatty acid in royal jelly	共著	2019年10月	Food Science & Nutrition 7, 3819-3826
Endo, Satoshi; Matsuoka, Tomoe; Nishiyama, Tsubasa; Arai, Yuki; Kashiwagi, Hirohito; Abe, Naohito; Oyama, Masayoshi; Matsunaga, Toshiyuki; Ikari, Akira: Flavonol glycosides of <i>Rosa multiflora</i> regulates intestinal barrier function through inhibiting claudin expression in differentiated Caco-2 cells	共著	2019年12月	Nutrition Research 72, 92-104
Ji-Yeong Bae, Bharathi Avula, Jianping Zhao, Vijayasankar Raman, Yan-Hong Wang, Mei Wang, Fazila Zulfiqar, Wei Feng, Jong Hee Park, Naohito Abe, Zulfiqar Ali, Ikhlas A. Khan: Analysis of prenylflavonoids from aerial parts of <i>Epimedium grandiflorum</i> and dietary supplements using HPTLC, UHPLC-PDA and UHPLC-QToF along with chemometric tools to differentiate <i>Epimedium</i> species	共著	2020年1月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis 177, 112843
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
普久原朝樹, 阿部尚仁, 幅愛実, 大山雅義 マメ科 <i>Crotalaria breviflora</i> の成分研究		2021. 9. 19	日本生薬学会第67回年会
毛良陽介, 阿部尚仁, 幅愛実, 大山雅義 カヤツリグサ科植物の成分研究 (10) テンツキの成分研究		2021. 9. 20	日本生薬学会第67回年会
寒川祐成, 幅愛実, 阿部尚仁, 邑田裕子, 大山雅義 イロハモミジ (<i>Acer palmatum</i>) の成分研究		2021. 9. 21	日本生薬学会第67回年会
幸野寛子, 幅愛実, 阿部尚仁, 田中稔幸, 邑田裕子, 大山雅義 マンサク科 <i>Sycopsis sinensis</i> のフェノール性成分に関する研究 (2)		2021. 9. 22	日本生薬学会第67回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年8月～現在	アメリカ生薬学会（一般会員）		
2013年10月～現在	日本薬学会（一般会員）		
2013年10月～現在	日本生薬学会（一般会員）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品化学研究室
職名	准教授	氏名	井川 貴詞
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年4月12日	(医薬品化学)補助プリントを作成して、特に基本骨格や官能基と、薬の作用の相関関係を明確にするとともに、代謝官能基変換部位の化学的考察、ドラッグデザインや相互作用の基礎となる知識の伝授に努めている。また、講義内容は毎年更新して、現状に合った、しかし基礎を外さない構成で先端的な内容にしている。
		2021年10月7日	(危険物化学)前任者が重要視してこなかった毒物・劇物取締法、麻薬取締法、覚せい剤取締法、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律などの薬剤師国家試験で出題される法規と危険物取扱法との関連性や違いについて整理し講義を行った。
		2021年10月14日	(有機化学演習)時間の許す限り、学生が解いた問題に関連する情報や考え方を教えることで、学習の幅を広げ、学生の応用力を養うように努
		2022年1月18日	(薬学基礎実習)本実習では、ガスバーナーを用いる同日にエーテルやヘキサンに代表される引火性溶媒を使用する必要があるため、学生の安全を守るために同時使用を禁止した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月12日	医薬品化学の講義で使用する補助プリントを作成し、学生に配布した。
		2021年10月7日	危険物化学の講義で使用する補助プリントを作成し、学生に配布した。
		2021年10月26日	有機化学実習及び基礎科学実習で使用する実習テキストを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年11月5日	第12回有機化学系教科担当者会議にて、「将来、医薬品製造管理者となりうる有機系人材を、今後、如何にして輩出していくのか」という演題にて講演を行った。
		2021年3月5日	FD講演会「ブレンデッド教育の模索と課題-2020年度の総括2021年度の展望」にて阪大薬学部を代表(1名)してオンライン教育で実践した内容を紹介した。
		2021年8月12日	本学の学部学生を対象とした第一回大学院進級ガイダンスにて自らの研究海外留学の経験などについて学生たちに紹介した。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年8月7日	第41回有機合成若手セミナーにおいて、指導学生(岡直輝)が演題「第41回有機合成若手セミナー」を発表し、優秀発表賞を受賞した。
		2021年11月9日	第119回有機合成シンポジウムにおいて、指導学生(岡直輝)が演題「ホウ素の空軌道を立体的に保護した芳香族ポロン酸エステルの開発」を発表し、優秀発表賞を受賞した。
		2021年11月5日	2回生の合計10名の学生のアドバイザー教員として、学生の教育面や生活面のケアを行った。
		2019年12月14日	2019年度はOSCEモニター員として大阪大谷大学OSCEの事前準備から試験当日の審査を実施した。2018年度と2020年度はOSCEのための出張はなかったが、摂南大学のモニター員を務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称

Takashi Ikawa,* Yuta Yamamoto, Akito Heguri, Yutaka Fukumoto, Tomonari Murakami, Akira Takagi, Yuto Masuda, Kenzo Yahata, Kenzo Yahata, Hiroshi Aoyama, Yasuteru Shigeta, Hiroaki Tokiwa,* Shuji Akai* Could London Dispersion Force Control Regioselective (2+2) Cyclodimerizations of Benzyne? YES: Application to the Synthesis of Helical Biphenylenes Selected as a Supplementary Cover Art. Highlighted in Chem-Station (https://www.chem-station.com/blog/2021/08/london.html) Highlighted in Synfacts 2021, 17(09), 0981. Highlighted in ファルマシア Editor' s Eye	共著	2021年7月	J. Am. Chem. Soc. 2021, 143, 10853-10859.
Ikawa, Takashi;* JingKai, Sun; Takagi, Akira; Akai, Shuji* One-Pot Generation of Functionalized Benzyne from Commercially Available 2-Hydroxyphenylboronic Acids	共著	2020年2月	J. Org. Chem. 2020, 85, 3383-3392.
Ikawa, Takashi;* Masuda, Shigeaki; Akai, Shuji* One-Pot Generation of Benzyne from Phenols: Formation of Primary Anilines by the Deoxygenation of Phenols Featured in Org. Chem. Highlights: Substituted Benzenes https://www.organic-chemistry.org/Highlights/2020/12october.shtm	共著	2020年1月	Chem. Eur. J. 2020, 26, 4320-4332.
Ikawa, Takashi;* Masuda, Shigeaki; Akai, Shuji* Microflow Fluorinations of Benzyne: Efficient Synthesis of Fluoroaromatic Compounds Highlighted Paper selected by Editor-in-Chief	共著	2018年12月	Chem. Pharm. Bull. 2018, 66, 1153-1164.
Ikawa, Takashi;* Masuda, Shigeaki; Nakajima, Hiroki; Akai, Shuji* 2-(Trimethylsilyl)phenyl Trimethylsilyl Ethers as Stable and Readily Accessible Benzyne Precursors	共著	2017年4月	J. Org. Chem. 2017, 82, 4242-4253.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
岡 直輝、赤井周司、佐治木弘尚、井川貴詞 安定性と反応性を兼ね備えた芳香族ボロン酸エステルの開発 優秀研究発表賞		2021年8月4日	第41回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」
岡 直輝、赤井周司、佐治木弘尚、井川貴詞 ホウ素の空軌道を立体的に保護した芳香族ボロン酸エステルの開発 優秀発表賞		2021年11月9日	第119回有機合成シンポジウム
Takashi Ikawa, Naoki Oka, Shuji Akai Development of Practical Arylboronates Stable on Silica-Gel		2021年12月19日	PacificChem2021
Takashi Ikawa, Masaki Kawabata Takashi Ikawa, Akira Takagi, Shuji Akai Silyl group-directed 3,4-pyridine reactions and product transformations for the synthesis of various pyridine derivatives		2021年12月17日	PacificChem2021
井川貴詞、増田雄人、赤井周司 縮環ベンザインを用いるらせん分子の効率的合成		2022年3月25日	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～	日本薬学会ファルマシア委員		
2021年4月～現在	日本プロセス化学会書記		
2016年4月～2021年3月	日本薬学会関西支部委員 (2019年度より支部会名称変更)		
2016年4月～2018年4月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員		
2016年4月～2018年4月	生理活性をあまり意図しない天然物合成勉強会世話人		
2017年4月～2018年3月	次世代を担う有機化学シンポジウム実行委員長		
2012年4月～2019年3月	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	生化学研究室
職名	准教授	氏名	遠藤 智史
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年5月24日	(生体情報学) 講義スライドのレジュメを配布し、重要な点は講義中に補足してもらうようにしている。配布資料は分かりやすくまとまっており、見やすいと好評であった。毎回の講義において確認問題を出題し、レポートとして提出させ、次回の講義時に解説を行っている。この確認問題は効率的に復習ができるということで多くの学生から満足の声が届いている。また、アンケートでは、現状の講義内容に関するネガティブな意見はなかった。
		2022年1月17日	(生物化学演習) 初日にすべての課題と講義スケジュールを公開し、学生が自主的かつ効率的に学習できる態勢を整えた。また、演習問題を解くのではなく、問題とその解説を学生自身が作成し、発表するという講義スタイルを確立させた。講義の目的が分かりやすく、学習意欲が増した、と学生からの評価は高い。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月5日	生体情報学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年4月5日	ドラッグデザイン演習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年11月8日	生物化学演習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年3月20日	第37回Next30産学フォーラムにて、『くすりのつくり方～デザインから上市まで～』に関する講演を行った。
		2021年8月12日	岐阜薬科大学キャリアガイダンスにて、学部1～3回生を中心に、博士号取得後の進路や留学経験などについて講演を行った。
		2021年11月26日	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 2021公開講座で「オートファゴソーム膜形成を標的とした新規オートファジー阻害剤の開発」に関する講演を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2020年12月16日	岐阜薬科大学ハラスメント防止研修において、名古屋大学内川菜月先生による「ハラスメントの観点に立ちつつ多角的に考える(仮)」の講演を拝聴し、業務内で起こりうるハラスメントの可能性とその対策について知識を深めることができた。
		2021年7月14日	一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長 中田晃先生による「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の講演を拝聴し、独法化した大学の実際についてや、今後本学が独法化するにあたり期待される事項や懸念される事項などについて知識を深めることができた。
		2021年12月1日	第1回知的財産評価委員会セミナーにおいて、ノア国際特許事務所 野村和弘先生による「弁理士による特許入門セミナー～大学の先生が落ちやすい特許の落とし穴～」の講演を拝聴し、出願に至るまでの研究の進め方や注意点などについて知識を深めることができた。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Endo S, Morikawa Y, Kudo Y, Suenami K, Matsunaga T, Ikari A, Hara A: Human dehydrogenase/reductase SDR family member 11 (DHRS11) and aldo-keto reductase 1C isoforms in comparison: Substrate and reaction specificity in the reduction of 11-keto-C19-steroids.	共著	2020年5月	The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology, 199, 105586
Endo S, Oguri H, Segawa J, Kawai M, Hu D, Xia S, Okada T, Irie K, Fujii S, Gouda H, Iguchi K, Matsukawa T, Fujimoto N, Nakayama T, Toyooka N, Matsunaga T, Ikari A: Development of Novel AKR1C3 Inhibitors as New Potential Treatment for Castration-Resistant Prostate Cancer.	共著	2020年9月	Journal of Medicinal Chemistry, 63, 10396-10411
Endo S, Kawai M, Hoshi M, Segawa J, Fujita M, Matsukawa T, Fujimoto N, Matsunaga T, Ikari A: Targeting Nrf2-antioxidant signalling reverses acquired cabazitaxel resistance in prostate cancer cells.	共著	2021年9月	Journal of Biochemistry, 170, 89-96
Endo S, Matsunaga T, Nishinaka T: The Role of AKR1B10 in Physiology and Pathophysiology.	共著	2021年5月	Metabolites, 11, 332
Endo S, Nishiyama T, Matuoka T, Miura T, Nishinaka T, Matsunaga T and Ikari A: Loxoprofen enhances intestinal barrier function via generation of its active metabolite by carbonyl reductase 1 in differentiated Caco-2 cells.	共著	2021年10月	Chemico-Biological Interactions, 348, 109634
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
谷生 真敏、工藤 優大、阿部 尚仁、武田 充未、山口 英士、荒井 裕貴、柏木 宏仁、大山 雅義、伊藤 彰近、五十里 彰、遠藤 智史 トリプルネガティブ乳がん治療薬の開発を指向した17β-ヒドロキシステロイド脱水素酵素DHRS11の新規阻害剤の探索		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
工藤 優大、藤田 芽衣、鎌足 雄司、田中 義正、藤本 直浩、岡田 卓哉、豊岡 尚樹、五十里 彰、遠藤 智史 オートファジー阻害剤としての新規Atg4B阻害剤の創製		2021年7月3日	第67回日本薬学会東海支部総会・大会
工藤 優大、谷生 真敏、部村 鈴、阿部 尚仁、武田 充未、山口 英士、大山 雅義、伊藤 彰近、塩田 真己、藤本 直浩、五十里 彰、遠藤 智史 前立腺がん細胞における新規ポリフェノールのアンドロゲンシグナル抑制効果		2021年11月3日	第94回日本生化学会大会
遠藤 智史 論理創薬による酵素阻害剤の創製研究—生物系研究者が直面する課題—		2022年2月19日	第9回CBI学会個別化医療研究会
遠藤 智史、工藤 優大、谷生 真敏、部村 鈴、阿部 尚仁、武田 充未、山口 英士、大山 雅義、伊藤 彰近、塩田 真己、藤本 直浩、五十里 彰 コウボウムギ花部ポリフェノールによる前立腺がん細胞増殖抑制機序の解明		2022年2月25日	第31回泌尿器科分子・細胞研究会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～2019年3月	中部経済連合会 Next30産学フォーラム コアメンバー		
2018年4月～現在	International Scientific Committee of International Workshop on the Enzymology and Molecular Biology of Carbonyl Metabolism		
2018年9月～2020年8月	日本生化学会中部支部 幹事		
2019年6月～2020年5月	日本生化学会 代議員・理事選挙 選挙管理委員		
2019年4月～現在	日本薬学会構造活性相関部会 幹事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	感染制御学研究室
職名	准教授	氏名	腰塚 哲朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年12月14日	(微生物学)多くの学生が現在の授業形態・資料で良いという回答であった。一部については、病態に関する写真の掲載に関する意見、出題方法などに関する意見、資料をサーバーにuploadしてほしい等の意見があり、それぞれに対応した。
		2020年10月15日	(総合薬学演習)微生物学・免疫学に関する講義を行った。学生アンケートでは良かった講義の一つに上がっており、概ね好評だったと考えている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年6月16日	感染制御学実習に関する資料(ハンドアウト・動画)を作成し、学生に配布した。動画はサーバー上でオンデマンドに公開し、学生の習熟度向上に寄与した。
		2021年10月15日	総合薬学演習において、免疫学・微生物学・化学療法に関する資料を作成し、学生に配布した。
		2021年10月5日	微生物学の講義に関する資料を作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月28日	岐阜薬科大学市民公開講座で講師を務め、「ヒトと微生物の一万年戦争」と題して、感染症に関する講演を行った。
		2019年9月5日	岐阜薬科大学を広く紹介するためにYouTubeにて、模擬講義を行った。
		2021年3月1日	食品保健指導士会・東海支部会において、「新しい感染症の出現と対策」として、感染症とワクチンに関する講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月1日	「弁理士による特許セミナー」「大学健康管理における最近の話題」などを聴講し、今後の大学のあり方について理解を深めた。
		2021年12月8日	「大学健康管理における最近の話題」(山本眞由美先生)を聴講し、大学生のメンタルヘルスと学生への対応について理解を深めた。
		2021年度	アドバイザー面談を行い、学生の様子を把握するとともに進路などの相談を行った。一部については、担任などに情報を伝達した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Characterization of a thiourea derivative that targets viral transactivators of cytomegalovirus and herpes simplex virus type 1	共著	2021年12月	Antiviral Research 196, 105207
Human cytomegalovirus UL42 protein inhibits the degradation of glycoprotein B through inhibition of Nedd4 family ubiquitin E3 ligases.	共著	2021年11月	Microbiology and Immunology 65 472-480
The carboxyl-terminal penta-peptide repeats of major royal jelly protein 3 enhance cell proliferation.	共著	2020年12月	Biol Pharm Bull 43 1911-1916
Activation of c-Jun by human cytomegalovirus UL42 through JNK activation.	共著	2020年5月	PLoS One 15 e0232635

Herpesviruses possess conserved proteins for interaction with Nedd4 family ubiquitin E3 ligases	共著	2018年3月	Sci Rep 8 4447
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒトサイトメガロウイルスgBのユビキチン化に対するNedd4ファミリー分子の役割		2021年11月	日本ウイルス学会
GPCMV BACに導入した9kbの欠失領域が個体での感染に与える影響とその領域にコードされる遺伝子産物		2021年11月	日本ウイルス学会
新規抗HSV-1化合物の作用機序の解明		2021年11月	日本ウイルス学会
モルモットサイトメガロウイルスがコードする細胞死抑制タンパクgp38.3の培養細胞および動物個体における機能の解析		2021年11月	日本ウイルス学会
サイトメガロウイルスワクチンの評価マーカーとしての抗体依存性貪食に対する測定系構築および解析		2021年11月	日本ウイルス学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年～現在	ヘルペスウイルス研究会 世話人		
2018年～現在	日本ウイルス学会 プログラム委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬効解析学研究室	
職名	准教授	氏名	嶋澤 雅光	
I 教育活動				
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月23日	(創薬学Ⅱ) 講義内容のまとめをプリントを配布し、講義の後半で再度重要な点について解説している。また、創薬に関する興味を高めるために、講義に関連した動画を用いて学生に視聴させ、かなり好評で学習意欲が高まった。また、後半では自身が開発に携わった薬の創薬・開発研究経験を交えながら創薬の面白さについて紹介した。	
		2022年1月24日	(先端医療学) 講義内容のまとめをプリントを事前に配布し、講義の後半で再度重要な点について解説している。配布資料については、要点を分かりやすくまとまっていると好評であり、フィードバックすべき課題・意見などは特になかった。	
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月7日	創薬学Ⅱの講義(第1~5回)で使用するレジюмеを作成し、学生に配布した。	
		2021年5月26日	創薬学Ⅱの講義(第6~8回)で使用するレジюмеを作成し、学生に配布した。	
		2021年6月9日	創薬学Ⅱの講義(第9~12回)で使用するレジюмеを作成し、学生に配布した。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年9月12日	栄中日文化センターにおいて、一般市民向けに演題「眼に力を！眼を鍛えて衰えない視力を！」に関する講演を行った。講演終了後も質問が絶えず、1時間以上にわたり質問を受け、大変好評であった。	
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	中田 晃先生(一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長、福山市立大学 副理事長)「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の講演を拝聴し、法人化の必要性、課題などの理解が深まった	
		2021年12月1日	野村 和弘先生(ノア国際特許事務所)「弁理士による特許入門セミナー ~大学の先生が落ちやすい特許の落とし穴~」の講演を拝聴し、特許に関する理解が深まった。	
		2021年12月8日	山本真由美(岐阜大学保健管理センター長、教授)「大学保健管理における最近の話題ーメンタルヘルスと障害学生支援を中心にー」の講演を拝聴し、学生への対応に対する理解が深まった。	
II 研究活動				
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	嶋澤雅光 緑内障における小胞体ストレス応答機構	単著	2018年8月	Frontiers in Glaucoma 56: 145-150.
	嶋澤雅光、原英彰 筋萎縮性側索硬化症における小胞体ストレスの関与と治療薬の可能性	共著	2018年8月	THE BONE 32(2): 221-226.
	嶋澤雅光、原英彰 DDSによる網膜疾患治療	共著	2019年4月	眼科 61(4): 397-402.

嶋澤雅光、原英彰 緑内障の薬物治療の現状と今後の展望	共著	2021年1月	YAKUGAKU ZASSHI 141(1): 61-66.
嶋澤 雅光 非ヒト霊長類を用いた緑内障モデルの確立と治療戦略	単著	2022年1月	オベリスク Vol. 27, 1 January 2022
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
青島 弘汰、両角 歩、稲垣 賢、中村 信介、嶋澤 雅光、原 英彰. 機械刺激依存チャネルPiezo1を標的にした眼圧下降薬の開発		2021年11月6日	第41回日本眼薬理学会
矢古宇 智弘、中村 信介、嶋澤 雅光、原 英彰 網膜色素上皮細胞の機能に及ぼす脂肪滴の影響		2021年11月6日	第41回日本眼薬理学会
嶋澤雅光 サルを用いた網膜疾患のモデルの開発と応用		2021年11月7日	第41回日本眼薬理学会
辻 翔平、中村 信介、山田 哲也、庄田 健二、嶋澤 雅光、原 英彰. メマンチンのMGMT発現抑制を介したテモゾロミドの抗腫瘍効果の増強機構		2021年11月13日	第64回日本脳循環代謝学会 学術集会
藤森 ほか、溝口 貴洋、大庭 卓也、嶋澤 雅光、中村 信介、篠原 正和、原 英彰. VGF nerve growth factor inducible (VGF) のグルタミン酸代謝調節における機能解明		2021年11月13日	第64回日本脳循環代謝学会 学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2010年4月～現在	日本薬理学会評議員、代議員（2012年9月～2014年8月、2020年11月～現在）		
2014年～現在	日本眼薬理学会評議員、事務局長（2020年4月～2021年3月）		
2016年4月～現在	日本眼薬理学会事務局を担当し、理事会、評議員会の開催運営および学会開催準備等をサポートし、学会機関誌（年1回）を発行した。		
2021年4月～現在	日本脳サプリメント学会評議員		
2021年7月16日、7月19日	ワクチン調製業務への従事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	数学研究室
職名	准教授	氏名	杉山 登志
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月8日	<p>(数学)「薬学部だから」という理由で定理の証明や理解の深さについて大幅に妥協をして授業を行う薬科大学も多いようだが、本学の学生のレベルの高さを考えると、そのような授業は望ましくない。一方で、「学生時代、数学科の先生の話は、結局のところさっぱり分からなかった」となることも論外である。両者の要請を同時に満たすよう、学生が理解できる範囲内で、可能な限り定理の証明を行い、どのような意味合いの定理であるかが理解できるように心掛けて授業を組み立てている。これまでに膨大な時間をかけて作成した授業資料があり、毎回の授業は、この授業資料に沿って進めている。また、この資料では、定理の証明や例題の解答部分などが空白になっており、授業は、この空白部分に書き込みながら解説をする形式で進めている。課題も毎回出し、次の授業の前日までに提出してもらうようにしている。さらに、授業での書き込み後の授業資料や課題の模範解答を、授業用のホームページ上にアップロードするなど、細やかなフォローを行っている。アンケート回答者の8割以上から、講義資料が綺麗に纏まっていて分かり易い、授業や説明が丁寧で分かり易い、毎週ある課題のおかげで内容を定着させるために過不足のない復習ができてよい、など好意的な反応があった。</p>
		2021年12月8日	<p>(統計学) 推計統計学における1つ1つの推定・検定の背後には、それらの正当性を保証する (数学の1分野である) 確率論の定理があり、それ故に統計学は確固とした足場をもち、万人に信頼され得るものとなっている。背後にある確率論を切り離して、統計的手法の紹介に終始する授業を行うところも多いようだが、それでは統計学のきちんとした理解を得ることはできない。本学の学生のレベルを考えると、(多少は粗くなる部分があっても) 背後にある確率論の定理から理解できるよう、授業を行うのが望ましいと考える。その際最も避けるべきは「確率論が分からなかったから、その後の統計学も全然わからなかった」となることであるが、細心の注意を払い丁寧に説明することで、大半の学生は最後までそれなりに理解できていることが、学生の反応から確認できる。全13回の授業のうち、確率論に5回程度を割き、残り8回で統計学の内容を扱う。講義内容をコンパクトにまとめた「授業資料」(A4サイズで合計54ページ)のうちその日の授業で扱う部分を、授業時に毎回配布している。また、毎回課題を課し、解答を提出してもらっている。これらの方法は、上記「数学」の授業に同じである。学生からの反応についても、「数学」同様、アンケート回答者の9割以上が現状に満足している結果であった。</p>
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月6日	<p>数学の講義で使用する授業資料 (A4サイズ、69ページ)、および毎回の課題用プリント (A4サイズ、合計14ページ) とその模範解答 (A4サイズ、合計19ページ) を作成し、学生に配布した。</p>

	2021年10月6日	統計学の講義で使用する授業資料（A4サイズ、54ページ）、および毎回の練習問題（A4サイズ、合計35ページ）とその模範解答（A4サイズ、合計38ページ）を作成し、学生に配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年6月14日	岐阜県高等学校教育研究会数学会主事の大学入試数学研究協議会において、本学の一般入試数学の問題について解説を行った。（オンライン）	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年度	1～3回生の合計49名の学生の担任として、アドバイザー教員と綿密に連携しながら、学生の学業面や生活面のケアを行った。特に、学業成績が芳しくない2名と面談をしたところ、2回生1名は精神面に、1回生1名は生活習慣面に問題を抱えていることが判明した。種々のアドバイスを与え、状況を見守っている。	
	2021年7月14日	FD/SD講演会「公立大学の課題と展望—法人化について—『公立大学法人制度とガバナンスの課題』」（中田晃先生）を拝聴した。法人化の意義や、法人化をするにあたって気を付けるべき点などが非常に分かりやすく述べられ、とても興味深く勉強になった。	
	8月中旬	研究倫理等コンプライアンス講習会として、「The Lab (jst.go.jp)」という研究倫理映像教材をオンデマンドで動画受講した。非常によくできた映像教材で、感銘を受けた。順に、4人の登場人物全ての立場に立ってロールプレイを行ったが、研究者のとるべき価値判断がどのようなものであるのかが、とてもよく伝わってきた。非常に印象に残り、また、ためになる受講であった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Sugiyama T. : The moduli space of polynomial maps and their fixed-point multipliers	単著	2017年12月	Advances in Mathematics, 322, 132-185
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2007年4月～現在	日本数学会正会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	病院薬学研究室
職名	准教授	氏名	館 知也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月8日	(医療経済論) 講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、重要な点を講義中に書き込んでもらうようにしている。演習問題を充実させ、理解が深まるよう工夫している。また、臨床の事例や最新の情報を取り入れることにより、内容に興味を持つよう工夫している。アンケート回答者のほとんどが現状に満足している結果であった。
		2021年11月29日	(医療制度論) 講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、重要な点を講義中に書き込んでもらうようにしている。医療制度や関連法規の変更・追加が頻繁に行われるため、毎年、関連する省庁のホームページを確認し、変更・追加があればスライド・資料を更新している。また、臨床の事例や最新の情報を取り入れることにより、内容に興味を持つよう工夫している。アンケート回答者のほとんどが現状に満足している結果であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年8月1日	2ページで理解する標準薬物治療ファイル第3版(南山堂)の「てんかん・大うつ病性障害」の章を分担執筆した。
		2020年8月31日	モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト2021-2022(じほう)を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年1月19日	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会において、「岐阜市民病院薬剤部における改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習トライアル」について発表した。
		2021年3月26日	日本薬学会第141年会において、「薬剤師として求められる基本的な資質、社会的スキルおよび薬剤師コミュニケーションスキルに対する実務実習の効果～学生への自己評価アンケート調査～」について発表した。
		2021年8月21日	第6回日本薬学教育学会大会において、「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる実務実習に関する指導薬剤師を対象としたアンケート調査」について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年11月4日	第29回日本医療薬学会年会において、指導学生が優秀演題賞を受賞した。
		2021年6月13日	日本医療薬学会第4回フレッシューズ・カンファランスにおいて、指導学生が優秀演題発表賞を受賞した。
		2021年12月1日	講演「大学健康管理における最近の話題(山本真由美先生)を受講し、問題を抱える学生に対する大学の指導・支援において注意すべき点を学ぶことができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Tomoya Tachi, Manami Otsubo, Manabu Toyoshima, Azusa Murayama, Hayato Katsuno, Anri Ueno, Yoshihiro Noguchi, Satoshi Aoyama, Masahiro Yasuda, Takashi Mizui, Chitoshi Goto, Hitomi Teramachi	共著	2021年4月	Aging Clinical and Experimental Research, 33, 983-990

久保賢晃, 館知也, 高岡みらい, 青山京介, 林剛, 野口義紘, 寺町ひとみ, 薬剤師として求められる基本的な資質, 社会的スキルおよび薬剤師コミュニケーションスキルに対する実務実習の効果～学生への自己評価アンケート調査～	共著	2021年6月	医療薬学, 47, 279-292
Tomoya Tachi, Manami Otsubo, Manabu Toyoshima, Hayato Katsuno, Anri Ueno, Yoshihiro Noguchi, Satoshi Aoyama, Masahiro Yasuda, Takashi Mizui, Chitoshi Goto, Hitomi Teramachi, What activities of daily living at discharge affect the discharge destination of patients in an acute-care hospital in Japan: A retrospective factor analysis	共著	2021年7月	The International Journal of Health Planning and Management, 36, 1326-1337
林剛, 館知也, 野口義紘, 杉岡まゆ子, 青山智, 田中和秀, 安田昌宏, 後藤千寿, 山田浩司, 水井貴詞, 寺町ひとみ, ナトリウム・グルコース共輸送体-2 (SGLT2) 阻害薬に関するリスク管理計画におけるリスク最小化活動の評価ー国内自発報告データベースおよび実臨床データを用いた解析ー	共著	2021年9月	医療薬学, 47, 464-476
Hayato Katsuno, Tomoya Tachi, Takuya Matsuyama, Mayuko Sugioka, Satoshi Aoyama, Tomohiro Osawa, Yoshihiro Noguchi, Masahiro Yasuda, Chitoshi Goto, Takashi Mizui, Hitomi Teramachi, Evaluation of the direct costs of managing adverse drug events in all ages and of avoidable adverse drug events in older adults in Japan	共著	2021年11月	Frontiers in Pharmacology, 12, 761607. doi: 10.3389/fphar.2021.761607
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
林剛, 館知也, 野口義紘, 杉岡まゆ子, 青山智, 田中和秀, 安田昌宏, 山田浩司, 水井貴詞, 寺町ひとみ, ナトリウム・グルコース共輸送体-2 阻害薬に関するリスク最小化活動の評価		2021年6月	第4回フレッシュャーズ・カンファランス
高岡みらい, 野口義紘, 林剛, 館知也, 寺町ひとみ, 抗てんかん薬の単剤および併用療法における重篤な皮膚障害のシグナル探索		2021年6月	第23回医薬品情報学会総会・学術大会
久松亜紀, 寺町ひとみ, 館知也, 足立哲夫, 松永俊之, 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる実務実習に関する指導薬剤師を対象としたアンケート調査		2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会
安田昌宏, 館知也, 大澤友裕, 渡邊久高, 井上誠二, 牧野哲平, 長屋雄大, 森田美穂, 田中和秀, 田中佑佳, 青山智, 笠原千嗣, 寺町ひとみ, 水井貴詞, 骨髄異形成症候群患者に対するAzacitidine投与時の血小板減少のリスク因子の解析		2021年10月	第13回日本医療薬学会年会
田中和秀, 館知也, 安田昌宏, 後藤千寿, 中田琢巳, 水井貴詞, 寺町ひとみ, 外来がん化学療法における薬学的介入に関するQOLおよび費用対効果に関する研究		2021年10月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2021
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年6月～現在	日本薬学会 医療薬科学部会若手世話人		
2016年8月～現在	日本アプライド・セラピューティクス (実践薬物治療) 学会 科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ組織委員会委員		
2019年9月8日～現在	日本アプライド・セラピューティクス (実践薬物治療) 学会 評議員		
2019年10月19・20日	日本薬学会 第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム実行委員長		
2021年1月30日～現在	日本アプライド・セラピューティクス (実践薬物治療) 学会 リモート運営ワーキンググループ委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	免疫生物学研究室
職名	准教授	氏名	田中 宏幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月7日	(解剖学) 今年度から担当することとなり、学生も不安な様子であったが、毎回、次回講義分のカラースライドのプリントを配布することにより、概ねわかりやすいとの評価を受けた。
		2021年12月10日	(生理学) 9割近い学生から、わかりやすく興味を持てる講義として高い評価を得ている。マイクの音量に関するクレームがあったため、フィードバック以降はマスクを外して講義を行うとともに、音響については教務厚生課にも確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月9日	(解剖学) 講義で使用するレジュメを2回配布し、以後は1コマ前に該当レジュメを配布した。
		2021年10月8日	(生理学) 講義で使用するレジュメを2回配布し、以後は1コマ前に該当レジュメを配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年1月19日	(高校出前授業) 岐阜県立岐阜北高等学校にて、薬学部に興味のある1、2年生を対象に薬学部の紹介と岐阜薬科大学のカリキュラムや研究内容を紹介した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年度	2回生11名のアドバイザー教員として、担当学生と面談を行った。学業、生活、将来の方向性などについて、個々にケアを行った。
		2021年10月8日	野村和弘先生による講演「弁理士による特許セミナー」を拝聴し、特許の取得に関する考え方や注意点についてポイントを学ぶことができた。
		2021年10月8日	山本真由美先生による講演「大学健康管理における最近の話題」を拝聴し、大学という環境下で生ずる様々なメンタルトラブルや障害学生に対する大学あるいは教員の対応について学ぶ機会を得た。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Matsui T, Tanaka K, Yamashita H, Saneyasu K, Tanaka H, Takasato Y, Sugiura S, Inagaki N, Ito K Food allergy is linked to season of birth, sun exposure, and vitamin D deficiency	共著	2019年4月	Allergol Int, 68, 172-177
Yamada H, Kobayashi R, Shimizu S, Yamada Y, Ishida M, Shimoda H, Kato-Hayashi H, Fujii H, Iihara H, Tanaka H, Suzuki A Implementation of a standardised pharmacist check of medical orders prior to preparation of anticancer drugs to reduce drug wastage	共著	2020年4月	Int J Clin Prac, e13464
Takayama S, Kawanishi M, Yamauchi K, Tokumitsu D, Kojima H, Masutani T, Iddamalgoda A, Mitsunaga T, Tanaka H Ellagitannins from Rosa roxburghii suppress poly(I:C)-induced IL-8 production in human keratinocytes	共著	2021年6月	J Natural Med, 75, 623-632
Yamashita H, Shigemori A, Murata M, Tanaka H, Inagaki N, Tsutsui M, Kumura M Impact of orally-administered oligosaccharides in a murine model of food allergy	共著	2021年10月	J Funct Foods, 85, 104643

Umetsu R, Tanaka M, Nakayama Y, Kato Y, Yeda N, Nishibata Y, Hasegawa S, Matsumoto K, Takeyama N, Iguchi K, Tanaka H, Hinoi E, Inagaki N, Inden M, Muto Y, Nakamura M Neuropsychiatric adverse events of montelukast: an analysis of real-world datasets and drug-gene interaction network	共著	2021年12月	Frontiers in Pharmacology, 764279
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
宮坂智充、川上佳織、田中宏幸、増田千愛、高柳元明、高橋知子、大野 勲 女性における2型免疫応答の亢進に關与するIL-33産生量の性差		2021年10月8日	第70回日本アレルギー学会 学術大会
田中宏幸、末吉賢也、下條尚志、中村正志、大野 敏、矢上晶子、松永佳世子 免疫療法剤の開発を目的とした魚アレルギーマウスモデルの確立		2021年10月9日	第70回日本アレルギー学会 学術大会
山田紘嗣、山田悠人、小林 亮、田中宏幸、鈴木昭夫 抗がん薬投与直前の検査値およびバイタルサインのチェックに基づく疑義照会による 抗がん薬破棄件数の減少		2021年10月30日- 11月7日	日本病院薬剤師会東海ブ ロック・日本薬学会東海支 部合同学術大会2021
山下弘高、田中宏幸、稲垣直樹、筒井正人 マウス食物アレルギーモデルを用いた経口免疫寛容に対する経皮的な食物抗原暴露の影響		2021年11月20日	第74回日本薬理学会西南部 会
山下弘高、田中宏幸、稲垣直樹、筒井正人 マウス食物アレルギーモデルを用いた食物アレルギーの発症における経口免疫寛容と経皮的な抗原負荷のバランスの解析		2022年3月7日-9日	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2000年12月～現在	日本アレルギー学会 代議員（広報委員/東海地方会幹事/専門医認定セミナー講師）		
2002年4月～現在	日本薬理学会 代議員		
2002年4月～現在	日本炎症・再生医学会 評議員		
2016年4月～現在	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 専門委員		
2018年4月～現在	岐阜県准看護師 試験委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	健康・スポーツ科学研究室
職名	准教授	氏名	千葉 洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月18日	(健康・スポーツ科学) 講義で使用するスライド及び学生が記入するプリントを配布し、それを用いて授業を進めている。学生が板書する時間と授業内容を解説する時間を分けたり、イラストや図を用いて内容を解説したことで、授業アンケートではほとんどの学生が満足している結果であった。
		2021年12月23日	(健康・スポーツ実習) サッカーの授業において、男女が共にスポーツを楽しめるようルールを工夫したり、チーム内でのコミュニケーションが活発になるよう対話の機会を増やしたりした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月9日 ～ 2021年6月25日	健康・スポーツ科学で使用する資料(スライド及び穴埋めのプリント)を作成し、学生に配布した。
		2021年4月7日・8日	健康・スポーツ実習の進め方に関する資料を作成し、スライドを用いて学生に説明した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年10月27日	顧問として、陸上部の学生と共に年間の授業計画を作成した。そこでは、日々の活動の進め方についてお互いに意見交換し、部の方向性について共有した。
		2021年12月22日	サッカー部の学生を集め、部室及び部室周辺の清掃作業を行なった。また、毎月最終水曜日に担当となった部がグラウンドの清掃作業を行うルールを設けた。
		2021年12月8日	「人権ハラスメント・FD/SD講演会」を受講し、大学におけるメンタルヘルスの問題や障害を持つ学生への支援のあり方について理解を深めることができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)
なし			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
総合型地域スポーツクラブにおける市民の自主運営構築プロセス		2021年9月7日	日本体育・スポーツ・健康 学会 第71回大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在		中部M-GTA研究会事務局長	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	岐阜薬科大学	講座名	地域医療実践薬学研究室	
職名	准教授	氏名	林 秀樹	
I 教育活動				
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫	2021年7月1日	(アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ) 講義内容をまとめた資料を事前に配布している。臨床中毒学に関する講義は実際の症例を多く紹介しており、アンケートの回答では学生の多くが満足している結果であった。	
		2022年1月21日	(先端医療学) 世界の最先端である我が国の災害医療に関して、薬剤師の役割について実際の活動例をもとに講義を行っている。災害支援薬局車両モバイルファーマシーの見学も実施し、アンケートの結果からは、多くの学生が満足している結果であった。	
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年8月31日	総合臨床薬学で使用する「わかりやすい新実務実習テキスト2021-2022」(じほう)を分担執筆した。	
		2021年6月8日	基礎臨床薬学およびアドバンスト実践臨床薬学Ⅰ～Ⅲの臨床中毒学分野の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月8日	関市 武儀生涯学習センターにおいて、一般市民に対する災害時の医療に関する講演を行った。	
		2020年9月19日	第31回日本医療薬学会年会のシンポジウムにおいて、臨床系教員として実施する教育・研究活動についての講演を行った。	
		2020年12月5日	第41回日本臨床薬理学会学術総会のシンポジウムにおいて、地域医療に関する教育・研究に関する薬科大学における取組についての講演を行った。	
4	その他教育活動上特記すべき事項	2019年6月8日	第4回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会において、指導学生(上森将吾)が演題「非小細胞肺癌治療薬アファチニブの抗腫瘍効果と副作用重症度に対する血漿中濃度と関連遺伝子多型の影響」を発表し、優秀ポスター賞を受賞した。	
		2019年11月4日	指導学生(味澤香苗)が、論文「重複投薬・相互作用等防止加算関連業務の分析と経済効果—Pharmaceutical Intervention Record(薬学的介入報告)の分析—」で日本医療薬学会 論文賞を受賞した。	
		2021年7月10日	第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会において、指導学生(海野茜)が、「放射線治療を受ける子宮頸がん患者の制吐療法最適化を目指したリスク解析」を発表し、優秀演題賞を受賞した。	
II 研究活動				
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	味澤 香苗, 鈴木 学, 林 由依, 甲斐 絢子, 小林 篤史, 小原 道子, 生木 庸寛, 國府田 真綾, 金地 夏実, 林 秀樹, 棚瀬 友啓, 土屋 照雄, 杉山 正: 重複投薬・相互作用等防止加算関連業務の分析と経済効果—Pharmaceutical Intervention Record(薬学的介入報告)の分析—	共著	2018年12月	医療薬学, 44, 599-606

Hayashi H., Iihara H., Hirose C., Fukuda Y., Kitahora M., Kaito D., Yanase K., Endo J., Ohno Y., Suzuki A., Sugiyama T.: Effects of Pharmacokinetics-related Genetic Polymorphisms on the Side Effect Profile of Afatinib in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer	共著	2019年8月	Lung Cancer, 134, 1-6
Obara M., Hayashi H., Namaki N., Furushima D., Matsukawa T., Kato R., Yamada H., Suzuki D., Sugiyama T.: Effects of food containing aroma compounds on oral hygiene: a preliminary pilot clinical study in elderly people requiring care	共著	2020年2月	Therapeutic Research, 41, 125-131
Noro R., Igawa S., Bessho A., Hirose T., Shimokawa T., Nakashima M., Minato K., Seki N., Tokito T., Harada T., Sasada S., Miyamoto S., Tanaka Y., Furuya N., Kaburagi T., Hayashi H., Iihara H., Okamoto H., Kubota K.: A prospective, phase II trial of monotherapy with low-dose afatinib for patients with EGFR, mutation-positive, non-small cell lung cancer: Thoracic oncology research group 1632	共著	2021年8月	Lung Cancer, 161, 49-54
中島誠, 高橋武士, 中木原由佳, 林秀樹: 検体採取日の違いが入院患者のアンチバイオグラムに及ぼす影響に関する検討	共著	2022年 (in press)	医薬品情報学, in press
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
海野 茜, 山本扇里, 飯原大稔, 藤井宏典, 上田祐稀乃, 加藤寛子, 安江萌夏, 熊野智康, 牧田智誉子, 伊東政也, 早崎 容, 竹中基記, 森美奈子, 森重健一郎, 松尾政之, 鈴木昭夫, 林 秀樹 放射線治療を受ける子宮頸がん患者の制吐療法最適化を目指したリスク解析		2021年7月10日	第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
上田祐稀乃, 藤井宏典, 廣瀬智恵美, 大畑紘一, 飯原大稔, 鍋木美帆, 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘, 鈴木昭夫, 林 秀樹 外来がん化学療法における支持療法の強化による患者QOL改善効果についての定量的評価手法を用いた網羅的分析		2021年7月10日	第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
清木静乃, 鍋木美帆, 山下修司, 玉木啓文, 野口義紘, 長内理大, 伊野陽子, 井口和弘, 寺町ひとみ, 林 秀樹 ステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の実態と特徴		2021年10月9日	第31回日本医療薬学会年会
上森将吾, 羽山 希, 山田悠人, 鈴木景子, 丹羽 隆, 山路文範, 吉田省造, 林 祐一, 下畑享良, 小倉真治, 鈴木昭夫, 林 秀樹 メトロニダゾール脳症における血漿中薬物濃度と薬物代謝酵素遺伝子多型の薬理遺伝学的考察		2021年10月9日	第31回日本医療薬学会年会
小池 紫, 河合琢良, 山下修司, 林 秀樹 岐阜市におけるワクチン集団接種会場への薬剤師派遣のためのリカレント教育の効果		2022年3月3日	第27回日本災害医学会総会・学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年9月～現在	日本国政府 国際緊急援助隊医療チーム 登録薬剤師		
2013年1月～現在	日本臨床薬理学会 評議員・支部世話人・第5回東海北陸地方会会長(2021)		
2017年1月～現在	日本災害医療薬剤師学会 理事		
2019年1月～現在	日本災害医学会 評議員		
2020年5月～現在	岐阜県薬剤師会 理事・防災対策グループリーダー		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬化学研究室	職名 准教授	氏名 平山 祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年11月21日	(有機化学演習) 演習に用いる問題および問題プリントを作成した。演習中は学生に解答・解説させ、不足部分を補うようにしている。アンケート結果は8割以上が満足しており、解説がわかりやすいとの意見を得た。	
	2020年11月26日	(有機化学演習) 演習に用いる問題および問題プリントを作成した。演習中は学生に解答・解説させ、不足部分を補うようにしている。アンケート結果は9割以上が満足しており、解説がわかりやすいとの意見を得た。	
	2021年11月25日	(有機化学演習) 演習に用いる問題および問題プリントを作成した。演習中は学生に解答・解説させ、不足部分を補うようにしている。アンケート結果は9割以上が満足しており、解説がわかりやすいとの意見を得た。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年12月7日	薬学基礎実習・有機化学実習で使用するテキストを作成し、配布した。	
	2021年10月21日	有機化学演習で使用する問題・レジュメを作成し、配布した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年8月6日、7日	薬化学研究室が主催する研究室体験を主導し、高校生に化学反応を体験してもらうことができた。また、来学者に保有機器装置説明をして回った。	
	2019年8月2日、5日	薬化学研究室が主催する研究室体験を主導し、高校生に化学反応を体験してもらうことができた。また、来学者に保有機器装置説明をして回った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	「公立大学法人制度とガパナンスの課題」(中田晃先生) 法人化の内容、仕組み、何がどう変わるのかを講演いただき、法人化に関する理解が深まった	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Tasuku Hirayama*, Masatoshi Inden, Hitomi Tsuboi, Masato Niwa, Yoshihiro Uchida, Yuki Naka, Isao Hozumi, and Hideko Nagasawa “A Golgi-targeting fluorescent probe for labile Fe(II) to reveal an abnormal cellular iron distribution induced by dysfunction of VPS35”	共著	2019年2月	Chem. Sci. 10, 1514.
Kota Koike, Masanobu Nagano, Masahiro Ebihara, Tasuku Hirayama, Mieko Tsuji, Hiroaki Suga, and Hideko Nagasawa* “Design, Synthesis, and Conformation-Activity Study of Unnatural Bridged Bicyclic Depsipeptides as Highly Potent HIF-1 Inhibitors and Antitumor Agents”	共著	2020年4月	Journal of Medicinal Chemistry, 63, 4022.
Ryo Kakiuchi, Tasuku Hirayama*, Daijiro Yanagisawa, Ikuo Tooyama, and Hideko Nagasawa “A ¹⁹ F-MRI probe for the detection of Fe(II) ions in an aqueous system”	共著	2020年8月	Organic & Biomolecular Chemistry, 18, 5843.

Tasuku Hirayama*, Masato Niwa, Shusaku Hirose, and Hideko Nagasawa “High-Throughput Screening for the Discovery of Iron Homeostasis Modulators Using an Extremely Sensitive Fluorescent Probe”	共著	2020年9月	ACS Sensors, 5, 2950
Akari Mukaimine, Tasuku Hirayama*, and Hideko Nagasawa “Asymmetric bismuth-rhodamines as an activatable fluorogenic photosensitizer”	共著	2021年1月	Org. Biomol. Chem 19, 3611.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
細胞内二価鉄増加作用を持つロモファンギンの全合成		2021年10月	第50回複素環化学討論会
Development of a heme-selective fluorescent probe		2021年11月	AIMECS2021
Development of highly sensitive probe for labile Fe(II) for high-throughput screening		2021年12月	Pacificchem2021
ヘム選択的蛍光プローブを用いたヘム排出機構およびフェロトキシシスにおけるヘム変動の解析		2022年3月	日本薬学会第142年会
オミクス解析と組織イメージングを指向したヘム選択的生体分子修飾化剤の開発		2022年3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	文部科学省科学技術予測・政策基盤調査研究センター 専門調査員		
2020年4月～現在	日本鉄バイオサイエンス学会 幹事		
2020年4月～現在	メタルバイオサイエンス学会 幹事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	分子生物学研究室
職名	准教授	氏名	本田 岳夫
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年12月3日	(細胞生物学) 講義スライドは講義ノートをもとに作成し、講義で聞き逃した際や、講義で十分に理解出来なかった場合には、講義ノートを参照することで、自分のペースでじっくりと学習出来るように配慮した。講義の最後にはGoogleフォームを用いた簡単なWebテストを行い、到達目標が達成出来たか確認してもらうようにした。講義スライドは講義数日前に、また、Webテストの結果等配布した全ての資料は講義後すぐにHPにアップロードし、学生が様々な活用出来るように配慮した。記述式授業アンケートでは非常に多くの学生から講義及び、講義資料共に非常にわかりやすく、充実感を得られる講義であったとの評価を受けた。
		2021年11月10日	(生物化学演習) 学生がこれまでに学んだ分子生物学の知識を自ら自主的に使うことにより、より定着出来るように演習内容を構成した。具体的には、生物学上の課題を分子生物学的方法により、どのようにして解決するのかをチーム毎にディスカッションして考えてもらい、それを発表してもらった。論理的な構成を行わなければ解決出来ない課題である為、知識の定着以外にも学生の自ら考える力を発展させることも出来たと考えられる。記述式授業アンケートでは解説がわかりやすく、質問がとてもしやすい雰囲気だったとの回答が多く寄せられた。
		2021年11月5日	(生物化学実習) 学生が初めて触れる器具、手順についてはデモを行うことで、学生が直感的に把握出来るように指導した。また、その際に原理や、実験の目的を説明し、実習がただの作業にならないように注意して指導を行った。実験中には頻りに学生の様子を見て回り、声がけすることにより、学生が質問を行いやすい雰囲気作りを行った。実験の結果、想定外の結果が得られた際には、得られた結果が生じる様々な可能性について説明し、実験結果をどのように解釈すべきか学生に例示した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年9月22日	(細胞生物学) 講義内容の詳細を記述した全255ページからなる講義ノートを作成し、後期の授業開始前に学生向けに公開した。初めて生物学に触れる学生であっても理解出来るように平易な表記を心がけ記載した。また、オリジナルのイラストを300枚程作成することで、学生が概念の理解をする際に助けになるように配慮した。各回の最後にはその回で学ぶべき項目を列挙したチェック項目を作り、効率的な知識の習得や復習に役立つ工夫をした。
		2021年7月22日	(生物化学演習) 講義で使用使用するレジュメを作成した。学生が取り組むべき内容がすぐに分かるようにレイアウトし、PBLで学生が他の班の学生の評価を行う際のメモやQrcode等を予め配しておき、スムーズに授業が行えるように配慮した。

	2020年3月25日	(神経解剖学実習書・頭頸部解剖学実習) 神経解剖学と頭頸部の解剖学実習手順を詳細に記載した実習書を作成した。写真だけでは把握が難しい構造については担当教員で分担し、イラストを作成し、構造がイメージ出来るように工夫した。また、チェックリストを作成し、必ず観察すべき項目がすぐに分かるように構成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年10月19日	慶應義塾大学医学部で開催された第42回四谷祭において研究室ツアーを行い、大脳新皮質、小脳、海馬等の神経細胞を蛍光染色した画像や、脳全体が蛍光で光る様子を見学してもらった。高校生や一般の方々を抱く素朴な疑問に答え、脳科学について興味を持って頂けるように取り組んだ。	
	2018年11月3日	慶應義塾大学医学部で開催された第41回四谷祭において、研究室ツアーを行い、脳が出来る仕組みについて説明を行い、光るマウス脳の体験をしてもらい、科学に興味を持ってもらう取り組みを行った。	
	2017年11月4, 5日	慶應義塾大学医学部で開催された第40回四谷祭において、研究室ツアーを行い、自身の研究内容の紹介や、GFPにより脳全体が光るマウス脳を見てもらい、研究に興味を持ってもらう取り組みを行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2020年3月	指導学生の笠井拓登君が2020年度慶應義塾大学医学研究助成に採択された。採択課題は「分子的・理論的アプローチによる小脳脳回形成メカニズムの解明」	
	2020年1月22日	指導学生の笠井拓登君が2019年度の慶應義塾大学医学部自主学習表彰学生に選出された。発表演題は「脳回形成メカニズムへの分子的・理論的アプローチ」	
	2018年3月	指導学生の久米弘朗君が2018年度慶應義塾大学医学研究助成に採択された。採択課題は「プルキンエ細胞配置制御による小脳回形成の仕組み」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Takao Kohno, Keisuke Ishii, Yuki Hirota, Takao Honda, Makoto Makino, Takahiko Kawasaki, Kazunori Nakajima, Mitsuharu Hattori: Reelin-Nrp1 Interaction Regulates Neocortical Dendrite Development in a Context-Specific Manner.	共著	2020年10月	The Journal of Neuroscience, 40(43):8248-8261
Keisuke Okabe, Hugh Fukada, Ikue Tai-Nagara, Tomofumi Ando, Takao Honda, Kazunori Nakajima, Norihiko Takeda, Guo-Hua Fong, Masatsugu Ema, and Yoshiaki Kubota: Neuron-derived VEGF contributes to cortical and hippocampal development independently of VEGFR1/2-mediated neurotrophism.	共著	2020年3月	Developmental Biology, 459(2): 65-71
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
吉永怜史、本田岳夫、久保健一郎、仲嶋一範 「哺乳類大脳皮質表層ニューロン移動途中におけるDab1の機能」		2022年3月	第127回日本解剖学会総会・全国学術集会
笠井拓登、本田岳夫、仲嶋一範 「生後小脳における正しい細胞配置と葉形成にプルキンエ細胞のDab1が必要である」		2022年3月	第127回日本解剖学会総会・全国学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1997年10月～現在	日本分子生物学会(一般会員)		
1999年5月～現在	日本神経科学会(一般会員)		
2003年4月～現在	日本神経化学会(一般会員)		
2005年11月～現在	日本解剖学会(一般会員)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 英語研究室	職名 准教授	氏名 松家 鮎美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年11月29日	(英語会話II) 本講義では、学生同士の自然な英語でのコミュニケーション能力を養成するため、問題解決型の活動を実施している。また、教科書とは別に、補助教材として薬剤師のための英会話集を活用しており、学生からは発話機会が多く実践的であると満足の声が上がっている。	
	2021年12月2日	(実用英語II) 本講義では、定期試験の他に、英語力診断テストや、TOEICの受験機会を二度設け、学生がTOEIC形式の問題に慣れることを目指している。授業では、難易度の高い語彙や表現について、画像やニュース報道で例を出しながら解説しており、学生からは、解説が分かりやすい、また、実践的な問題に多く触れられると評価の声が高かった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年6月28日	英語会話IIIにおいて、英文エッセイの構成や書き方についてのレジュメを作成し、授業で利用した。	
	2021年11月1日	英語会話IIにおいて、プレゼンテーション用のルーブリック評価表を作成し、授業で利用した。	
	2022年1月6日	実用英語IIにおいて、リスニング用の補助教材を作成し、授業で利用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年12月	岐阜県立岐阜商業高等学校・国際コミュニケーション学科の生徒に向け、海外で働く上での課題や意義について講演した。	
	2021年3月	大学英語教育学会において、コロナ禍での英語授業の在り方や、対面授業とオンライン授業を融合させたハイフレックス型授業について発表した。	
	2021年12月	大学英語教育学会にて、英語授業におけるプレゼンテーションについて、ピア評価を取り入れることによる教育効果等について発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長の中田晃先生より、「公立大学法人制度とガバナンスの課題」と題した講演を拝聴した。法人化した大学の実態や今後の展望、課題等について理解を深めることができた。	
	2021年12月1日	知的財産評価委員会セミナーにおいて、ノア国際特許事務所の野村和弘氏より、「弁理士による特許入門セミナー ～大学の先生が落ちやすい特許の落とし穴～」と題したセミナーを受講。研究上留意すべき点について知識を深めた。	
	2021年12月8日	人権ハラスメントFD/SD講習会において、「大学保健管理における最近の話題-メンタルヘルスと障害学生支援を中心に-」と題した講演を拝聴した。課題を抱える学生の支援について知識を深めることができた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称

Matsuka, A., Research on the Role of Japanese Teachers in English Classes Conducted by Native English-Speakers in Kindergartens	単著	2018年11月	GWU Curriculum Research and Development, Vol. 3, 2, pp. 7-14
Matsuka, A., Research for English Education in Kindergarten - Educational Effects of English Classes Conducted by Native English Speakers and Assisted by Japanese Teachers	単著	2019年2月	Bulletin of GWU, 48, pp. 37-44
Matsuka, A., A Syllabus Design Based on the Surveys to Enhance the English Skills of Students	単著	2020年10月	JACC, Comparative Cultural Studies, 141, pp. 151-160
Maki H., Matsuka A., Correlations Between the Scores on the Two Versions of the Minimal English Test (MET) and the Scores on the English Section of the Common Test for University Admissions 2021 Provided by the National Center for University Entrance Examinations	共著	2021年11月	Bulletin of the Faculty of Regional Studies, Gifu University, 50
Matsuka A., Understanding the SDGs in English Classes at Elementary School: Practice and Effects of Activities Using Tablet Devices	単著	2022年3月	JACC, Comparative Cultural Studies, 148
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
松家鮎美、英語授業におけるプレゼンテーションの実践 - 自己評価及びピア評価におけるルーブリックの活用 -		2021年12月11日	大学英語教育学会
松家鮎美、小学校英語授業におけるタブレット端末の活用と課題 - 高学年の児童によるスピーチの実践 -		2022年3月5日	日本比較文化学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年7月～現在	日本比較文化学会 査読委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬局薬学研究室	職名 講師	氏名 伊野 陽子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年11月11日	(早期体験) 大学生活において早い段階から薬剤師の業務についての理解を深め、大学での学びに繋げるために、薬剤師を取り巻く環境の変化・求められている姿について、最新的话题を盛り込むよう工夫した。早期体験の講義・薬局見学がこれからの学習の方向・必要性を知るのに有益であったという回答が多かった。	
	2021年12月3日	(総合臨床薬学) 実務実習に向けて、学生の意見を参考とし、薬局や病院における実習で必要と考えられる知識や、課題にあたった時の調べ方を伝えられるよう、具体的な症例を織り込みながら授業を行った。また症例について各自で調べた後に少人数でのグループディスカッションを行い、自身の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことで職種間のコミュニケーションを円滑に行う訓練の場となるよう工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年8月31日	病院・薬局実務実習東海地区調整機構(監修)実務実習テキスト作成研究会(編集)モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト 2021-2022 じほう 2021 の分担執筆を行った。	
	2021年10月11日	総合臨床薬学の講義で使用するレジュメを作成し学生に配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年10月14日	第34回岐阜薬科大学市民公開講座において「お薬を正しく使うために～薬局・お薬手帳の活用法～」に関する講演を行った。	
	2020年6月18日	岐阜薬科大学リカレント講座Iにおいて「トルツ注における服薬指導のポイント」について説明した。	
	2021年8月26日	岐阜薬科大学リカレント講座Iにおいて「アプレピタントにおける服薬指導のポイント」について説明した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	中田晃先生ご講演「公立大学法人制度とガバナンスの課題」を拝聴し、法人制度における課題についての理解を深めることが出来た。	
	2021年12月8日	山本真由美先生ご講演「大学保健管理における最近の話題—メンタルヘルスと生涯学生支援を中心に—」を拝聴し、最近の大学生が抱える課題についてや、その対応方法について注意すべき点を学ぶことが出来た。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
伊野陽子、上野杏莉、館知也、大坪愛実、勝野隼人、杉田郁人、兼松勇汰、吉田阿希、野口義紘、堺千紘、井口和弘、川上ちひろ、藤崎和彦、寺町ひとみ：病院および診療所における薬局との連携に関する調査	共著	2017年10月	医療薬学、43(10)、533-551
伊野陽子、松山卓矢、館知也、野口義紘、寺町ひとみ：薬学生に対する多職種連携医療実習の効果—RIPLS(Readiness for Interprofessional Learning Scale)、IEPS(Interdisciplinary Education Perception Scale)を中心とした短期的効果—	共著	2018年4月	医療薬学、44(4)、191-202

館知也、伊野陽子、島内あかり、野口義紘、塚千紘、井口和弘、加納亜紀、寺町ひとみ：薬局における医療施設・介護施設等との連携に関する調査	共著	2019年2月	薬学雑誌、139(2)、327-339
Ino Y., Shimauchi A., Tachi T., Noguchi Y., Sakai C., Iguchi K., Kano A., Teramachi H.: Community pharmacy-level factors associated with medical and nursing home facility collaboration in Japan.	共著	2019年10月	Die Pharmazie、74(10)、630-638
伊野陽子、館知也、山下修司、野口義紘、井口和弘、寺町ひとみ、かかりつけ薬局・薬剤師のための研修会の実施とその評価	共著	2020年10月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌、18(2)、4-18
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
伊野陽子、小俣江利果、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、井口和弘、寺町ひとみ 保険薬局においてチェックシートを利用し抗がん剤電話フォローを行った一例		2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
清木静乃、鍋木美帆、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、井口和弘、寺町ひとみ、林秀樹 ステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の実態と特徴		2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
上山碧、玉木啓文、長内理大、伊野陽子、岩田麻里、松永俊之、中村光浩、井口和弘 薬局薬剤師の人員数と在宅業務実施状況に関する調査		2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
Ino Y., Yuzawa F., Omata E., Yamashita S., Tamaki H., Noguchi Y., Osanai A., Iguchi K., Teramachi H.: Implementation of telephone follow-up for outpatients on anticancer agents at a community pharmacy in Japan.		2022年2月11日 ~13日	The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年8月~現在	医療薬学会(正会員)		
2021年6月~現在	ワクチン調整業務への従事		
2021年8月~現在	岐阜市薬剤師会 薬薬連携委員会 ワーキンググループメンバー		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬局薬学研究室
職名	講師	氏名	長内 理大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月11日	(薬局実習) 薬剤師としての知識はもちろんのこと、人間力としてのコミュニケーション力や応用力、人を思いやる力を、本人の個性を尊重しつつ磨いていけるよう心掛けた。学生の意見を傾聴し、変更すべくは変更し、実習が充実したものとなるよう最大限つとめた。
		2021年12月3日	(総合臨床薬学) 実務実習に向けて、学生の意見を参考とし、薬局や病院における実習で必要と考えられる知識や、実際の臨床現場に生かせる技能、技術、心構えを伝えるよう心掛けた。学生の意見を参考に、コミュニケーションを最大限取れる方法を模索し実践した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年8月31日	病院・薬局実務実習東海地区調整機構(監修)実務実習テキスト作成研究会(編集)モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト 2021-2022 じほう 2021 の分担執筆を行った。
		2021年10月29日	総合臨床薬学の講義で使用するレジュメを作成し学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年3月30日	岐阜薬科大学附属薬局において市民向けのお薬教室を行った。
		2020年6月20日	岐阜薬科大学リカレント講座IIにおいて「大建中湯における服薬指導のポイント」について説明した。
		2021年6月24日	岐阜薬科大学リカレント講座Iにおいて「ゼジュラカプセルにおける服薬指導のポイント」について説明した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年7月14日	中田晃先生ご講演「公立大学法人制度とガバナンスの課題」を拝聴し、法人制度における課題についての理解を深めることが出来た。
		2021年6月5日	令和3年度岐阜薬科大学大学院説明会に運営側として参加し、大学院を希望する学生への説明を提供した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
長内理大、石井伊都子. 脂質異常症診療が変わる 新GLの特徴から新薬の使い方まで~薬剤師による脂質異常症のマネジメント.	共著	2017年9月	月刊薬事 59:3317-3322
森 美穂, 島内 あかり, 矢島 聖子, 西尾 裕斗, 玉木 啓文, 堺 千紘, 長内 理大, 伊野 陽子, 寺町 ひとみ, 中村 光浩, 井口 和弘. 機能性表示食品の包装の情報記載状況に関する調査.	共著	2020年2月	YAKUGAKU ZASSHI. 140(3):443-448
小長谷奈美, 長内理大, 小俣江利果, 島内あかり, 伊野陽子, 玉木啓文, 山下修司, 野口義紘, 井口和弘, 寺町ひとみ. 岐阜薬科大学附属薬局における電話相談内容の解析調査.	共著	2020年6月	医療薬学. 46(9):522-530
井口和弘, 山下修司, 玉木啓文, 野口義紘, 長内理大, 伊野陽子, 寺町ひとみ. オンラインで実施した薬剤師対象のリカレント講座における受講者満足度に関する調査.	共著	2021年1月	日本地域薬局薬学会誌. 9(1):21-26

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
長内理大、小長谷奈美、小俣江利果、伊野陽子、玉木啓文、山下修司、野口義紘、井口和弘、寺町ひとみ 「SGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendation」にそった服薬指導の現状調査	2021年9月11日 ・12日	第9回日本くすりと糖尿病学会学術集会
伊野陽子、小俣江利果、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、井口和弘、寺町ひとみ 保険薬局においてチェックシートを利用し抗がん剤電話フォローを行った一例	2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
清木静乃、鍋木美帆、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、井口和弘、寺町ひとみ、林秀樹 ステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の実態と特徴	2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
上山碧、玉木啓文、長内理大、伊野陽子、岩田麻里、松永俊之、中村光浩、井口和弘 薬局薬剤師の人員数と在宅業務実施状況に関する調査	2021年10月9日 ・10日	第31回医療薬学会年会
長内理大、小長谷奈美、小俣江利果、井口和弘、寺町ひとみ 腎移植患者を支えるために薬局薬剤師ができること	2021年11月6日 ・7日	第15回日本腎臓病薬物療法学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年8月～現在	医療薬学会（正会員）	
2021年6月～現在	ワクチン調整業務への従事	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	臨床薬剤学研究室
職名	講師	氏名	神谷 哲朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月3日	(病態生化学1) レジюмеを配布し、重要な点は講義中に書き込んでもらっている。国家試験過去問などを練習問題として解答してもらっているが、授業内容の確認ができて良いなどの評価を得ている。
		2021年11月29日	(薬学英語3) レジюмеを配布し、レジюмеに書き込む形式で講義を行っている。講義全体を通して、幅広い知識の習得につながるという好意的な意見が出ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月8日	病態生化学1の講義で使用するレジюмеを作成し、学生に配布した。
		2021年9月30日	総合臨床薬学の講義で使用するレジюмеを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年12月16日	名古屋市立桜台高等学校において、薬学に関する模擬講義を行った。
		2020年12月17日	名古屋市立桜台高等学校において、薬学に関する模擬講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月1日	「弁理士による特許セミナー(野村和弘先生)」の講演を拝聴した。特許の出願から取得に関する理解が深まった。
		2021年12月8日	「大学健康管理における最近の話題(山本真由美先生)」大学生が抱えるメンタルヘルスに関する理解が深まった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Kamiya T, Tanaka M, Hara H, Yamaguchi E, Itoh A, Adachi T. Inhibitory effects of 4-hydroperoxy-2-decenoic acid ethyl ester on phorbol ester- and TGF- β 1-induced MMPs expression.	共著	2019年10月	Free Radical Research, 53, 1051-1059
Goto N, Hara H, Kondo M, Yasuda N, Kamiya T, Okuda K, Adachi T: Hydrogen sulfide increases copper-dependent neurotoxicity via intracellular copper accumulation. Metallomics. 12, 868-875, 2020.	共著	2020年6月	Metallomics, 12, 868-875
Ishii R, Kamiya T, Hara H, Adachi T: Hyperthermia synergistically enhances cancer cell death by plasma-activated acetated Ringer's solution.	共著	2020年10月	Archives of Biochemistry and Biophysics, 693, 108565
Kondo M, Hara H, Kamijo F, Kamiya T, Adachi T: 6-Hydroxydopamine disrupts cellular copper homeostasis in human neuroblastoma SH-SY5Y cells.	共著	2021年7月	Metallomics, 13, mfab041

Takemoto R, Kamiya T, Atobe T, Hara H, Adachi T: Regulation of lysyl oxidase expression in THP-1 cell-derived M2-like macrophages.	共著	2021年8月	Journal of Cellular Biochemistry, 122, 777-786
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
神谷哲朗, 山口雄史, 原宏和, 足立哲夫: FOXO1による抗酸化酵素 SOD3発現誘導と乳がん細胞浸潤との関連性		2021年5月	第74回日本酸化ストレス学会
原 宏和, 安田名保美, 後藤紀香, 神谷哲朗, 足立哲夫: 硫化水素により引き起こされる細胞内銅輸送の破綻		2021年5月	第74回日本酸化ストレス学会
安田名保美, 後藤紀香, 神谷哲朗, 原 宏和: 神経細胞内銅動態に及ぼす硫化水素の影響		2021年5月	第85回日本生化学会中部支部 例会・シンポジウム
小澤清美, 神谷哲朗, 原 宏和: LOXL4のエクソソームを介した細胞外輸送と糖鎖修飾との関連性		2021年5月	第85回日本生化学会中部支部 例会・シンポジウム
水野なぎ沙, 神谷哲朗, 幅 愛実, 阿部尚仁, 大山雅義, 原 宏和: ホワイトサポテ由来フラボノイド化合物による MMP9 発現抑制機構の解明		2021年7月	第67日本薬学会東海支部 総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年8月～現在	日本酸化ストレス学会代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬物治療学研究室	職名 講師	氏名 栗田 尚佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年1月6日	薬物治療学 I に関して、教科書の内容を詳しくまとめた資料で講義を行い、学生からは、資料が分かり易いとの意見を受けている。毎回確認問題を行い、解説を行い学生アンケートでも満足しているとの事であった。講義については、声が聞き取りにくいという意見があったため、意識して話すように改善した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年10月8日	薬物治療学 I で使用する講義資料を配布した。内容が分かり易く、確認問題もついていて良いという学生からの意見であった。	
	2022年11月17日	総合薬学演習の病態・薬物治療の一部の担当資料を作成し、配布した。要点をまとめた講義と問題の解説を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年10月16日	岐阜薬科大学薬剤師生涯教育講座にて、疾患発症とエピジェネティクス～胎生期環境から疾患・薬まで～という内容で、薬剤師の先生方に講演を行った。	
	2021年11月8日	岐阜大学・平成医療短期大学・朝日大学・岐阜女子短期大学・岐阜薬科大学の間で実習の一部でもあるが、多職種連携授業を岐阜薬大の代表としてとりまとめ、その成果をリモートを用いた多職種連携授業という内容で、岐阜大学の地域協学センター 地域志向学術研究の学術雑誌に発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年3月28日	第38回日本薬学会学術年会にて、指導学生の郷すずなさんが学生優秀発表賞を受賞した。	
	2021年7月3日	第67回日本薬学会東海支部総会・大会にて、指導学生の上田実沙さんが学生優秀発表賞を受賞した。	
	2021年12月1日	講演「大学健康管理における最近の話題」(山本真由美先生)を拝聴し、問題を抱える学生への気づきと対処方法について学ぶことができた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
神経分化期低濃度メチル水銀曝露による神経表現型への影響とエピジェネティクス解析	単著	2022年1月	BIO Clinica 第37巻 第1号 p. 53-55
Kurita H, Yabe S, Ueda T, Inden M, Kakita A, Hozumi I MicroRNA-5572 Is a Novel MicroRNA-Regulating SLC30A3 in Sporadic Amyotrophic Lateral	共著	2020年6月	International journal of molecular sciences 21(12)
Ito T, Inden M, Ueda T, Asaka Y, Kurita H, Hozumi I The neuroprotective effects of activated α 7 nicotinic acetylcholine receptor against mutant copper-zinc superoxide dismutase 1-mediated toxicity.	共著	2020年12月	Scientific reports 10(1) 22157-22157
Go S, Kurita H, Hatano M, Matsumoto K, Nogawa H, Fujimura M, Inden M, Hozumi I DNA methyltransferase- and histone deacetylase-mediated epigenetic alterations induced by low-level methylmercury exposure disrupt neuronal development.	共著	2021年1月	Archives of Toxicology 95: 1227-1239

Kurita H, Ozawa K, Yamada M, Inden M, Hirata K, Hozumi I Evaluation of headaches in primary brain calcification in Japan	共著	2021年11月	Neurology and Clinical Neuroscience 9(6) 459-465
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
上田実沙、木村美佑、保住功、位田雅俊、栗田尚佳 金属応答転写因子MTF1を介した低亜鉛による神経突起伸長への影響		2021年7月	日本薬学会 第67回東海支部総会・大会
栗田尚佳、郷 すすな、藤村 成剛、位田 雅俊、保住 功 メチル水銀曝露の神経分化に及ぼす影響とDNAメチル化の関与		2021年9月	フォーラム2021衛生薬学・環境トキシコロジー
栗田尚佳 メチル水銀が神経分化・発達に及ぼす影響とエピジェネティクスメカニズムの解析		2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021 研究奨励賞受賞講演
栗田尚佳、郷 すすな、増田 遥、位田雅俊、保住 功 メチル水銀曝露の神経分化に及ぼす影響と関連遺伝子のエピゲノム解析		2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
北井葉月、高木彩佳、栗田尚佳、位田雅俊 PiggyBacシステムを用いた α シヌクレインの安定発現細胞におけるケンフェロールの神経保護効果		2021年11月	第12回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年～現在	日本毒性学会 生体金属部会 幹事		
2021年～現在	日本毒性学会 評議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬物動態学研究室
職名	講師	氏名	曾田 翠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月16日	(調剤学) 動画やイラストを講義スライドに取り入れ、配布資料に重要事項の穴埋めを設けている。また、国家試験形式の復習問題を設けた。アンケートでは概ね良好な評価を得た。
		2021年12月14日	(総合臨床薬学) 調剤手技習得のため、手順をテキストにまとめるとともに、注意すべきポイントを挿入した模範実技の動画を作成してWebで閲覧できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月7日	調剤学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。講義内容の復習用演習問題(Web回答・解説)を作成した。
		2021年5月28日	薬物動態学実習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年10月18日	総合臨床薬学で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。また、調剤手技の模範実技の動画を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年10月13日	第35回市民公開講座において「くすり、その飲み方で大丈夫? ~飲んだ薬は体の中でのどうなるか~」という演題で講演を行った。
		2020年11月21日	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2020のシンポジウムにおいて演題「薬学生のための薬物動態力基礎トレーニング ~岐阜薬科大学~」で薬物動態に関する学部教育について講演した。
		2021年11月13日	令和3年度岐阜薬科大学薬剤師生涯教育講座において「安全・安心な医療推進のための薬学的アプローチ」という演題で薬剤師を対象に講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年3月1日	ASEAN-CINP 2019において、指導学生(首村 菜月)が演題「The isomeric discrimination and investigation of the metabolic profiles of synthetic cannabinoids」を発表し、Poster Awardを受賞した。
		2020年8月21日	指導学生(板橋昇吾、尾藤里奈)の原著論文「Determination of lamotrigine in human plasma using liquid chromatography - tandem mass spectrometry」がNPPR Article Award2020に選ばれた。
		2021年12月1日	講演「大学健康管理における最近の話題」(山本真由美先生)を拝聴し、問題を抱える学生に対する指導・支援についての注意事項を学ぶことができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Soda M., Ito S., Matsumaru N., Nakamura S., Nagase I., Takahashi H., Ohno Y., Yasuda M., Yamamoto M., Tsukamoto K., Itoh Y., Deguchi T., Kitaichi K.: Evaluation of the Microbiological Efficacy of a Single 2-Gram Dose of Extended-Release Azithromycin by Population Pharmacokinetics and Simulation in Japanese Patients with Gonococcal Urethritis	共著	2018年1月	Antimicrob Agents Chemother. 62(1), e01409-17
Itabashi S., Bito R., Nishina M., Fukumoto M., Soda M., Doi M., Usui S., Kitaichi K.: Determination of lamotrigine in human plasma using liquid chromatography - tandem mass spectrometry	共著	2019年3月	Neuropsychopharmacol Rep. 39(1), 48-55

Shibata Y., Miyahara Y., Sadaka Y., Yasue M., Fujimura M., Soda M., Yamamoto M., Kato H., Suzuki A., Tsukamoto K., Hara T., Tsurumi H., Kitaichi K. : Evaluation of the effectiveness of caspofungin against febrile neutropenia and the factors related to the alteration in its plasma concentration	共著	2019年10月	J Infect Chemother. 25(10), 801-805
Hori A., Sahashi H., Sano S., Matsumiya E., Ariga M., Asano A., Soda M., Goto C., Mizui T., Komeda H., Kitaichi K. : Efficacy and Safety of Enzalutamide in a Real-World Cohort of Japanese Patients with Castration-Resistant Prostate Cancer	共著	2020年12月	Anticancer Res. 40(12), 7101-7108
Yamada T., Soda M., Nishida R., Miyake N., Maeshiro Y., Oida Y., Yamashita Y., Egashira N., Shimon N., Kitaichi K., Ieiri I. : Simplified daptomycin dosing regimen for adult patients with methicillin-resistant Staphylococcus aureus infections based on population pharmacokinetic analysis	共著	in press	Drug Metab Pharmacokinet.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
木下智絵、森川美空、伊藤宏輔、曾田翠、塚本桂、岩木孝晴、田中宏幸、伊藤哲朗、北市清幸 合成カンナビノイドの代謝における種差に関する研究		2021年5月13-15日	日本薬剤学会第36年会
有我真帆、曾田翠、塚本桂、寺町ひとみ、萩田淳一郎、北市清幸 メトホルミン血漿中濃度測定系の確立とその測定によりメトホルミンによる有害事象発現の可能性が高いと考えられた1症例		2021年5月29-30日	第37回日本TDM学会学術大会
坂井彩華、曾田翠、有我真帆、浅野朱里、佐橋春香、松宮英美里、佐野空、臼井茂之、堀晃代、後藤千寿、水井貴詞、米田尚生、北市清幸 エンザルタミド血漿中濃度測定系の確立と患者検体測定による本測定系の実用性の検討		2021年5月29-30日	第37回日本TDM学会学術大会
伊藤秀、田外秀俊、五島蒼、松尾桃花、森理人、曾田翠、塚本桂、北市清幸 LC-MS/MSを用いた血漿中オキシコドン濃度測定系の確立		2021年7月10日	第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
宇佐美歩樹、原亘輝、橋本桂樹、服部友香、曾田翠、中山寛尚、村瀬仁章、北市清幸 経口摂取されたフェルラ酸の生体内挙動に関する研究		2021年11月25日	第12回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本TDM学会若手研究者委員会 委員		
2018年4月～現在	健康食品管理士会 中部支部幹事・事務局長		
2020年1月～2021年1月	第77回医療薬学公開シンポジウム 事務局長		
2021年7月～8月	ワクチン調製業務への従事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	感染制御学研究室
職名	講師	氏名	高橋 圭太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年12月22日	(免疫学) 講義内容をまとめたプリントを講義開始前に配布している。プリントには講義中にメモなどを取らなくてもいいようにできる限り詳しい説明を加えた。アンケートの回答をみると、プリントに説明が詳しく書いてあることが高く評価されていると判明した。また、毎回の講義の終了時に当日の講義でわからなかったところなどを質問用紙に記入して提出してもらい、次回の講義で全ての質問に答えるようにしていたが、その点も高く評価されていた。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年10月6日	免疫学の講義で使用するプリントを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年12月1日	大学健康管理における最近の話題という講演(山本真由美先生)を拝聴し、学生に対する対応について学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Takahashi K, Sugiyama T, Tokunoh N, Tsurumi S, Koshizuka T, Inoue N: Intimate adhesion is essential for the pathogen-specific inflammatory and immune responses in the gut of mice infected with <i>Citrobacter rodentium</i> .	共著	2021年10月	ImmunoHorizons. 5:870-88.
Takahashi K, Orito N, Yanagisawa D, Yano A, Mori Y, Inoue N: Eosinophils are the main cellular targets for oral gene delivery using Lactic acid bacteria.	共著	2020年4月	Vaccine. 38:3330-3338.
Takahashi K*, Orito N, Tokunoh N, Inoue N: Current issues regarding the application of recombinant lactic acid bacteria to mucosal vaccine carriers.	共著	2019年8月	Applied Microbiology and Biotechnology. 103:5947-5955.
Takahashi K*, Hanamura Y, Tokunoh N, Kassai K, Matsunishi M, Watanabe S, Sugiyama T, Inoue N: Protective effects of oral immunization with formalin-inactivated whole-cell <i>Citrobacter rodentium</i> on <i>Citrobacter rodentium</i> infection in mice.	共著	2019年4月	Journal of Microbiol Methods. 159:62-68.
Takahashi K*, Yano A, Watanabe A, Langella P, Bermúdez-Humarán L, Inoue N: M cell-targeting strategy enhances systemic and mucosal immune responses induced by oral administration of nuclease-producing <i>L. lactis</i> .	共著	2018年12月	Applied Microbiology and Biotechnology. 102:10703-10711. 2018.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
辻井彩人、須藤晴香、徳納渚沙、川嶋更奈、高橋圭太、腰塚哲朗、井上直樹: 細菌様粒子(BLP)アジュバントを用いた経鼻ワクチンの腸管感染症に対する防御効果に関する研究		2022・3	第142回日本薬学会年会

柳澤大貴、小林靖、高橋圭太、腰塚哲朗、井上直樹：乳酸菌を送達体とした経口DNAワクチン系に関する研究	2022・3	第95回日本細菌学会総会
Haruka Sudo, Ayato Tsujii, Tetsuo Koshizuka, Naoki Inoue, Keita Takahashi: The effect of antigen binding and administration route of BLP on its immunogenicity	2022・3	第95回日本細菌学会総会
Keita Takahashi, Tsuyoshi Sugiyama, Nagisa Tokunoh, Shun Tsurumi, Tetsuo Koshizuka, Naoki Inoue: Intimate adhesion of <i>Citrobacter rodentium</i> is the cue to initiate anti-pathogen immune responses	2022・3	第95回日本細菌学会総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年6月29日	岐阜市科学館サイエンスショー	
2017年～現在	日本ワクチン学会会員	
2015年～現在	日本細菌学会会員	
2015年～現在	日本薬学会会員	
2019年～2021年	European Society of Gene and Cell Therapy会員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	合成薬品製造学研究室
職名	講師	氏名	多田 教浩
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年7月5日	(ドラッグデザイン演習)ディスカバリースタジオを用いて分子モデリングを行っている。学生自身で様々な分子構造を作成できるよう、学生自ら講義資料を読み進めながら分子構造を作成する演習形式で講義を行なっている。アンケートでは、パソコンやネット環境に関する不満が多かった。また関連して時間が足りないことが指摘されていた。
		2021年12月1日	(有機化学演習)ブルース有機化学から問題プリントを作成し、演習前のプリントの予習、演習中の学生の解答、および教員の説明からなる演習形式で講義を行なっている。問題と解答は後日講義ノートにアップして復習しやすいようにしている。アンケートでは、関連の有機化学の講義の内容が理解でき、勉強になるとの意見が多い。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月19日	ドラッグデザイン演習で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年10月7日	有機化学演習で使用する問題プリントを作成した。また、レジュメを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年12月1日	野村和弘先生による「弁理士による特許セミナー～大学の先生が落ちやすい特許の落とし穴～」の講演を拝聴し、特許について学んだ。
		2021年12月8日	山本真由美先生による「大学健康管理における最近の話題-メンタルヘルスと障害学生支援を中心に-」の講演を拝聴し、メンタルヘルスについて学んだ。
		2019年10月17日	第9回CSJ化学フェスタ2019優秀ポスター発表賞：新保 大輔
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	Takai R., Shimbo D., Tada N., Itoh A.: Ligand-enabled copper-catalyzed N-alkynylation of sulfonamide with alkynyl benziodoxolone: Synthesis of amino acid-derived ynamide	共著	2021年3月 Journal of Organic Chemistry, 86, 4699-4713
	Shimbo D., Maruyama T., Tada N., Itoh A.: N-Alkenylation of hydroxamic acid derivatives with ethynyl benziodoxolone to synthesize cis-enamides through vinyl benziodoxolones	共著	2021年2月 Organic & Biomolecular Chemistry, 19, 2442-2447
	Ura T., Shimbo D., Yudasaka M., Tada N., Itoh A.: Synthesis of Phenol-Derived cis-Vinyl Ethers Using Ethynyl Benziodoxolone	共著	2020年10月 Chemistry - An Asian Journal, 15, 4000-4004

Shimbo D., Shibata A., Yudasaka M., Maruyama T., Tada N., Uno B., Itoh A.: Synthesis of cis- β -Amidevinyl Benziodoxolones from the Ethynyl Benziodoxolone-Chloroform Complex and Sulfonamides	共著	2019年11月	Organic Letters, 21, 9769-9773
Yudasaka M., Shimbo D., Maruyama T., Tada N., Itoh A.: Synthesis, Characterization, and Reactivity of an Ethynyl Benziodoxolone (EBX)-Acetonitrile Complex	共著	2019年2月	Organic Letters, 21, 1098-1102
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臼井傑、多田教浩、山口英士、伊藤彰近 ジニル超原子価ヨウ素化合物を用いる1,3-ブタジイン合成法の開発		2021年9月10日	第24回ヨウ素学会シンポジウム
多田教浩、伊藤彰近 超原子価ヨウ素化合物と銅触媒を用いるイナミド合成法の開発		2021年9月10日	第24回ヨウ素学会シンポジウム
多田教浩、伊藤彰近 エチニルベンズヨードキソロンを用いる求核剤のアルケニル化		2021年10月5日	第47回反応と合成の進歩シンポジウム
川上諒平、多田教浩、山口英士、伊藤彰近 クリック反応を用いるイナミド合成法の開発		2022年3月27日	日本薬学会第142年会
多田教浩、清水彩加、柴田篤、江崎啓祥、福島和明、伊藤彰近 求電子的イノール等価体を用いる4-イミダゾリジノン構築法		2022年3月28日	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年11月～現在	ヨウ素学会SIS Letters Topics執筆担当者		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	放射化学研究室
職名	講師	氏名	立松 憲次郎
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月17日	(2回生前期 放射化学) 授業評価は概ね良好であったが、中間試験の内容、出席点の意義など、講義内容から学習方法まで様々な要望があったため、書面ならびに口頭で回答した。
		2021年12月9日	(1回生後期 無機化学) 好意的な意見が多かったが、講義内容のフォローやアドバンストな学習方法などに対して要望があったため、書面並びに口頭で回答した。
		2022年1月7日	(3回生後期 総合創薬育薬演習) 本講義では課題に対するPBL形式での議論とプロダクト発表を課しているが、学生の関連な議論やプロダクトの効率的な作成を促すために適宜助言・指導を行った。アンケートの回答結果より、一部の講義方法に関する指摘を除いて、現状の講義内容や評価方法等については概ね好評であった。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月	(2回生前期 放射化学) 講義レジュメ、演習問題及びその解答・解説を作成、配布
		2021年4月	(2回生前期 物理化学系実習) 令和3年度 物理化学系実習 実習書
		2021年10月	(1回生後期 無機化学) 講義レジュメ、演習問題及びその解答・解説を作成、配布
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017~2021年 随時	岐阜薬科大学RI教育訓練 岐阜薬科大学RI施設、及び、他の放射線関連施設を使用する教員・学生に対し、法令で定められた教育訓練(座学・実習)を、要望に応じて随時実施した。
		2021年8月	金城学院大学薬学部 卒後教育講座 先方からの依頼により、身の回りの放射線と放射性医薬品に関連する基礎的な事項を講義した。
		2021年8月	RI教育訓練(浜松フォトニクス) 先方からの依頼により、浜松フォトニクスで放射線を取り扱う業務従事者に対して、放射線関連の近年の事故事例を中心に教育を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年12~1月	(1回生後期 無機化学) 成績不良者面談 中間試験実施の結果、得点率の悪かった学生10名に対し面談を行い、学習内容の確認から学習方法のアドバイスなどを実施した。
		2021年4~5月	新入生 担任面談 今年度入学し担任となっている学生22名に面談を実施し、日常生活や部活・アルバイトの状況、学習面でのアドバイス等を行った。
		2017年~2021年	第1種放射線取扱主任者試験、受験指導 必要に応じて、受験希望者への質問対応や過去問等の解説、願書の取り寄せ等を行った。結果、2017年度に3名、2019年度と2021年度に1名ずつ合格者を輩出することができた。
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Harumi Okuyama, Sheriff Sultan, Naoki Ohara, Tomohito Hamazaki, Peter H Langsjoen, Rokuro Hama, Yoichi Ogushi, Tetsuyuki Kobayashi, Shunji Natori, Hajime Uchino, Yoko Hashimoto, Shiro Watanabe, Kenjiro Tatematsu, Daisuke Miyazawa, Mikio Nakamura and Kentaro Oh-hashi : Lipid Nutrition Guidelines	共著	2021年4月	MDPI
Kenjiro Tatematsu, Daisuke Miyazawa, Yoshiaki Saito, Harumi Okuyama, Naoki Ohara : Fully hydrogenated canola oil extends lifespan in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	共著	2021年9月	BMC、Lipids in Health and Disease、20、102
Mai Nishikawa, Naoki Ohara, Yukiko Naito, Chihiro Amma, Yoshiaki Saito, Kenjiro Tatematsu, Jinhua Baoyindugurong, Daisuke Miyazawa, Yoko Hashimoto, Harumi Okuyama : Dietary rapeseed (canola) oil suppresses testosterone production and increases plasma aldosterone level in stroke-prone spontaneously hypertensive rats (SHRSP)	共著	2022年1月	The Japanese Society of Toxicology, Fundamental Toxicological Sciences、9、1、p. 7-16
立松憲次郎、永田翔子、近藤佑香、宮澤大介、斎藤義明、奥山治美、大原直樹：完全水添菜種油のSHRSPラットに対する寿命延長と病態改善について	共著	2022年3月	脂質栄養学、31、in press
Mai Nishikawa, Naoki Ohara, Yukiko Naito, Yoshiaki Saito, Chihiro Amma, Kenjiro Tatematsu, Jinhua Baoyindugurong, Daisuke Miyazawa, Yoko Hashimoto, Harumi Okuyama : Rapeseed (canola) oil aggravates metabolic syndrome-like conditions in male but not in female stroke-prone spontaneously hypertensive rats (SHRSP)	共著	2022年	Toxicology Reports、in press
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
立松憲次郎：完全水添菜種油のSHRSPラットに対する病態改善作用		2021年9月24日	日本脂質栄養学会第30回大会
西川真衣、立松憲次郎、内藤由紀子、宮澤大介、包音都古栄・金花、大原直樹、奥山治美：雄性脳卒中易発症高血圧自然発症ラットにおけるキャノーラ油毒性の標的器官		2021年9月24日	日本脂質栄養学会第30回大会
包音都古栄・金花、侯佳楽、馬麗燕、周華偉、姜晨旭、香川靖男、内藤由紀子、大原直樹、立松憲次郎、奥山治美：羊尻尾脂摂取が自然発症高血圧ラットの寿命及び性ホルモンに与える影響		2021年9月24日	日本脂質栄養学会第30回大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
日本脂質栄養学会	評議員（2017年～）		
日本脂質栄養学会	日本食用油脂安全協議会委員（2017年～）		
日本アイソトープ協会	中部支部委員（2018年～）		
日本アイソトープ協会	第2種放射線取扱主任者 試験問題解答例作成（2019年～）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品物理化学研究室
職名	講師	氏名	土井 直樹
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月15日	(物理化学系実習) 今年度より実習講義を担当し、実習で用いる装置図の図示ならびに原理について詳細に板書することで、学生の理解が深まるよう工夫した。また、実習アンケートにより、自身の担当範囲の実習では高い満足度が得られていた。
		2021年7月2日	(ドラッグデザイン演習) 創薬計算ツールである Discoverly Studio の有用性を理解してもらうため、独自のプリントを用意・配布し学生に演習を行ってもらう授業を展開した。実習アンケートでは、PC接続不良に関する指摘があったため、PC のネットワーク接続エラーに対し迅速に対応できるよう、講義中にティーチング・チューデントアシスタントへの指導を実施した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年5月28日	(物理化学系実習) 実習を通して得られたデータについて考察することが重要であることから、出来る限り学生が疑問に思ふような実習書を作成し、その内容を講義で補い、実際の実習によって理解を深められる構成とした。
		2021年6月14日	(ドラッグデザイン演習) 自身の担当する化合物のADME計算について理解を深めるため、各計算値の意味する内容や、化合物の設計とADME計算の実践に関するレジュメを準備・配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年	なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	(FD講演会) 一般社団法人公立大学協会 常務理事・事務局長の中田晃先生による、「公立大学法人制度とガバナンスの課題」と題した御講演を拝聴し、本学の独法化を見据えた課題と有益性について考える機会となった。
		2021年10月25日	(アドバイザー学生との面談) B1とB2合わせて12名の学生のアドバイザーを担当しており、年に3回面談を行っている。学生の日常の変化に気が付けるよう、そして、お互いに義務感での面談とならないよう留意している。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	Naoki Doi, Yasushi Sasai, Yukinori Yamauchi, Tetsuo Adachi, Masayuki Kuzuya, Shin-ichi Kondo, Kinetic analysis of mechanoradical formation during the mechanolysis of dextran and glycogen	共著	2017年6月
	Kwihwan Park, Takumi Matsuda, Tsuyoshi Yamada, Yasunari Monguchi, Yuka Sawama, Naoki Doi, Yasushi Sasai, Shin Ichi Kondo, Yoshinari Sawama, Hironao Sajiki, Direct Deuteration of Acrylic and Methacrylic Acid Derivatives Catalyzed by Platinum on Carbon in Deuterium Oxide	共著	2018年6月
	Yukinori Yamauchi, Naoki Doi, Shin - ichi Kondo, Yasushi Sasai, Masayuki Kuzuya, Characterization of a novel polymeric prodrug of an antibacterial agent synthesized by mechanochemical solid - state polymerization	共著	2020年6月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			BEILSTEIN JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY, 13, 1174-1183
			Advanced Synthesis and Catalysis, 360(12), 2303-2307
			Drug Development Research, 81(7), 867-874

Naoki Doi, Yukinori Yamauchi, Ryo Ikegami, Masayuki Kuzuya, Yasushi Sasai, Shin-ichi Kondo, Photo-responsive polymer micelles from <i>o</i> -nitrobenzyl ester-based amphiphilic block copolymers synthesized by mechanochemical solid-state copolymerization	共著	2020年7月	Polymer Journal, 52(12), 1375-1385
Shin-ichi Kondo, Naoki Doi, Yasushi Sasai, Yukinori Yamauchi, Masayuki Kuzuya, Characterization of Shape of Polymer Nano-Film Possessing Various Crosslinking Chain Length	共著	2021年9月	J. Photopolym. Sci. Technol., 34(5), 533-536
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Shin-ichi Kondo, Naoki Doi, Yasushi Sasai, Yukinori Yamauchi, Masayuki Kuzuya Characterization of Shape of Polymer Nano-Film Possessing Various Crosslinking Chain Length		2021年・6月	The 38th International Conference of Photopolymer Science and Technology
鈴木香帆, 土井直樹, 葛谷昌之, 近藤伸一 環境低負荷型固相反応によるデキストランを基盤とするグラフトコポリマーの設計		2021年・12月	日本バイオマテリアル学会 関西ブロック 第16回若手研究発表会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2012年12月～現在	日本薬学会会員		
2016年7月～現在	高分子学会会員		
2017年3月～現在	日本DDS学会会員		
2017年5月～現在	日本バイオマテリアル学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬効解析学研究室
職名	講師	氏名	中村 信介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年12月24日	(創薬学Ⅰ) 講義内容を纏めた資料を配布し、スライドを用いて解説した。製薬企業での経験に加え、ビジネススクールで得た知識を融合させ、医薬品開発のGo/No Goの意思決定の本質を理解するためにサイエンスとビジネスの両軸から講義を展開した。各章立て毎に質問の時間を設けて都度回答することで、不明瞭なまま講義を進まない様に心掛けた。アンケートの回答結果から、「質問時間を取ってもらえるのが良い」「創薬をビジネスの観点から考える良い機会となった」と好評であった。
		2022年1月17日	(生物化学演習) PBL形式での課題解決に向けた議論、資料作成、発表を課した。糖及びビタミンに関する生化学の範囲を中心に個人学習及びグループ学習のテーマを設定。知識確認のために上記範囲に関する正誤問題を準備・実施した。発表に関しては、問題提起・ファクトの整理・考察など発表を行う上で起承転結を意識するように指導した。アンケートの回答結果として、現状の講義の内容や進め方について概ね好評であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年10月4日	生物化学演習の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年12月3日	創薬学Ⅰの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年10月2日	岐阜北高校にて出前講義を実施した。『「クスリってなに?」からサイエンスをはじめよう!』をテーマに講演した。
		2020年10月19日	第36回岐阜薬科大学市民公開講座にて「生き物から学ぶ 栄養素のパワー～人生100年時代を生き抜くために～」をテーマに講演した。
		2021年12月16日	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 令和3年度公開講座「岐阜に生きる 岐阜と生きる」にて、「鮎から学ぶ眼の健康法～光から眼を守るには!??～」をテーマに講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年10月13日	アントレプレナーシップ教育の一環として、ラクオリア製薬 武内社長を招聘し「バイオベンチャーの作り方」をテーマに講演戴いた。本講演の企画、開催を主導した。
		2021年度	アドバイザーとして2回生の学生10人を担当し、日常生活、学業、進路等、個別に面談を実施した。相談を受けた際は即時対応に務めた。
		2021年12月22日	第16回アスタキサンチン研究会において、指導学生(開田 光)が演題「Adonicare®の抗糖尿病作用」を発表し、奨励賞を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Hara H, Hosokawa M, Nakamura S, Shimohata T and Nishihara M. Progranulin and Central Nervous System Disorders.	共著	2019年3月	Springer
Nakamura S#, Noguchi T#, Inoue Y, Sakurai S, Nishinaka A, Hida Y, Masuda T, Nakagami Y, Horai N, Tsusaki H, Hara H and Shimazawa M #Contributed equally. Nrf2 activator RS9 suppresses pathological ocular angiogenesis and hyperpermeability.	共著	2019年5月	Investigative Ophthalmology and Visual Science, 60, 1943-1952.

Nakamura S, Maoka T, Tsuji S, Hayashi M, Shimazawa M and Hara H Central nervous system migration of astaxanthin and adonixanthin following their oral administration in cynomolgus monkeys	共著	2020年10月	Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 66, 5, 488-494.
Nishinaka A#, Nakamura S#, Tanaka M, Masuda T, Inoue Y, Yamamoto T, Imai T, Hidaka Y, Shimazawa M and Hara H. #Contributed equally. Excess adiponectin in eyes with progressive ocular vascular diseases.	共著	2021年1月	THE FASEB JOURNAL, 35(2):e21313.
Takahashi K., Nakamura S., Otsu W., Shimazawa M. and Hara H. Progranulin deficiency in Iba-1+ myeloid cells exacerbates choroidal neovascularization by perturbation of lysosomal function and abnormal inflammation.	共著	2021年7月	Journal of Neuroinflammation, 25;18(1):164.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
日高 八重、中村 信介、西中 杏里、田中 美留豊、高城 雄一、稲益 悟志、与茂田 敏、嶋澤 雅光、原 英彰 マウス網膜静脈閉塞症モデルに対するアルクテゲニンの作用		2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
藤森 ほのか、大庭 卓也、三上 雅史、中村 信介、伊藤 賢一、小島 弘之、高橋 達治、Iddamalgoda Arunasiri、嶋澤 雅光、原 英彰 認知機能障害に対するゴツコラ（ツボクサ）抽出物及び活性成分の作用		2021年10月	第3回日本脳サプリメント学会
中村 信介 網膜静脈閉塞症の病態解明並びに治療応用を目的とした基礎研究		2021年11月	第41回日本眼薬理学会
山崎 幹大、石田 紘大、大津 航、矢古宇 智弘、中村 信介、山田 和佳奈、角崎 英志、下田 博司、原 英彰、嶋澤 雅光 青色LED光誘発視細胞障害に対するマキベリー（Aristotelia chilensis）抽出物とその成分の保護効果		2021年11月	第12回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会
辻 翔平、中村 信介、嶋澤 雅光、原 英彰 膠芽腫病態におけるヒアルロン酸分解因子HYBIDの役割解明		2021年12月	第64回日本脳循環代謝学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年1月～現在	日本脳サプリメント学会評議員		
2021年4月～現在	日本薬学会第142年会シンポジウム世話人（2021年度開催予定）		
2021年1月～2021年11月	第64回脳循環代謝学会学術集会事務局長（2021年度開催）		
2021年4月～2021年12月	第16回アスタキサンチン研究会事務局長（2021年度開催）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 機器センター	職名 講師	氏名 中山 辰史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年4月12日	(情報処理基礎実習) ネットワーク利用者のアカウント使用をまとめたプリントを事前に配布し、講義スライドの説明を聞きながら重要な点を書き込んでもらうようにしている。	
	2022年1月7日	(総合医療薬学演習) 本講義では課題に対するPBL形式での議論とプロダクト発表を課しているが、学生の闊達な議論やプロダクトの効率的な作成を促すために適宜助言・指導を行った。アンケートの回答結果より、一部の講義方法に関する指摘を除いて、現状の講義内容や評価方法等については概ね好評であった。	
	2022年1月17日	(情報処理科学) 座学・演習 (プログラム自作・アドオン作成など) の双方から学習できるよう組合せ、難しい用語を出来る限り解説しながら進めた。アンケートの回答結果より、現状の講義内容については概ね好評であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月12日	(情報処理基礎実習) 学生掲示板、GPU Mail、講義ノートなど、大学からの連絡ツールへのアクセス方法やTipsを新入生に配布した。	
	2021年10月4日	(情報処理科学) 使用するレジュメを作成し、学生に配布した。	
	2021年10月8日	(総合医療薬学演習) 実施要領を作成し、担当教員・学生に配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年12月1日	「弁理士による特許セミナー」(野村和弘先生)の講演を拝聴し、出願の流れ、出願時の注意点など、特許の取得に関する理解が深まった。	
	2022年12月8日	「大学健康管理における最近の話題」(山本眞由美先生)の講演を拝聴し、大学におけるメンタルヘルスや障害学生への支援に関する理解が深まった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Tatsushi Nakayama, Ryo Honda, A Mechanistic Insight into Superoxide Elimination by Mesalazine through Proton-Coupled Electron Transfer	共著	2021年11月	BP International, Current Aspects in Pharmaceutical Research and Development Vol.5, 19, 2021, 12-24
T. Nakayama, N. Okumura, B. Uno, Complementary effect of intra- and intermolecular hydrogen bonds on electron transfer in β -hydroxy-anthraquinone derivatives	共著	2020年1月	American Chemical Society, J. Phys. Chem. B 2020, 124, 848-860

T.Nakayama, R.Honda, Electrochemical and Mechanistic Study of Superoxide Elimination by Mesalazine through Proton-Coupled Electron Transfer	共著	2021年2月	MDPI, Pharmaceuticals, 14(2), 120
T.Nakayama, R.Honda, Electrochemical and Mechanistic Study of Oxidative Degradation of Favipiravir by Electrogenerated Superoxide through Proton- Coupled Electron Transfer	共著	2021年8月	American Chemical Society, ACS Omega, 6, 33, 21730-21740
Tatsushi Nakayama ^{1,*} , Ryo Honda, Kazuo Kuwata, Shigeyuki Usui, and Bunji Uno Electrochemical and Mechanistic Study of Reactivities of α -, β -, γ -, and δ -Tocopherol toward Electrogenerated Superoxide in N,N- Dimethylformamide through Proton-Coupled Electron Transfer	共著	2021年12月	MDPI, Antioxidants, 11, 9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Tatsushi Nakayama, Ryo Honda, Electrochemical and Mechanistic Study of Oxidative Degradation of Favipiravir by Electrogenerated Superoxide through Proton- Coupled Electron Transfer		2021年11月12日	4th International Webinar on Physical Health, Nursing Care and COVID-19 Management'
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2010年～2018年	岐阜地区 近郊情報ネットワーク協議会（総務省・岐阜県・岐阜大学・国立核融合科学研究所・岐阜工業高等専門学校・県立岐阜県立看護大学・情報科学芸術大学院大学・市立岐阜薬科大学・岐阜市立女子短期大学・私立朝日大学・岐阜医療科学大学・岐阜協立大学・岐阜県産業技術総合センター・岐阜県産業技術課・岐阜情報スーパーハイウェイ事務局・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜・ソフトピアジャパン、その他）		
2019年4月～現在	機器共用連携協議（食品研・産総研・岐高専・岐薬大・岐大）		
2021年～現在	Electrochem(MDPI) 特集号ゲストエディター		
～現在	加入学会各種（ACS、化学会、薬学会、電気化学会、その他）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	病院薬学研究室
職名	講師	氏名	野口 義紘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年6月29日	(医療経済論) 講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、講義スライドの説明を聞きながら、理解を深めてもらうようにしている。アンケートの回答者のほとんどが現状に満足している結果であった。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年8月31日	「モデル・コアカリキュラムに沿った わかりやすい新実務実習テキスト2021-2022」(じほう)を分担執筆した。
		2021年6月29日	医療経済論の講義プリントを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年7月2日	医療薬学フォーラム2017・第25回クリニカルファーマシーシンポジウムにおいて、「岐阜薬科大学附属薬局における新コアカリキュラム対応に向けた薬局実務実習トライアルについて」を報告した。
		2018年12月2日	第51回東海薬剤師学術大会において「岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習トライアル実施報告と実習スケジュールの標準モデルの作成について」を発表した。
		2019年9月7日	第13回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会において、「岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに基づくコミュニケーション力の育成を重視した参加・体験型実習の実施報告」について発表した。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2018年9月10日	米国フロリダ大学薬学教育体験プログラム派遣により、米国における薬学教育について学ぶことができた。
		2021年2月5日	株式会社NTT数理システム主催の2020年度学生研究奨励賞において、指導学生が佳作を受賞した。
		2021年6月27日	第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会において、指導学生が学生優秀演題賞を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Noguchi Y, Tachi T, Teramachi H. Review of statistical methodologies for detecting drug-drug interactions using spontaneous reporting systems.	共著	2019年11月	Frontiers in Pharmacology 10 1319
Noguchi Y, Tachi T, Teramachi H. Comparison of Signal Detection Algorithms Based on Frequency Statistical Model for Drug-Drug Interaction Using Spontaneous Reporting Systems.	共著	2020年4月	Pharmaceutical research 37(5) 86
Noguchi Y, Takaoka M, Hayashi T, Tachi T, Teramachi H. Antiepileptic combination therapy with Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis: Analysis of a Japanese pharmacovigilance database.	共著	2020年10月	Epilepsia 61(9) 1979-1989

Noguchi Y, Tachi T, Teramachi H. Detection algorithms and attentive points of safety signal using spontaneous reporting systems as a clinical data source	共著	2021年11月	Briefings in Bioinformatics 22(6) bbab347
Noguchi Y, Murayama M, Esaki H, Sugioka M, Koyama A, Tachi T, Teramachi. Angioedema caused by drugs that prevent the degradation of vasoactive peptides: a pharmacovigilance database study.	共著	2021年11月	Journal of Clinical Medicine 10(23) 5507
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
林剛, 館知也, 野口義紘, 杉岡まゆ子, 青山智, 田中和秀, 安田昌宏, 山田浩司, 水井貴詞, 寺町ひとみ. ナトリウム・グルコース共輸送体-2阻害薬に関するリスク最小化活動の評価		2021年6月	日本医療薬学会 第4回フレッシンヤーズ・カンファレンス
高岡みらい, 野口義紘, 林剛, 館知也, 寺町ひとみ. 抗てんかん薬の単剤および併用療法における重篤な皮膚障害のシグナル探索		2021年6月	第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会
長内理大, 小長谷奈美, 小俣江利果, 伊野陽子, 玉木啓文, 山下修司, 野口義紘, 井口和弘, 寺町ひとみ. 岐阜薬科大学附属薬局における「SGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendation」をふまえた服薬指導の現状調査		2021年9月	第9回日本くすりと糖尿病学会学術集会
Noguchi Y, Murayama A, Esaki H, Sugioka M, Koyama A, Tachi T, Teramachi H. Safety Signal of Angioedema Caused by Drugs that Prevent the Degradation of Vasoactive Peptides; Substance P and Bradykinin.		2022年2月	The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy
久保賢晃, 館知也, 青山京介, 古山愛紗, 渡邊繭子, 青山智, 野口義紘, 田中和秀, 安田昌宏, 柴田明彦, 水井貴詞, 寺町ひとみ. 精神科入院患者における薬物有害事象の治療等に要した費用に関する研究		2022年3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年1月 - 2019年9月	第13回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会 実行委員		
2018年7月 - 現在	BMC Pharmacology and Toxicology Associate Editor		
2020年12月 - 現在	MDPI Pharmaceutics Topic Editor		
2021年2月 - 現在	Spandidos Publications Medicine International Editorial board		
2021年12月 - 現在	Medicine International Special Issue Lead Editor		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	衛生学研究室
職名	講師	氏名	松丸 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年7月14日	(地球環境論)テキスト・参考書・英語文献をまとめた講義プリントを作製し、講義時は穴埋め部分に書き込みを行ってもらっている。講義に関連した動画の視聴も行ってもらうなど、関心を持つように工夫し、講義アンケートも概ね好評であった。
		2021年12月23日	(衛生化学II)テキスト・参考書をまとめた講義プリントを作製し、講義時は穴埋め部分に書き込みを行ってもらっている。演習問題を豊富に準備し、到達目標が確認できるように工夫しており、講義アンケートは概ね好評であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年2月9日	小児泌尿器科学(診断と治療社)(分担)を執筆した。
		2021年4月6日	地球環境論の講義で使用する講義プリントを作成し、学生に配布した。
		2021年10月7日	衛生化学IIの講義で使用する講義プリントを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年10月26日	小中学生対象の岐阜市科学塾「生物・化学にふれてみよう」、目で見える栄養成分～ドリンク内のビタミンBを観察しよう～を実施した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年6月15日	3回生9名のアドバイザ一面談を行った。進路、成績、生活上の悩みがないかを聞き、希望に沿った状況となるようにアドバイスを行った。
		2021年9月11日	フォーラム2021: 衛生薬学・環境トキシコロジーにて、指導学生が環境・衛生部会新人賞(南川祥輝)、実行委員長賞(野口菜都実)を受賞した。
		2021年12月3日	静岡県立大学薬学部におけるOSCEに外部評価員として参加し、受験学生の採点を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Matsumaru D, Motohashi H. The KEAP1-NRF2 System in Healthy Aging and Longevity.	共著	2021年11月	Antioxidants (Basel), 10, 1929.
Onoki T, Izumi Y, Takahashi M, Murakami S, Matsumaru D, Ohta N, Wati SM, Hatanaka N, Katsuoka F, Okutsu M, Yabe Y, Hagiwara Y, Kanzaki M, Bamba T, Itoi E, Motohashi H. Skeletal muscle-specific Keap1 disruption modulates fatty acid utilization and enhances exercise capacity in female mice.	共著	2021年7月	Redox biology, 43, 101966.
Okazaki K, Anzawa H, Liu Z, Ota N, Kitamura H, Onodera Y, Alam MM, Matsumaru D, Suzuki T, Katsuoka F, Tadaka S, Motoike I, Watanabe M, Hayasaka K, Sakurada A, Okada Y, Yamamoto M, Suzuki T, Kinoshita K, Sekine H, Motohashi H. Enhancer remodeling promotes tumor-initiating activity in NRF2-activated non-small cell lung cancers.	共著	2020年11月	Nature communications, 11, 5911.
Wati SM, Matsumaru D, Motohashi H. NRF2 pathway activation by KEAP1 inhibition attenuates the manifestation of aging phenotypes in salivary glands.	共著	2020年6月	Redox biology, 36, 101603.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
石田慶士、南川祥輝、森 一馬、松丸大輔、中西 剛：新規発達神経毒性評価系開発に向けた神経分化トレーサーマウスの解析	2021年9月	第48回日本毒性学会学術年会
山本勝也、松丸大輔、廣森洋平、石田慶士、遠藤智史、永瀬久光、中西剛：リポカリン分子C8 γ の有機スズ結合性とその結合領域の検討	2021年9月	第48回日本毒性学会学術年会
野口菜都実、白石絵里奈、石田慶士、松丸大輔、中西 剛：皮膚感作誘導初期に誘導されるT細胞サブタイプの同定	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
水谷奏女、廣森洋平、石田慶士、松丸大輔、永瀬久光、濱田 稔、菊田武司、野方靖行、中西 剛：ムラサキイガイRetinoid X receptorのアミノ酸変異がその機能に与える影響の解析	2021年10月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2021
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年6月8日	日本生化学会 東北支部 第85回例会・シンポジウム 実行委員	
2020年6月24日	岐阜市開発審査会 委員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 岐阜薬科大学	講座名 グローバルレギュラトリーサイエンス	職名 講師	氏名 松丸 直樹	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月13日	(医薬品開発学)薬学部では触れる事のないプログラミングやDeep learningなどを紹介し、今後、より拡張して欲しい旨の意見を得た。	
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年10月19日	(総合医療薬学演習)演習で使用するレジュメをホームページ上に作成し、学生に公表した。	
		2021年11月12日	(薬学英語Ⅲ)薬剤師が日常的に使う英語表現や英語の添付文書を読むための補助教材を作成し、授業で利用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年12月14日	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 2018年公開講座の会場で脊髄性筋萎縮症に応用可能な動作解析装置の実演を行った。	
		2018年11月25日	障害支援研究会で「小児における動作分析」に関する講演を行った。	
		2021年11月26日	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 2021年公開講座で「ウェアラブルデバイスによる運動機能評価と情報科学がもたらす変革」に関する講演を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年6月1日	3回生7名のアドバイザー教員として担当学生と面談を行った。また、単位を落してしまった担当学生に対しては、より細やかなケアを行った。	
		2021年12月1日	「弁理士による」特許入門セミナー(野村和弘先生)を拝聴し、特許出願時のポイントについて理解を深めた。	
		2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題」(山本眞由美先生)を拝聴し、問題を抱えた学生に対する大学人としての対応について理解を深めた。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Yoshino M, Tsukamoto K. Humanistic burden among caregivers of patients with Alzheimer's disease or dementia in Japan: a large-scale cross-sectional survey.		共著	2021年1月	J Med Econ. 24(1):181-192.
Ohno S, Chen Y, Sakamaki H, Matsumaru N, Yoshino M, Tsukamoto K. Burden of caring for Alzheimer's disease or dementia patients in Japan, US, and EU: results from the National Health and Wellness Survey: a cross-sectional survey.		共著	2021年1月	J Med Econ. 24(1):266-278.
Ushijima S, Matsumaru N, Tsukamoto K. Evaluation of Drug Lags in Development Initiation, New Drug Application and Approval Between Japan and the USA and the Impact of Local Versus Multi-regional Clinical Trials.		共著	2021年7月	Pharm Med. 35(4):253-260.
Izuka S, Matsumaru N, Tsukamoto K. Characteristics of drugs approved in Japan without conducting confirmatory clinical trials		共著	2021年12月	J Clin Pharm Ther. 46(6):1582-1590.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
井塚俊介、松丸直樹、塚本桂 検証試験を実施せずに日本で承認を取得した抗悪性腫瘍薬の特徴			2021年9月17日	第11回レギュラトリーサイエンス学会学術大会

牛嶋智、松丸直樹、塚本桂 第3相試験における国際共同試験と日本単独試験の比較による医薬品開発の効率化の検討	2021年9月17日	第11回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
田島玄太郎、松丸直樹、塚本桂 米国の開発促進制度が日本の申請ラグに与える影響に関する研究	2021年12月9日	第42回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2015年4月～	レギュラトリーサイエンス学会（一般会員）	
2015年4月～2018年3月	日本臨床薬理学会（一般会員）	
2016年4月～2018年3月	日本人類遺伝学会（一般会員）	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 合成薬品製造学研究室	職名 講師	氏名 山口 英士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021. 12. 1.	(有機化学演習)ブルース有機化学から問題プリントを作成し、演習前のプリントの予習、演習中の学生の解答、および教員の説明からなる演習形式で講義を行なっている。問題と解答は後日講義ノートにアップして復習しやすいようにしている。アンケートでは、全体としてはわかりやすく解説がなされているとの意見である。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021. 9.	大学院講義で使用するレジュメを作成した。	
	2020. 2.	School of Medicine, The United Graduate School of Drug Discovery and Medical Information Sciences との共同でのセミナーで使用するレジュメを作成した。	
	2019. 5.	大学院講義で使用するレジュメを作成した。□	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017. 8. 1.	高校生を対象としたオープンキャンパスを行い、香りのある分子の合成により、化学的な考え方や実際の医薬品合成での実例を交えて教育した。	
	2018. 8. 6.	高校生を対象としたオープンキャンパスを行い、香りのある分子の合成により、化学的な考え方や実際の医薬品合成での実例を交えて教育した。	
	2019. 8. 2.	高校生を対象としたオープンキャンパスを行い、香りのある分子の合成により、化学的な考え方や実際の医薬品合成での実例を交えて教育した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018. 8.	第 8 回 CSJ 化学フェスタ 2018 優秀ポスター発表賞: 松尾一樹	
	2020. 12.	第47回有機典型元素化学討論会 chemical communication award: 前島咲	
	2021. 6.	第 10 回 JACI/GSC シンポジウム GSC ポスター賞: 前島咲	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
H. Inagawa, E. Yamaguchi, A. Itoh Selenium ylides: synthesis, characterization, and applications to photo-induced cyclopropanation reactions. Photoinduced Atom Transfer Radical Addition Reaction of Olefins with α -Bromo Carbonyls	共著	2021. 12.	Journal: Photochemical & Photobiological Sciences. 2021, accepted
K. Matsuo, T. Yoshitake, E. Yamaguchi, A. Itoh Photoinduced Atom Transfer Radical Addition/Cyclization Reaction between Alkynes or Alkenes with Unsaturated α -Halogenated Carbonyls	共著	2021. 11.	Molecules 2021, 26, 6781
K. Matsuo, T. Kondo, E. Yamaguchi, A. Itoh Photoinduced Atom Transfer Radical Addition Reaction of Olefins with α -Bromo Carbonyls	共著	2021. 8.	Chemical & Pharmaceutical Bulletin 2021, 69, 796-801.

M. Takeda, S. Maejima, E. Yamaguchi, A. Itoh Iodine-mediated direct α -amination of dimethyl methylmalonate using non-protected amines	共著	2021. 4	Tetrahedron Letters 2021, 77, 153251.
H. Suzuki, E. Yamaguchi, A. Itoh Nickel-Catalyzed Reductive Allylation of Aldehydes with Allyl Acetates	共著	2021. 1.	Synthesis, 2021, 53, 1489-1494.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Eiji Yamaguchi, Kazuki Matsuo, Akichika Itoh; Development of halogen bonding mediated photocatalytic transformation		2021.12.	The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021)
Mitsumi Takeda, Saki Maejima, Eiji Yamaguchi, Akichika Itoh; Development of direct amination reaction at α position of carbonyls using iodine		2021.12.	The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021)
Saki Maejima, Eiji Yamaguchi, Akichika Itoh; Development of regioselective synthesis methodologies for C3-substituted dihydrobenzofuran using visible light and boron Lewis acids		2021.12.	The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021)
Karin Oe, Saki Maejima, Eiji Yamaguchi, Akichika Itoh; Development of diastereoselective intermolecular lactonization mediated by visible light with molecular iodine		2021.12.	The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021)
Kazuki Matsuo, Eiji Yamaguchi, Akichika Itoh; Halogen-bonding-promoted photoinduced C-X borylation of aryl halide using phenol derivateves		2021.12.	The 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2021)
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年～	日本化学会（一般会員）		
2017年～	日本薬学会（一般会員）		
2017年～	有機合成化学協会（一般会員）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品分析化学研究室
職名	講師	氏名	山本 拓平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月8日	(有機構造解析学) 講義は主にパワーポイントで行っており、図を用いて、詳細で優しい説明を行っている。また、知識の定着を行うため、毎回多くの問題を解き、解説を行う。より詳細なPDFを講義ノートとして配布しており、アンケートのコメントでは、ほぼ100%が内容に満足している。
		2021年11月12日	(物理化学演習) 物理化学は図で理解するようにパワーポイント、PDFの資料を作った。詳細で優しい説明を行っており、知識の定着を行うため、毎回多くの問題を解き、その一つ一つにも詳細な説明と解き方を講義する。アンケートのコメントでは、ほぼ100%が内容に満足している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月7日	有機構造解析学の講義で使用するパワーポイントとPDFの資料を作成し、講義ノートとしてウェブサイトに乗せた。
		2021年10月7日	物理化学演習の講義で使用するパワーポイントとPDFの資料を作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月1日	(弁理士による特許入門セミナー) 特許を取得するまでの流れ、気を付ける点などを伺った。
		2021年12月8日	(人権ハラスメント 大学保健管理における最近の話題) 近年では、大学生の対応はメンタルの不調などが多く、支援の仕方を伺った。
		2021年11月14日	外部モニターとして、OSCEの評価を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Esaka Y., Hisato K., Yamamoto T., Murakami H., Uno B.: Evaluation of type-a endonucleases for the quantitative analysis of DNA damage to exposure to acetaldehyde using capillary electrophoresis	共著	2018年8月	Analytical Sciences
Esaka Y., Kunishima S., Aruga H., Yamamoto T., Murakami H., Teshima N., Uno B.: Preparation of cyclic-1-N2-propano-2'-deoxyguanosine-d7 as an internal standard for ESI-MS/MS determination of DNA damage from acetaldehyde	共著	2019年12月	Analytical Sciences
Sakai Y., Murakami E., Kato H., Ohyama K., Esaka Y., Yamamoto T., Hagihara M., Mikamo H., Uno B.: Feasibility of trypsin digestion as a sample preparation for daptomycin quantification in murine skeletal muscles	共著	2019年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
Esaka Y., Aruga H., Kunishima S., Yamamoto T., Murakami H., Sawama Y., Sajiki H., Uno B.: Preparation of N2-ethyl-2'-deoxyguanosine-d4 as an internal standard for the electrospray ionization-tandem mass spectrometric determination of DNA damage by acetaldehyde	共著	2020年7月	Analytical Sciences

Yamamoto T., Sakamoto K., Esaka Y., Uno B.: Highly sensitive fluorescence detection of daptomycin in murine samples through derivatization with 2,3-naphthalenedialdehyde	共著	2020年10月	Analytical Sciences
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Matsuura T., Fukuta K., Kariya Y., Esaka Y., Uno B., Yamamoto T.: Neighboring Group Effect on Nucleophilicity of Disulfide Bond		2021年4月1日	第261回アメリカ化学会国際学会
濱田 修作、高須 蒼生、山本 拓平、宮城 清弦、中村 信介、嶋澤 雅光、原 英彰、江坂 幸宏 LVSEP-CZE-間接吸収検出法による虚血性疾患時に変動する網膜中有機酸定量に関する研究		2021年9月1日	第33回バイオメディカル分析科学シンポジウム
吉川 一輝、西山 悠太、高須 蒼生、山本 拓平、村上 博哉、江坂 幸宏 DNA付加体のLC/MS/MS分析法構築-プリン塩基形態での分析		2021年9月1日	日本分析化学会 第70年会
宮下 稜平、江坂 幸宏、山本 拓平 過酸化水素とジスルフィド化合物の反応性に関する研究		2021年10月1日	第52回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
川上 祐佳、江坂 幸宏、山本 拓平 ジスルフィド基の酸化・還元電位に及ぼす隣接基サンドイッチ構造に関する研究		2021年10月1日	第52回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2012～現在	American Chemical Society		
2015～現在	日本分析化学会		
2015～現在	日本薬学会		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬理学研究室
職名	助教	氏名	家崎 高志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年5月6日	(薬理学実習) 実習を通して理解が深まるように実習内容について説明をする講義を行った。内容の理解を確認できるように口頭試問を行うことで、学習効果が高まったと思われる。アンケートにより回答者の9割が実習内容に満足をしている結果であった。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年5月6日	(薬理学実習) 薬理学実習で使用する実習書とまとめノートを配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	FD/SD講演会「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の講演を拝聴し、法人化に際した大学の仕組みがどのように変化するのか理解を深めた。
		2021年12月1日	知的財産評価委員会セミナー「弁理士による特許入門セミナー」の講演を拝聴し、特許取得に関する注意点、流れに対して理解が深まった。
		2021年12月8日	人権ハラスメント・FD/SD講演会「大学保健管理における最近の話題」を拝聴し、学生に対するメンタルヘルス維持に関する理解が深まった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Tokumura K, Iwahashi S, Park G, Ochiai S, Okayama Y, Fusawa H, Fukasawa K, Iezaki T, Hinoi E. 'mTOR regulates skeletogenesis through canonical and noncanonical pathways.'	共著	2020年11月	Biochem Biophys Res Commun. ;533(1):30-35.
Iwahashi S, Tokumura K, Park G, Ochiai S, Okayama Y, Fusawa H, Ohta K, Fukasawa K, Iezaki T, Hinoi E. 'mTORC1 Overactivation Leads to Abnormalities in Skeletal Development.'	共著	2020年	Biol Pharm Bull. ;43(12):1983-1986.
Ochiai S, Tokumura K, Park G, Ozaki K, Horie T, Yamada T, Iwahashi S, Ohta K, Fusawa H, Okayama Y, Kaneda K, Iezaki T, Hinoi E. 'Daily oral supplementation of Hochu-Ekki-To prevents osteoclastic activation and bone loss in ovariectomized mice.'	共著	2021年1月	J Pharmacol Sci. ;145(1):1-5.
Fukasawa K, Kadota T, Horie T, Tokumura K, Terada R, Kitaguchi Y, Park G, Ochiai S, Iwahashi S, Okayama Y, Hiraiwa M, Yamada T, Iezaki T, Kaneda K, Yamamoto M, Kitao T, Shirahase H, Hazawa M, Wong RW, Todo T, Hirao A, Hinoi E. 'CDK8 maintains stemness and tumorigenicity of glioma stem cells by regulating the c-MYC pathway.'	共著	2021年4月	Oncogene. ;40(15):2803-2815.
Iezaki T, Hinoi E. 'Phosphorylation of Smurf2 at Thr249 by Erk5 regulates TGF-β signaling.'	共著	2021年	Nihon Yakurigaku Zasshi. ;156(5):271-274.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
山田 孝紀、深澤 和也、堀江 哲寛、徳村 和也、岩橋 咲幸、家崎 高志、檜井 栄一 加齢に伴う骨恒常性維持機能の低下における間葉系幹細胞のCDK8の役割		2021年6月26日	第139回日本薬理学会近畿部会

堀江哲寛、深澤和也、山田孝紀、家崎高志、檜井栄一 間葉系幹細胞のErk5が骨恒常性維持機構に与える影響	2020年3月	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2012年7月～現在	日本薬理学会会員	
2015年7月～現在	日本骨代謝学会会員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 衛生学研究室	職名 助教	氏名 石田 慶士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月30日	(衛生薬学実習)実習を行う上での重要なポイントや注意点を実習講義で説明した。また国家試験で問われやすい内容についても重点的に解説した。アンケートから、9割以上が現状に満足しているとの回答が得られた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月12日	衛生薬学実習の実習講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年9月25日	国公立大学高度薬学人材育成ワークショップにおいて、全国の国公立薬学部学生に対してキャリア形成に関する講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年9月11日	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて、指導学生が環境・衛生部会新人賞（南川祥輝）、実行委員長賞（野口菜都実）を受賞した。
		2021年12月1日	「弁護士による特許入門セミナー」（野村和弘先生）を拝聴し、特許出願に関する理解を深めた。
		2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題」（山本眞由美先生）を拝聴し、学生のメンタルヘルス支援に関する理解を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Kidoguchi N., Ishida K., Sanoh S., Miyara M., Kotake Y.: Triphenyltin inhibits GA-binding protein α nuclear translocation.	共著	2020年1月	Fundam. Toxicol., 7, 33-40
Yoshida I., Ishida K., Yoshikawa H., Kitamura S., Hiromori Y., Nishioka Y., Ido A., Kimura T., Nishikawa JI., Hu J., Nagase H., Nakanishi T.: In vivo profiling of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin-induced estrogenic/anti-estrogenic effects in female estrogen-responsive reporter transgenic mice.	共著	2020年3月	J. Hazard. Mater., 385, 121526
Dungkokkrud P., Tomita S., Hiromori Y., Ishida K., Matsumaru D., Mekada K., Nagase H., Tanaka K., Nakanishi T.: Alginate-coated activated charcoal enhances fecal excretion of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin in mice, with fewer side effects than uncoated one.	共著	2021年8月	J. Toxicol. Sci., 46, 379-389
Ma H., Ishida K., Xu C., Takahashi K., Li Y., Zhang C., Kang Q., Jia Y., Hu W., Matsumaru D., Nakanishi T., Hu J.: Triphenyl phosphate delayed pubertal timing and induced decline of ovarian reserve in mice as an estrogen receptor antagonist.	共著	2021年12月	Environ. Pollut., 290, 118096
Shiraishi E., Ishida K., Matsumaru D., Ido A., Hiromori Y., Nagase H., Nakanishi T.: Evaluation of the skin-sensitizing potential of Brazilian green propolis.	共著	2021年12月	Int. J. Mol. Sci., 22, 13538

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
石田慶士、南川祥輝、森 一馬、松丸大輔、中西 剛 新規発達神経毒性評価系開発に向けた神経分化トレーサーマウスの解析	2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会
山本勝也、松丸大輔、廣森洋平、石田慶士、遠藤智史、永瀬久光、中西 剛 リポカリン分子C8 γ の有機スズ結合性とその結合領域の検討	2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会
南川祥輝、石田慶士、森 一馬、辰巳佳乃子、松丸大輔、田熊一 徹、中西 剛 神経分化トレーサーマウスを用いた新規発達神経毒性評価系の有用性検証	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
野口菜都実、白石絵里奈、石田慶士、松丸大輔、中西 剛 皮膚感作誘導初期に誘導されるT細胞サブタイプの同定	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2012年5月～現在	日本毒性学会会員	
2013年3月～現在	日本薬学会会員	
2014年4月～現在	日本神経化学学会会員	
2021年8月17日	ワクチン調剤業務への従事	
2021年9月25日	令和3年度第1回国公立大学高度薬学人材育成ワークショップにおけるタスクフォース	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	製剤学研究室
職名	助教	氏名	伊藤 貴章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年7月2日	(製剤学実習)導入授業において動画を用いた実習機器解説を行うことで、実習時スムーズに理解できるよう努めた。実習であるため、調製物の質感を実際に体感してもらった。日本薬局方の改正に伴う変更点について資料を作成し、最新の情報を学生に提供している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年10月1日	製剤学実習の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年11月1日	薬学英語Ⅲの講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
		2021年6月1日	製剤学実習の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	「公立大学法人制度とガバナンスの課題」の講演を拝聴し、法人化による大学の構造・仕組みがどの様になるのか理解とイメージを深めた。
		2021年12月1日	「知的財産評価委員会セミナー」の講演を拝聴し、基礎から実践を想定した制度・概念を学び、特許申請について理解を深めた。
		2021年12月8日	「人権ハラスメント講演会」の講演を拝聴し、ハラスメントについて、職場における精神衛生環境の管理について理解を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
伊藤貴章、田原耕平 DDS製剤における製剤設計 点眼剤の製剤設計の考え方	共著	2021年12月	情報機構 医薬品におけるDDS開発技術と製剤への応用365-376
Takato S., Nobuyoshi Y., Ayaka K., Takaaki I., Kouji H., Kohei T.: Emulsion-electrospun polyvinyl alcohol nanofibers as a solid dispersion system to improve solubility and control the release of probucol, a poorly water-soluble drug	共著	2021年11月	Journal of Drug Delivery Science and Technology, 102953 (in press)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
伊藤 貴章、田原 耕平 電界紡糸技術を用いた吸入粉末剤の調製		2021年5月	日本薬剤学会 第36年会
小林由果、伊藤貴章、田原耕平 粘液透過性を有する高密度 PEG 修飾リポソームを用いたペプチド性医薬品の経肺投与製剤に関する研究		2021年6月	第37回日本DDS学会学術集会
山田 大暉、伊藤 貴章、田原 耕平 連続乾式ナノコーティング法による医薬品原薬の粉体物性改善		2021年9月	省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会
Takaaki Ito, Kohei Tahara Dry powder inhalers of biopharmaceuticals using cryo-milled electrospun nanofibers		2021年10月	8th Asian Particle Technology Symposium APT2021

野村篤広、伊藤貴章、田原耕平 難水溶性薬物の結晶性制御と溶解性改善を可能にする多孔質材料の網羅的解析	2021年10月	第38回製剤と粒子設計シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2015年3月～現在	日本薬剤学会 会員	
2016年1月～現在	日本薬学会 会員	
2016年5月～現在	日本DDS学会 会員	
2020年4月～現在	粉体工学会 省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会 実行委員	
2021年12月～現在	粉体工学会 中部談話会 実行委員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	岐阜薬科大学	講座名	健康・スポーツ科学研究室	
職名	助教	氏名	坂本 太一	
I 教育活動				
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫	2021年4月8日	薬学の専門大学における体育実技の在り方およびねらいについて講義を行った。ただ体を動かせばよいという授業にならないよう、スポーツ活動の意義を細かく説明した。	
		2021年10月4日	部活動の実施にあたり、まず、自分たちで使用する場所の清掃が大切であることを説明。グラウンドや体育館、部室の使用状況が非常に悪い。何のために部活動をしているのかを考えさせ、社会性を身につける必要性を説いた。	
2	作成した教科書、教材、参考書	2017年3月31日	坂本太一、小澤博『剣道』台湾語訳、pp. 1-4	
		2021年3月31日	坂本太一、小澤博『剣道』ベトナム語訳、pp. 1-4	
		2021年11月26日	健康・スポーツ実習のバドミントンで、基本的な技術やルールについてのレジュメを作成し配布した。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年6月17日	「岐阜薬科大学くすり健康セミナー」において、高齢者の転倒予防と筋力トレーニングの方法について講演を行った。	
		2019年6月10日	「筋トレサポーター養成講座」において、筋力トレーニングの基礎知識を担当し講演を行った。	
		2021年11月10日	「筋トレサポーター養成講座」では、筋力トレーニングの基礎知識とコロナ禍での体力作りについて講演を行った。	
4	その他教育活動上特記すべき事項	2017年4月29日	全国都道府県対抗剣道大会岐阜県代表	
		2019年4月29日	全国都道府県対抗剣道大会岐阜県代表	
		2021年12月26日	全国都道府県対抗剣道大会岐阜県代表	
II 研究活動				
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	『剣道』(台湾語訳)	共著	2017年3月	千實文教事業、pp. 1-4
	『スポーツの歴史と文化の探求』	共著	2017年12月	明和出版、pp. 413-426
	『剣道』(ベトナム語訳)	共著	2021年3月	千實文教事業、pp. 1-5
	剣道五格稽古における稽古相手との技能差による心理ストレスの差異	共著	2020年9月	武道学研究53巻1号
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年から現在	岐阜県学校剣道連盟理事	
2018年から現在	東海学生剣道連盟常任理事	
2018年から現在	中部学院大学剣道部外部指導員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	分子生物学研究室
職名	助教	氏名	宗宮 仁美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020. 12. 3	(生物化学実習) 受講者アンケートに基づき、実習のストーリーを変更し、内容を一部削除した。また、実習習得の確認のため、実技試験を実施した。
		2021. 10. 1	(生物化学実習) 実習書のみでは説明しきれない部分を、実演することで学生たちの理解を深めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017. 9. 1	生物化学実習(分子生物学実習) 予備実験結果に基づいて実習テキストを作成し、実習で使用した。
		2019. 9. 2	生物化学実習(分子生物学実習) 予備実験結果に基づいて実習テキストを作成し、実習で使用した。
		2020. 8. 30	生物化学実習(分子生物学実習) 実習内容を一部変更し、実習テキストを作成しなおした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019. 8. 2	オープンキャンパスでの研究室体験でDNAの制限酵素処理、DNAの精製について高校生への指導を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021. 12. 1	「弁理士による特許入門セミナー」を受講し、特許申請の際の注意点等を学んだ。
		2021. 12. 8	「大学保健管理における最近の話題」を受講し、精神的に問題のある学生への対応方法について理解を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Nagashima K., Miwa I., Soumiya H., Ushiro D., Takeda-Kawaguchi T., Tamaoki T., Ishigro S., Sato Y., Miyamoto K., Ohno T., Osawa M., Kunisada T., Shibata T., Tezuka K., Furukawa S., Fukumitsu H.: Priming with FGF2 stimulates human dental pulp cells to promote axonal regeneration and locomotor function recovery after spinal cord	共著	2017年10月	Science Report, 7, 1, 13500
Soumiya H., Arais H., Furukawa S., Fukumitsu H.: Pyrroloquinoline quinone improves abnormal functional development of whisker-mediated tactile perception and social behaviors caused by neonatal whisker trimming	共著	2019年7月	Neuroscie Letters, 13, 705, 67-73
Sakade Y., Yamanaka K., Soumiya H., Furuakawa S., Fukumitsu H.: Exposure to valproic acid during middle to late-stage corticogenesis induces learning and social behavioral abnormalities with attention deficit/hyperactivity in adult mice	共著	2019年8月	Biomedical Research, 40, 5, 179-188
Murasawa H., Kobayashi H., Imai J., Nagase T., Soumiya H., Fukumitsu H.: Substantial acetylcholine reduction in multiple brain regions of Mecp2-deficient female rats and associated behavioral abnormalities.	共著	2021年10月	PLoS One, 16, 10, e0258830
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
今井田詩織、大西諒司、宗宮仁美、福光秀文: 哺乳類型mRNA前駆体開裂因子(CFIm)の代謝と選択的ポリA付加反応		2021年7月3日	第67回 日本薬学会東海支部大会

中村海斗、山田まこと、宗宮仁美、飯田一規、武田知子、手塚建一、柴田敏之、福光秀文：ヒト歯髄細胞ドナー間における活性酸素抵抗性の差に関わる因子	2021年7月3日	第67回 日本薬学会東海支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年7月	ワクチン調整業務に従事	
2018年3月～現在	日本分子生物学会（一般会員）	
2017年～現在	日本神経化学会（一般会員）	
2017年～現在	日本薬学会（一般会員）	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬品分析化学研究室	職名 助教	氏名 高須 蒼生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年5月2日	〔分析化学実習〕予め自らの手で予備実験を実施し、手順や試薬に不備がないかを確認している。また新たに安全ピペッターを導入した。アンケートから学生からも好評であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年12月8日	大学保健管理における最近の話題（山本眞由美）メンタルヘルスと障害学生の現状や対応などについて学び、自分の行動へと反映させている。	
	2022年1月17日	「LGBTQは『いない』のではなく『見えていない』だけ（永田龍太郎）LGBTQに関する基本的な知識や状況に関する講演。自ら意識しないと認識できない問題だと改めて確認した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Parida I. S., Takasu S., Ito J., Ikeda R., Yamagishi K., Kimura T., Eitsuka T., Nakagawa K. Supplementation of <i>Bacillus amyloliquefaciens</i> AS385 culture broth powder containing 1-deoxynojirimycin in a high-fat diet altered the gene expressions related to lipid metabolism and insulin signaling in mice epididymal white adipose tissue.	共著	2020年4月	Food & Function, 11, 3926-3940
Takasu S., Parida I. S., Ito J., Kojima Y., Eitsuka T., Kimura T., Nakagawa K. Intestinal Absorption and Tissue Distribution of Aza-Sugars from Mulberry Leaves and Evaluation of Their Transport by Sugar Transporters.	共著	2020年5月	Journal of Agricultural and Food Chemistry, 68, 6656-6663
Parida I. S., Takasu S., Nakagawa K. A comprehensive review on the production, pharmacokinetics and health benefits of mulberry leaf iminosugars: Main focus on 1-deoxynojirimycin, d-fagomine, and 2-O- α -d-galactopyranosyl-DNJ.	共著	2021年10月	Critical Reviews in Food Science and Nutrition, 1-29
Honda M., Takasu S., Nakagawa K., Tsuda T., Differences in bioavailability and tissue accumulation efficiency of (all-E)- and (Z)-carotenoids: A comparative study.	共著	2021年11月	Food Chemistry, 361, 130119

Takasu S., Parida I.S., Kojima Y., Kimura T., Nakagawa K. Evaluation and development of a novel pre-treatment method for mulberry leaves to enhance their bioactivity via enzymatic degradation of GAL-DNJ to DNJ.	共著	2021年11月	Food & Function, 12, 12250-12255
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Isabella Supardi Parida, 高須蒼生, 伊藤隼哉, 永塚貴弘, 仲川清隆 1-デオキシノジリマイシンが神経細胞のインスリン抵抗性およびタウ病理へあたえる影響		2021年11月20日	第26回 日本フードファクター学会 学術集会
Parida Isabella Supardi, 高須蒼生, 伊藤隼哉, 永塚貴弘, 仲川清隆 1-DNJはインスリン抵抗性SK-N-SH神経芽細胞のインスリンシグナル伝達を改善する		2021年7月4日	第75回日本栄養・食糧学会大会
濱田修作, 高須蒼生, 山本拓平, 宮城清弦, 中村信介, 嶋澤雅光, 原英彰, 江坂幸宏 LVSEP-CZE - 間接吸収検出法による虚血性疾患時に変動する網膜中有機酸定量に関する研究		2021年9月2日	第33回バイオメディカル分析科学シンポジウム
吉川一輝, 西山悠太, 高須蒼生, 山本拓平, 村上博哉, 江坂幸宏 DNA付加体のLC/MS/MS分析法構築-プリン塩基形態での分析-		2021年9月23日	日本分析化学会 第70年会
Isabella Supardi Parida, 高須蒼生, 伊藤隼哉, 永塚貴弘, 仲川清隆 1-デオキシノジリマイシンが神経細胞のインスリン抵抗性およびタウ病理へあたえる影響		2021年11月20日	第26回 日本フードファクター学会 学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年4月～現在	日本農芸化学会（一般会員）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬局薬学研究室
職名	助教	氏名	玉木 啓文
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2018年 6月 6日	（薬局実習）現在の大学内の教育では、セルフメ ディケーションについては教育が行われるが、 その際に必要となる患者や地域住民から症状を 聴取しトリアージするための症候学的な知見に ついては教育機会がほとんどない。これまでの 自分の経験を活かし、今後薬剤師になった後の 自己研鑽の糧となるよう、実務実習内でセルフ メディケーションに加え、症候学の初歩につい て説明やディスカッションを行う試みを実施し ている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年 2月 7日	（薬局実習）新型コロナウイルスの感染拡大に伴 い、薬局実務実習が実地で行えなくなった場合 に使用する課題を岐阜薬科大学附属薬局内で作 成し、その公開の取りまとめも行った。
		2021年 2月 24日	（薬局実務実習）薬局や医療機関では、調剤後の 薬剤の確認のため、バーコード照合システムを 用いて照合を行う場合がある。大学内での教育 ではこのシステムの仕組みや使用する意義、効 果や使い方、注意すべき点等について学ぶ機会 は殆どないため、スライド教材及び資料を作成 し、実務実習にて用いている。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年 8月 2日	近隣の小学校 5、6 年生の希望者を対象に「お 薬の正しい使い方教室」を開催し、その講師を 努めた。その成果については研究報告として学 術雑誌に投稿し、公開されている。
		2020年 8月 9日	病院実務実習や薬局実務実習で学生の指導を行 う「指導薬剤師」を育成するための「認定実務実 習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海（岐 阜）」にて、2019年よりタスクフォースを務め ており、2021年度の第84回、第86回では教育に おける「方略」に関する説明を担当した。
		2021年 11月28日	地域の薬剤師を対象とした研修会である「岐阜 薬科大学附属薬局リカレント講座」にて、新薬 のダブブロック錠の服薬指導のポイントについ て解説を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	2021年 7月15日	講演「公立大学法人制度と ガバナンスの課題」 （中田晃先生）を拝聴し、大学の法人化におけ る課題や今後必要となる取り組み等を学ぶこと ができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
矢島 聖子、西尾 裕斗、島内 あかり、森 美穂、堺 千紘、玉木 啓文、伊野 陽子、寺町 ひとみ、中村 光浩、井口 和弘 公的統計データを用いた薬局の薬剤師数分布に関す る現状調査	共著	2018年 9月	社会薬学 37(Suppl.) 96- 96
島内 あかり、堺 千紘、玉木 啓文、矢島 聖子、森 美穂、西尾 裕斗、山下 修司、野口 義紘、伊野 陽 子、井口 和弘、寺町 ひとみ 小学校5、6年生とその保護者を対象とした岐阜薬科 大学附属薬局での「お薬の正しい使い方教室」の実 施	共著	2021年 11月	日本地域薬局薬学会誌 7(2) 58-66
小長谷 奈美、長内 理大、小俣 江利果、島内 あか り、伊野 陽子、玉木 啓文、山下 修司、野口 義 紘、井口 和弘、寺町 ひとみ 岐阜薬科大学附属薬局における電話相談内容の解析 調査	共著	2020年 9月	医療薬学 46(9) 515-521

森 美穂、島内 あかり、矢島 聖子、西尾 裕斗、玉木 啓文、堺 千紘、長内 理大、伊野 陽子、寺町 ひとみ、中村 光浩、井口 和弘 機能性表示食品の包装の情報記載状況に関する調査	共著	2020年 3月	薬学雑誌 140(3) 443-448
井口 和弘、山下 修司、玉木 啓文、野口 義紘、長内 理大、伊野 陽子、寺町 ひとみ オンラインで実施した薬剤師対象のリカレント講座における受講者満足度に関する調査	共著	2021年 6月	日本地域薬局薬学会誌 9(1) 21-26
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
玉木啓文、岩田麻里、河合琢良、平松秀昭、歌川純平、川瀬晶子、野々村和哉、増田千穂、馬淵晶子、加藤寛子、棚瀬友啓、日比野靖 保険薬局薬剤師のトレーシングレポートの送付状況と送付時に認められる課題の調査		2021年 11月	第54回 東海薬剤師学会大会
樋口柊平、玉木啓文、伊野陽子、長内理大、山下修司、野口義紘、井口和弘、寺町ひとみ 経口ステロイド薬によるHbA1c変動の定量的予測方法の検討		2022年 3月	日本薬学会 第142年会
井口和弘、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、寺町ひとみ オンラインで実施した岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座の受講者満足度調査、第54回日本薬剤師学会大会		2021年 9月	第54回 日本薬剤師学会学術大会
清木静乃、鎗木美帆、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、井口和弘、寺町ひとみ、林秀樹 ステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の実態と特徴		2021年 10月	第31回 日本医療薬学会年会
伊野陽子、小俣江利果、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、井口和弘、寺町ひとみ 保険薬局においてチェックシートを利用し抗がん剤電話フォローを行った一例		2021年 10月	第31回 日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年 9月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海 タスクフォース（講師）		
2020年 11月～現在	岐阜県薬剤師会 医療保険委員会 委員		
2021年 5月～現在	岐阜市の新型コロナウイルスワクチン接種事業への協力（リーダーでの参加あり）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岐阜薬科大学	講座名 薬化学研究室	職名 助教	氏名 辻 美恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年5月10日	(ドラッグデザイン演習:教授指導下) 配布プリントが見にくいという意見があったので、プロジェクターにPCの画面を映して授業を行った。	
	2021年11月4日	板書を消すのが早いという指摘があったので、消す前に確認するようにした。また、質問をうけた項目をまとめたプリントを作成し、学生掲示板に掲示するようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年5月10日	(創薬学演習:教授指導下) PCを使用する授業なので、手順がわかるようなプリントを作成した。	
	2021年11月4日	(有機化学演習:教授指導下) 質問を受けた項目をまとめたPDFファイルを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年8月6日	(オープンキャンパス) オープンキャンパスに参加した高校生相手に蛍光物質を用いた実験を行った。	
	2019年4月6日	(入学式後のキャンパス案内) 入学式後に機器センター委員会の仕事として、キャンパス見学会に従事した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2017年9月1日	An Organic & Biomolecular Chemistry Poster Prize at the 27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress において、小池晃太がポスター賞を受賞した。Structural Modification and Biological Evaluation of Quinomycin Antibiotics Focusing on Cross-bridge Structures of Bicyclic Depsipeptide	
	2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題」という講習会に参加し、大学生が陥りがちなメンタルヘルスのケアなど保健管理部門の重要性について説明を受けた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
S. Takatani, T. Tahara, M. Tsuji, D. Ozaki, N. Shibata, Y. Hashizume, M. Suzuki, H. Onoe, Y. Watanabe and H. Doi Synthesis of L-[5- ¹¹ C]Leucine and L- α -[5- ¹¹ C]Methylleucine via PdO-mediated ¹¹ C-Methylation and Microfluidic Hydrogenation: Potentiality of Leucine PET Probes for Tumor Imaging.	共著	2021	ChemMedChem, 16 (21), 3271-3279
T. Sakai, Y. Matsuo, K. Okuda, K. Hirota, M. Tsuji, T. Hirayama and H. Nagasawa Development of antitumor biguanides targeting energy metabolism and stress responses in the tumor microenvironment.	共著	2021	Sci Rep., 11(1), 4852-4867
K. Koike, M. Nagano, M. Ebihara, T. Hirayama, M. Tsuji, H. Suga and H. Nagasawa Design, Synthesis, and Conformation-Activity Study of Unnatural Bridged Bicyclic Depsipeptides as Highly Potent Hypoxia Inducible Factor-1 Inhibitors and Antitumor Agents	共著	2020	J. Med. Chem. 63(8), 4022-4046

A. Isono, M. Tsuji, Y. sanada, A. Matsuhita, S. Masunaga, T. Hirayama and H. Nagasawa Design, Synthesis, and Evaluation of Lipopeptide Conjugates of Mercaptoundecahydrododecaborate for Boron Neutron Capture Therapy	共著	2020	ChemMedChem, 14 (8), 823-832
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
M. Tsuji, H. Taira, T. Hirayama and H. Nagasawa Development of photoactivatable oxidative stress inducer		2021年11月29-12月2日	AIMECS2021
H. hirayama, K. Kawai, M. Tsuji, T. Murakami, M. Inden and H. Nagasawa Development of a heme-selective fluorescent probe		2021年11月29-12月2日	AIMECS2021
T. Kariya, K. Dodo, D. Mizutani, M. Tsuji, T. Hirayama, M. Sodeoka, O. Kozawa and H. Nagasawa Pepducin-directed fluorescent labelling of PAR1 for identification of target region		2021年11月29-12月2日	AIMECS2021
平良遥乃、辻美恵子、平山祐、永澤秀子 ミトコンドリアを標的とする光感受性ケージド酸化ストレス誘導剤の開発研究		2021年10月30日-31日	第52回中化連
畑佐孝輝、峯垣七帆、高橋圭太、辻美恵子、井上直樹、腰塚哲朗 ローヤルゼリー由来タンパク質が持つ抗炎症効果の解析		2021年11月27日	第12回岐阜薬科大学健康食品研究講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年10月	創薬人育成スクールアドバンスコース（2017岐阜薬大）の主催スタッフとして参加		
2018年2月	第21回 菅原・大西記念 癌治療増感シンポジウム in 奈良の主催スタッフとして参加		
2021年8月	ワクチン調整業務への従事		
2017年	日本薬学会（一般会員）		
2017年	日本ケミカルバイオロジー学会（一般会員）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	生薬学研究室
職名	助教	氏名	幅 愛実
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年5月14日	(生薬学実習) 複数の工程をともなう実験操作は一度に説明せず、一区切りごとに行うことにより内容を理解しやすいように努めた。また言葉では伝わりづらい内容に関しては、実際に目の前で操作することでわかりやすく解説した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年7月31日 ・8月1日	オープンキャンパスにおいて、高校生に漢方製剤の軟膏を調製する体験をしてもらった。
		2018年8月6日 ・7日	オープンキャンパスにおいて、高校生に漢方製剤の軟膏を調製する体験をしてもらった。
		2019年8月2日 ・5日	オープンキャンパスにおいて、高校生に漢方製剤の軟膏を調製する体験をしてもらった。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	「公立大学法人制度とガバナンスの課題」(中田晃先生)の講演を拝聴し、公立大学の現状や法人化の仕組みについて理解が深まった。
		2021年12月1日	「弁理士による特許入門セミナー」(野村和弘先生)の講演を拝聴し、大学研究者が特許出願する際の注意点を学ぶことができた。
		2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題」(山本眞由美先生)の講演を拝聴し、悩みを抱える学生との関わり合い方について理解が深まった。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)
	Koki Mori, Aiko Shimogomi, Naohito Abe, Manami Haba, Tomoaki Yoshimura, Joko Ridho Witono, Dedy Darnaedi, Toshiyuki Tanaka, Jin Murata, and Masayoshi Oyama: Three New 5,6-Dihydro- α -pyrones Isolated from <i>Cryptocarya nitens</i>	共著	2018年1月
			Heterocycles 96, 1583 - 1591
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
			学会名
	幸野 寛子、幅 愛実、阿部 尚仁、田中 稔幸、邑田 裕子、大山 雅義 マンサク科 <i>Sycopsis sinensis</i> のフェノール性成分に関する研究 (2)		2021年9月19日
			日本生薬学会第67回年会
	寒川 祐成、幅 愛実、阿部 尚仁、邑田 裕子、大山 雅義 イロハモミジ (<i>Acer palmatum</i>) の成分研究		2021年9月19日
			日本生薬学会第67回年会
	毛良 陽介、阿部 尚仁、幅 愛実、大山 雅義 カヤツリグサ科植物の成分研究 (10) テンツキの成分研究		2021年9月19日
			日本生薬学会第67回年会
	普久原 朝樹、阿部 尚仁、幅 愛実、大山 雅義 マメ科 <i>Crotalaria breviflora</i> の成分研究		2021年9月19日
			日本生薬学会第67回年会

幅 愛実、阿部 尚仁、水野 なぎ沙、神谷 哲朗、大久保 智史、山浦 高夫、原 宏和、大山 雅義 ホワイトサポテのフラボノイドに関する研究	2021年11月27日	第12回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2016年7月～現在	日本薬学会（一般会員）	
2016年7月～現在	日本生薬学会（一般会員）	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	地域医療実践薬学研究室
職名	助教	氏名	山下 修司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫	2021年11月19日	(総合臨床薬学) 薬剤師が地域住民等から求められる活動は年々変化している。常に最新の知見を理解したうえで実務実習に臨んでもらうために毎年講義内容をアップデートしている。学生から個別に要望や不満はなかったため、講義内容や資料に問題はないと考える。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年1月	モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト2019-2020(株式会社じほう)を分担執筆した。
		2020年8月	モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト2021-2022(株式会社じほう)を分担執筆した。
		2021年11月19日	総合臨床薬学の講義で使用するレジュメを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年8月18日	岐阜県薬剤師会、本学他共催の高校生向けイベント「薬剤師体験フェスティバル2019 in GIFU」において、本学カリキュラムや特色について講演を行った。
		2021年7月12日	西郷小学校での薬物乱用防止出前講座において講師を務めた。(各年度1回ずつ、計5回)
		2021年10月16日	附属薬局リカレント講座において地域の薬剤師を対象に服薬指導のポイントについて講演を行った。(各年度1回ずつ、計5回)
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月14日	講演「公立大学法人制度とガバナンスの課題」(中田 晃先生)を拝聴し、独法化するにあたってのメリット及びデメリットについて理解を深めることができた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Yokoyama S., Yajima S., Sakai C., Yamashita S., Noguchi Y., Ino Y., Iguchi K., Teramachi H.: Community pharmacist-led telephone follow-up enabled close management of everolimus-induced adverse events in an outpatient with metastatic breast cancer	共著	2017年11月	Can Pharm J (Ott), 150, 6, 362-365
Yamashita S., Iguchi K., Noguchi Y., Sakai C., Yokoyama S., Ino Y., Hayashi H., Teramachi H., Sako M., Sugiyama T.: Changes in the quality of medicines during storage under LED lighting and consideration of countermeasures	共著	2018年12月	Journal of pharmaceutical health care and sciences, 4, 12 DOI: 10.1186/s40780-018-0108-0
Yamashita S., Iguchi K., Noguchi Y., Sakai C., Yokoyama S., Ino Y., Hayashi H., Teramachi H., Sako M., Sugiyama T.: Color change in Perlodol® tablets induced by LED lighting - photolysis of bromocriptine mesylate	共著	2019年5月	Pharmazie, 74, 5, 286-289
小長谷奈美、長内理大、小俣江利果、島内あかり、伊野陽子、玉木啓文、山下修司、野口義紘、井口和弘、寺町ひとみ: 岐阜薬科大学附属薬局における電話相談内容の解析調査	共著	2020年9月	医療薬学、46、9、515-521

井口和弘、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、寺町ひとみ：オンラインで実施した岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座の受講者満足度調査	共著	2021年	日本地域薬局薬学学会誌、9、21-26
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
井口和弘、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、寺町ひとみ オンラインで実施した岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座の受講者満足度調査		2021/9/19-20	第54回日本薬剤師会学術大会
長内理大、小長谷奈美、小俣江利果、伊野陽子、玉木啓文、山下修司、野口義紘、井口和弘、寺町ひとみ 岐阜薬科大学附属薬局における「SGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendation」をふまえた服薬指導の現状調査		2021/9/11-12	第9回日本くすりと糖尿病学会学術集会
伊野陽子、小俣江利果、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、井口和弘、寺町ひとみ 保険薬局においてチェックシートを利用し抗がん剤電話フォローを行った一例		2021/10/9-10	第31回日本医療薬学会年会
清木静乃、鍋木美帆、山下修司、玉木啓文、野口義紘、長内理大、伊野陽子、井口和弘、寺町ひとみ、林秀樹 ステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の実態と特徴		2021/10/9-10	第31回日本医療薬学会年会
山下修司、石原ののこ、清木静乃、林秀樹 irAE チェックシート内容の実態調査及びJADER を用いた有用性評価への試み		2021/11/6-7	第15回日本薬局学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年度～現在	学校薬剤師（西郷小学校、西郷保育所）		
2019年10月20日	岐阜市総合防災訓練への協力（モバイルファーマシー派遣）		
2018年～現在	岐阜県薬剤師会総務委員会 防災グループ 委員		
2021年5月～2022年1月末現在	岐阜市新型コロナウイルスワクチンの集団接種に係る薬剤師派遣（8回）		
2021年7月10日	第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会 実行委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	薬品化学研究室
職名	助教	氏名	山田 強
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年12月20日	(有機化学実習・薬学基礎実習) 工業的な利用方法についてや、危険性・社会的意義についても説明しながら実習を行った。
		2021年12月20日	(有機化学演習) 問題によっては丁寧な解説を心掛け、実用化の例や研究室での実際の有機合成方法についても織り交ぜることで、学生の有機化学に関する興味をひく講義を心がけた。アンケートでもわかりやすくなったと評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月1日	(有機化学演習) アンケートを参考に、演習だけでは学習が足りない部分や、問題の補足説明が必要な個所について、資料を作成して、説明と配布を行った。
		2020年4月1日	ドラッグデザイン演習講義のマニュアルを作成した。①化合物構造記入ソフトChemDrawを初めて使用する学生が多いことから操作手順書も作成し配布した。②多数の写真付きで分かりやすいものを工夫して作成した。アンケートでは質・量ともに適切でわかりやすいとの評価を受けている。
		2021年4月1日	(有機化学実習・薬学基礎実習) 実習講義のためのスライドを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年10月10日	2回生進級ガイダンスで、2回生をはじめ学生の大学院進学意欲向上のための発表を行なった。
		2019年11月5日	オープンキャンパスと岐阜市才能開花教育事業で中学・高校生に有機化学実験を体験してもらった。大学案内ではNMRの薬学・医学的应用について説明した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月1日	「弁理士による特許入門セミナー」(野村 和弘先生)を拝聴した。
		2021年12月31日	2021年開催の学会において、下記5名の指導学生が優秀賞を受賞した。日本薬学会第141年会において、古堅力さんが学生優秀発表賞(口頭発表の部)を受賞。第67回日本薬学会東海支部大会において石田萌華さんが学生優秀発表賞を受賞。第52回中部化学関係学協会支部連合大会でB6の藤井明子さんとB5の古堅力君が有機化学一般発表における優秀賞を受賞。第119回有機合成シンポジウムで修士課程2年の寺西航君が「優秀ポスター賞」を受賞。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Tsuyoshi Yamada,* Kwihwan Park, Chikara Furugen, Jing Jiang, Eisho Shimizu, Naoya Ito, Hironao Sajiki,* Highly Selective Hydrogenative Conversion to the Tertiary, Secondary, and Primary Amines of Nitriles under Flow Reaction Conditions	共著	2022年1月	Wiley, ChemSusChem, 15, e202102138
Kwihwan Park, Jing Jiang, Tsuyoshi Yamada*, Hironao Sajiki,* Ruthenium-on-Carbon-Catalyzed Facile Solvent-Free Oxidation of Alcohols: Efficient Progress under Solid-Solid (Liquid)-Gas Conditions	共著	2021年12月	日本薬学会, Chem. Pharm. Bull., 69, 1200-1205

Fumika Wakayama, Ryo Ito, Kwihwan Park, Moeka Ishida, Yutaro Yamada, Shuta Ichihara, Hitoshi Takada, Shinji Nakamura, Ayumu Kato, Tsuyoshi Yamada, Hironao Sajiki,* Yasunari Monguchi,* Esterification or thioesterification of carboxylic acids with alcohols or thiols using amphipathic monolith-S03H resin	共著	2021年12月	CSJ, Bull. Chem. Soc. Jpn., 94, 2702-2710
Tsuyoshi Yamada*, Kwihwan Park, Hironao Sajiki*, Homogeneously-Catalyzed Aromatic Reduction, Industrial Arene Chemistry: Markets, Technologies	共著	in press	Wiley-VCH, Chapter 29, 46ページ, 2021, in press
Tsuyoshi Yamada*, Kwihwan Park, Takumu Tachikawa, Akiko Fujii, Matthias Rudolph, A. Stephen K. Hashmi, and Hironao Sajiki,* Gold-Catalyzed Cyclization of 2-Alkynylaldehyde Cyclic Acetals via Hydride Shift for the Synthesis of Indenone Derivatives	共著	2020年1月	ACS, Org. Lett., 22, 1883-1888
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
○Tsuyoshi Yamada, Development of H-D exchange reaction under continuous-flow conditions		2021/7/7-8	DEUNET Virtual meeting
○山田強, 朴貴煥, 藤井明子, 古堅力, 高木晃, 井川貴詞, 佐治木弘尚, アルキニルアセタールを基質としたルイス酸触媒的分子内転位/環化反応の開発		2021/10/2, 4, 5	第52回 中部化学関係学協会支部連合秋季大会
○藤井明子・山田強・朴貴煥・古堅力・佐治木弘尚、ルイス酸触媒的分子内環化反応によるフェナントレン誘導体の合成		2021/10/30-31	ルイス酸触媒的分子内環化反応によるフェナントレン誘導体の合成
○山田強、モノリス状カチオン交換樹脂を用いたチオエステル化・エステル化反応の開発		2021年12月8日	第3回ファーマラボEXPO東京 医薬品研究開発 アカデミックフォーラム
○Tsuyoshi Yamada, Kwihwan Park, Stephen Hashmi, Hironao Sajiki, Efficient synthesis of indenone derivatives via gold-catalyzed hydride shift of 2-alkynylaldehyde cyclic acetals		2021/12/16-22	Pacificchem2021 ~2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies~
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013~現在	有機合成化学協会一般会員 協会誌特集号掲載の総説執筆 (2021)		
2011~現在	日本薬学会 (一般会員) 参加発表、ファルマシアコラム掲載2回 (2018, 2021)		
2021/7/20	コロナウイルスワクチンの調剤業務		
December 19-20, 2021 Zoom (Online)	Pacificchem2021 Development of New Reactions and Technologies Adaptable to Process Chemistry Session 1-3 運営・実行		
2021年9月10日 (金)	第1回若手重水素研究会, 運営・実行委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岐阜薬科大学	講座名	生化学研究室
職名	助教	氏名	吉野 雄太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年11月25日	(生物化学実習) 実習を通じた理解が深まるように適切な量となるよう工夫している。理解度の把握のため口頭試問を導入したところ、より学習効果が高まったと思われる。また、アンケートから、TAによる指導体制が丁寧でわかりやすく良いという回答が多数あり、TAも含めた指導を継続している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年10月15日	(生物化学実習) アンケートに基づいて理解しやすい内容・表現に改訂した実習書を配布し、実習講義を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年11月5日	岐阜市内の中学校・高等学校において、薬学部や研究者キャリアに関する講義を行った。
		2021年6月5日	2021年度大学院入試説明会において、入学希望者に対する個別相談員として、本学大学院の入試制度やカリキュラムについて説明した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年11月21日	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2020において、指導学生(松永遙香)が演題「シアニジンによる細胞間接着分子claudin-2の発現低下を介した抗癌剤感受性の亢進」を発表し、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。
		2021年12月1日	「弁理士による特許入門セミナー」(野村 和弘先生)を拝聴し、特許出願時のポイントについて理解を深めた。
		2021年12月8日	「大学保健管理における最近の話題」(山本 眞由美先生)を拝聴し、問題を抱えた学生に対する大学人としての対応について理解を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称			
吉野 雄太、五十里 彰、尿管におけるCa ²⁺ 、Mg ²⁺ の動態：TRPチャネル		共著	2021年5月
株式会社東京医学社「腎と透析」90巻5号(2021年5月増大号)			
Yoshino Y., Marunaka K., Kobayashi M., Matsunaga H., Shu S., Matsunaga T., Ikari A.: Protective Effects of Ethanol Extract of Brazilian Green Propolis and Apigenin against Weak Ultraviolet Ray-B-Induced Barrier Dysfunction via Suppressing Nitric Oxide Production and Mislocalization of Claudin-1 in HaCaT Cells		共著	2021年9月
International Journal of Molecular Sciences 22(19) 10326-10326			
Hirota C., Takashina Y., Yoshino Y., Hasegawa H., Okamoto E., Matsunaga T., Ikari A.: Reactive Oxygen Species Downregulate Transient Receptor Potential Melastatin 6 Expression Mediated by the Elevation of miR-24-3p in Renal Tubular Epithelial Cells.		共著	2021年7月
Cells 10(8)			

Ito A., Nasako H., Akizuki R., Takashina Y., Eguchi H., Matsunaga T., Yoshino Y., Endo S., Ikari A. : Elevation of Chemosensitivity of Lung Adenocarcinoma A549 Spheroid Cells by Claudin-2 Knockdown through Activation of Glucose Transport and Inhibition of Nrf2 Signal	共著	2021年6月	International Journal of Molecular Sciences 22(12) 6582-6582
Hirota C., Takashina Y., Ikumi N., Ishizuka N., Hayashi H., Tabuchi Y., Yoshino Y., Matsunaga T., Ikari A. : Inverse regulation of claudin-2 and -7 expression by p53 and hepatocyte nuclear factor 4 α in colonic MCE301 cells.	共著	2020年12月	Tissue barriers 9(1) 1860409-1860409
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Yuta Yoshino, Kana Marunaka, Mao Kobayashi, Haruka Matsunaga, Shokoku Shu, Toshiyuki Matsunaga and Akira Ikari: Protective effects of flavonoids against weak UVB-induced barrier dysfunction via suppressing nitric oxide production and mislocalization of claudin-1 in HaCaT cells.		2021年12月6日	51st NIPS International Symposium "Frontiers in Epithelial Cell Biology"
吉野 雄太、丸中 歌菜、小林 真緒、松永 遥香、周 暁鶴、松永 俊之、五十里 彰：微弱UVB誘発皮膚バリア破綻に対するアピゲニンの保護作用		2021年11月3日	第94回日本生化学会大会
伊藤 綾夏、奈迫 遥華、秋月 梨佐、高階 優衣、吉野 雄太、遠藤 智史、松永 俊之、*五十里 彰：肺腺がんスフェロイド細胞におけるクロロディン-2によるNrf2シグナルの活性化と抗がん剤抵抗性の獲得.		2021年11月3日	第94回日本生化学会大会
吉野 雄太、丸中 歌菜、小林 真緒、松永 遥香、周 暁鶴、松永 俊之、五十里 彰：フラボノイドによる微弱UVB誘発皮膚バリア破綻に対する保護作用		2021年10月30日	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2021
吉野 雄太、照屋 達己、松永 遥香、石川 吉伸、五十里 彰：クロロディン-1 (CLDN1) の司る表皮バリアに対する可逆的皮膚透過促進剤の開発		2021年5月22日	第85回日本生化学会中部支部例会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年9月～	生理研研究会（上皮膜輸送グループ）の主催スタッフとして運営に関与		
2021年4月～	日本生化学会（一般会員）		
2021年4月～	日本生理学会（一般会員）		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率 在学者数は休学者数除く

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	140	140	100
2年	113	111	98
3年	125	124	99
4年	130	130	100
5年	113	110	97.3
6年	78	74	94.9

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	66	46
麻疹	31	55
水痘	101	12
ムンプス	33	48
B型肝炎	2	21

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	講義室 大(本部キャンパス)	150	2	300	可動席各6席 1室はCBTにも使用
	大講義室(三田湖キャンパス)	187	1	187	全て固定席
	中講義室(三田湖キャンパス)	150	4	600	全て固定席
	小講義室(三田湖キャンパス)	80	4	320	全て可動席
	セミナー室(本部キャンパス)	9	6	56	全て可動席
	コンピュータ演習室(三田湖キャンパス)	45	1	45	本部キャンパスには、情報検査室に12台のコンピュータがある
	実習室(三田湖キャンパス)	120	7	840	1～3年生の実習で使用
実習室	事前学習実習室(本部キャンパス)	6～25	5	100	無菌製剤室、注射薬調剤実習室、調剤実習室、コミュニケーション実習室、TDM実習室
	160	80	2	160	試験期間中のみ、上記の中講義室3室を自習室として開放。 常時開放自習室は、図書館にある(基礎資料12)
自習室等 ³⁾	図書閲覧室(本部キャンパス)	34	1	34	本部キャンパスには、独立した自習室はなく、図書閲覧室を自習室として使用
	薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所 薬学部キャンパス外に2か所(岐阜市、高山市) ② 施設の構成と規模 約9,200㎡に栽培圃場と標本園、温室、管理棟、キャンパスから4km(岐阜市)、山林を含む約33,000㎡に栽培圃場と管理棟、標高1500m付近、キャンパスから150km(高山市) ③ 栽培している植物種の数 117科約700系統の植物を保存栽培 ④ その他の特記事項 公益社団法人日本植物園協会に加盟(理事園)、昭和60年より通年(4月から10月)の一般公開を実施。			

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に記入してください。
- 3) コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください(教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1),2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備考
教員個室(教授室など)	25m ²	1人	43	個室は教授・准教授・一部の講師。一部の講師・助教は実験・研究室にデスクがある。
実験室・研究室(本部)	146m ²	20人	22	22研究室
実験室・研究室(三田洞)	77m ²	3人	2	3研究室、うち1つの研究室は教員室と実験・研究室を兼ねる。
セミナー室	22m ²	9人	6	2階2室、4階1室、5階1室、6階1室、7階1室
共用機器室	38m ²	10人	6	生物機器室3室、物理機器室2室、共通機器室1室

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用)占有する施設があれば、記載してください。
- 3) 実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 4) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 5) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 6) 薬学部の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1),2)}	室数	施設の内容
大型測定器室	8	NMR室、電顕室(2)、MASS室、元素分析室、ESR室、粉末X線室、製薬工場
実験動物施設	4	動物飼育室(3)、動物飼料倉庫
RI実験施設	15	実験室(2)、培養実験室(3)、汚染検査室、低温実験室、貯蔵室、廃棄物保管室、倉庫、破棄作業室、測定室、暗室、遠心機室、管理室
遺伝子組換え施設	4	組換え培養室(2)、組換えDNA実験室、微生物培養室
その他の施設	4	高圧反応室、低温室(2)、植物培養室

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備考 ³⁾
図書館 ⁴⁾ (三田洞キャンパス)	85	360	24	第1講義室 第3講義室	160	・PC23台 ・文献検索用PC1台	薬学部 360名
図書閲覧室 ^(本部キャンパス)	34	373	9				薬学部 320名 大学院 53名
計	119	733	16		160		

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用して全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているかを記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
岐阜薬科大学 附属図書館 および 本部図書閲覧室	66,068	66,068	626	438	486	74	263	256	315	
計	66,068	66,068	626	438	486	74	263	256	315	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。